

り地味は膏腴なるが氣候人身に適せずして雨多く颶風屢起る。
 人口は一九〇二年に於て二萬八百三十二人あるがポリネシア派の土人
 大部を占む土人は漸次減少するの傾向を呈するがキリスト教を奉せり、一
 八八九年に結ばれたるイギリスドイッ協約はトンガ王國をしてイギリ
 スの保護の下に立たしめたり、世襲貴族議員及び人民の公選議員より成る立
 法議會を備ふ、貿易は一九〇四年に於て「コブラー」果物等の凡百七十三萬マ
 ルクを輸出し百十七萬マルク近くの輸入ありたり。
 首邑ヌクアロフタ(Nuku'alofa)は平低なるトンガタブ島にありてトンガ諸島
 の主港を控え君主の居住する處なり。

クック諸島 クック(Cook)諸島即ちヘルベレー諸島はサモアの南東一千百三十料に位
 し尤島より成る。ニウハ(Niue)ノーバーンストン(Palmerston)ヌアロフタ(Suafo'u)ラカハン
 ガ(Rakahanga)ノニロギ(Mamihiki)トシガナ(Tonga reva)等を合はするも地積四百九十二
 方料、人口一萬二三千に過ぎずして行政上新ゼーランドに屬せり、駐在官は本諸島
 中のラロトンガ島にあり。

ソシエテ諸島

ソシエテ(Societe)諸島は或はタヒチ諸島とも云ふ、南緯

約十六度乃至十八度、西經凡百四十八度乃至百五十五度にありて主軸は北
 西より南東に亘ること凡三百二十料にして面積一千六百五十方料あり、總
 計十二島より成り、東群は風諸島又はタヒチ諸島と云ひ、西群は風下諸島と
 呼ばる、各島概々火山質にして珊瑚礁を有す、氣温は二十一度乃至二十八度な
 るも變化少なくて健康を害せず。

本諸島は一千八百八十八年に至りてフランス共和國所領と成れり、今日に
 於てはツブアイ、ツアモツ、カンビエー、ツブアイ、等より成れるフランス領オセ
 アニア殖民地^{四一四〇〇〇}方料の主要部を爲し知事の支配の下にあり。

タヒチ(Tahiti)島はソシエテ諸島中の最大島一五五四方料なり、低き地峽
 に依りて連接せられたる二つの圓形の地より成りて熔岩質の噴出物より構
 成せらる、沃地は沿岸に存するのみなるが「ココヤシ」「バナナ」柑類、甘蔗等の産
 あり、首邑パペーテ(Papeete)は約四千三百人の人口を有し良港を控ゆ。

ツブアイ諸島 ツブアイ(Tuvalu)諸島、二八六方料
 一七八三人はソシエテの南にあり、ツブ
 アイ、ルルツ、リミヤラル、等の島嶼より成り、四つの主島は火山質にして珊瑚礁の圍繞

世界地理提要

おせあにあ洲 ポリネシア

あり、氣候頗る人身に適せり。

ツアモツ諸島 ツアモツ(Tuanou)諸島、五三七三三方料即ちバウモツ諸島はリシエテの東にありて北西より南東に亘ること一千五六百方料なるが凡そ八十箇の環礁より成り地勢平低なり、ココヤシ、真珠を産す。

マルキーズ諸島

マルキーズ(Marqueses)諸島、四三〇四方料は十一の主島

より成るが海岸は殆ど珊瑚礁を繞らすことなく、凹入少なからざるも風の爲に接觸の困難を感ずることあり、内部は火山質にして各島概九百米突に達す、氣候は一般に健康を害せず、駐在官は本諸島の最大島なるヌカヒワ島の南岸タイオハイ(Taiouhai)に住す。

ラパヌイ島

ラパヌイ(Rapanui)島はイギリス人のイースター島なるがタヒチ及び

南アメリカを距ること凡そ三千六百料の處にありて若干の消火山を有し、濕氣に乏しく草木の生育は甚だしく盛ならず、本島はチレーに屬せり。

サライユメス嶼

サライユメス(Sala y Gomez)嶼、即ち東島はギリキシアの最東嶼、

聖オセアニア洲の極東地にして亦チレーに屬せり。

おせあにあ洲終

ヨーロッパ洲

● 總論

名稱 ヨーロッパ(歐羅巴)はユーロップ、エウロップ、オイロバ、等とも呼ばる、此の名稱はフェニキアのエウロバなる婦人の名に基づけりとし、或は「エウルス」の南東風より來れりとするあり、又ペロポネソス及びギリシア諸島に對してメラキアの主部を稱せし名が大陸全部の稱に用ひられしものにして、廣地の義なりとするもあれども、フェニキア人が興へしエレブ(Erebus) 暗黒、日没より起れりとするを以て適當とす。

位置 ヨーロッパ洲は舊大陸の北西部に於ける陸地なるが、一大洲を形成すと云ふよりは寧ろ、アジア洲の半島と稱すべし、蓋し本洲は西より東に越くに從ひて漸次に増大し、スンダ諸島よりベーリング海峡に至るの地を以て東邊とする。一大梯形の西邊と認むるを得ればなり、而して此のエウラシア(Eurasia)

世界地理提要 ヨーロッパ洲 總論

Asia)の地を分ちてアジア及びヨーロッパの二大洲と爲すは古來の習慣にして單に歴史的價値を有するに過ぎずカフカズツラルの二山脈は以て天然の區劃を爲すに足らずバルカンアナトリアの二半島は鏈鎖的に排列せらるる數多の島嶼に依りて連綴せられ地中海も亦自然の境界たる資格を有せずしてアフリカの北岸とエスパニアとの差異はヨーロッパの南岸とバルト海の沿岸地との間に存する差より著しからず要するに地中海は其の沿岸にアジアアフリカヨーロッパの三大洲を集め各洲をして其の特徴を失はしめんと務むるに似たり且又西端の大西洋に於けるもイスラントとグリーンランドとはヨーロッパとアメリカとをして互に相關連せしめんとせり。

茲に本洲全部の四極點を示さんに

極南	クレテ(カンデア)島	北緯	三五 ^度 〇五 ^分
極北	ノバヤゼムリア島	北緯	七六 五五
極東	カラ河の水源	東經	六六 二〇
極西	イスラント島	西經	二二 三〇

極地

更に大陸部の四極を示せば

極南	タリフ岬	北緯	三六 ^度 〇〇 ^分
極北	ノルドキン岬	北緯	七一 〇五
極東	カラ河の水源	東經	六六 二〇
極西	ロカ岬	西經	九 三〇

境域 本洲は北に北極洋北西及び西に大西洋南に地中海を控ゆるを以て三方は海に面せるが南東はマニチ沼河境とカフカズ山脈を以てカスピ海を隔て東はウラル河ウラル山脈を挟みてアジア洲に隣接せり。

本洲は東西に長くして南西のロカ岬より北東のワイガチ海峡に達する最長徑は五千六百五十軒に亘れるがクレテ島より北岬に至る南北は四千軒を有するに過ぎず。

本洲は舊世界の三大洲中最小なるものにしてオセアニア洲より稍大なるが地積は凡一千萬方軒ありてアジア洲の四分の一に達せず地球全陸地の約十四分の一に當れり而してヨーロッパの面積の百分中二十七は半島にして八弱は島嶼の占むる所なれば幹部は全洲の三分の二に過ぎず。

世界地理提要 よーろっば洲 總論

廣袤

積面

海岸 本洲は五大洲中最、海岸の曲屈に富めるものなれば、海岸線の延長は比較的、大にして、實に三萬二千軒に達せり、其中五千八百軒は北極洋にありて、一萬三千五百軒は大西洋并に屬海に接し、一萬二千七百軒は地中海及近海に屬せり、而して本洲に屬する海岸の状態が各處同じからざるは、勿論なれども、地中海并に大西洋の沿岸は岩礁多く、絶壁に富みて、甚しき屈曲を呈せるに反し、内海の沿岸は概、平低にして、河口の外には著しき彎曲を見ることなし。

- 北極洋
 - カラ海
 - チェスカイア海
 - 白海
 - ボスニア海
 - ドナ海
 - バルト海
 - フィンランド海
 - 北海
 - ソイアルセル海
 - アイスランド海
 - アイスランド海
 - ビスカヤ海
 - カヂス海
- 大西洋
 - アイルランド海
 - ブリストル海
 - リオン海
 - ジェノバ海
 - チルレニア海
 - イオニア海
 - アドリア海
 - エーゲ海
 - マルマラ海
 - 黒海
 - アゾフ海
- 地中海
 - アゾフ海
 - アトリア海
 - エーゲ海
 - マルマラ海
 - 黒海
 - アゾフ海
- 北部
 - ワイガチ
- 北西部
 - スカゲラク
 - カタガット
 - スンド
 - 大ベルト
 - 小ベルト

海峽

ドーバー イギリス水道 北水道 セントジージ

南部

ジブラルタル メシナ オトラント

南東部

ダルダネル ボスポロス ケルチ

半島

北部 カニン コラ スカンデナビア ユトランド ブルターニ

南部

イベリア イタリア カラブリア バルカン モレア クリミア

地角

北部 氷岬 ノルド リンデスネス

地角

北西部 ファルステルボ スカゲン ウラス ランツェンド

南部

クリアー サンマチュー フィニステラ セントビンセント

地峽

コリント ペレロップ

北極洋

スピツベルゲン 群島 ノバヤゼムリヤ 諸島 コルグアイエフ島

大西

ダンマルク 諸島 シェラン島 ボルンホルム島 オランダ島

大西

ゴトランド島 エゼル島 ダゴ島 オーランド 群島 テクセル島

島嶼

ヘルゴランド島 ワイト島 ノルマンディー 諸島 イスラント島

地中海	マルタ島	シクラデス諸島	スボラデス諸島
	バルタル諸島	イオニア諸島	セリゴ島
	コルシカ島	サルデニア島	シチリア島
	ダルマチア群島	イオニア諸島	セリゴ島
	シチリア島	シクラデス諸島	スボラデス諸島

大陸部

半島部

地勢 本洲は地勢上分ちて二分と爲すを得べし、其の大陸部はバイヨンヌよりアストラハンに至る線とバイヨンヌよりカラ海に至る線との間にありて、其の半島部は本洲の南部と北西部とに存するが、本洲は既に其の地形を完成せしもの如し、蓋し火山は概其の活氣を失ひて僅にイスタンブール、シチリア島等の一部に餘力を顯すに過ぎず、而して海岸には多少の變動ありて水陸の配布に幾分かの差異を生ずるも大體の形状を變更するに足らず、且又本洲はアフリカの臺地に於けるが如く、又はアメリカの平地沿海山脈に於けるが如く、特殊の地貌に偏せざるにあり、本洲の高地は中央に彙集して周旁に傾斜せり、之を高地、ヨーロッパとす、ツールーズ、ミンデン、ホクツァ

ニを頂點とする三角の形状を呈供し、平均海拔は三百五十米突なるが、主要の山塊はアルプ山脈にしてフランス山麓、ドイツ山脈、カルパット山脈は之が從屬なり、又此山地の東北及び西に當り大平野の存するありて、ウラル山脈の外には微々たる丘陵又は臺地を見るに過ぎず、而して南に當りては廣狹の一樣ならざる地峽に依りて數個の半島を分派せり、之を要するにヨーロッパ山岳の直立がアジアの山岳に及ばざるや遠くアルプ山脈の最高處も四千八百十米突に過ぎず、而して本洲の大部分は北方の平野なるが、之に内部の平低の地并に多少の窪地を加ふれば、ヨーロッパの平均海拔は五大洲中の最低なるものにして三百米突を超過せざるべし。

山誌 土地の起伏より考ふるときは、本洲の山岳を三群に分つを以て適當とす、其の一は南部山脈にして、山岳重厚、高度顯著なるがアルプ山脈は之が盟主たり、其の二は中央山脈にして、カルパット、ピレネーの兩山脈の間に亘れるものなるが、高度は著しからず、其の三は北部山脈にして、ブリタニアの山脈并にスカンデナヴィアの山脈より成れり、而してイスタンブールの山岳は

三群以外にありとす。

- 南部山脈
- アルプ山脈
 - メルブー(四一〇三) モンテラン(四八二〇) ロザ(四六三八)
 - メルニナ(四〇〇〇) グロスグロックネル(三七九九) ガルトベル(三九〇五)
 - カルパット山脈
 - タトラ(二六六三) ビエトロヌツ(二二〇〇)
 - イリリア山脈
 - チナリアアルプ
 - バルカン山脈
 - リロダ(二九三〇) チェロダ(三〇五〇)
 - ピンド山脈
 - オリンピア(二九七三)
 - クレテ山脈
 - イダ(二五〇〇)
 - アペニン山脈
 - グランサツ(二九二二)
 - コルス山脈
 - モンテシント(二七一〇)
 - サルデニア山脈
 - ジエンナルジエンチ(一七九五)
 - ピルネー山脈
 - マラテツタ(三四〇四) マルツ(三三五二)
 - カンタブリア山脈
 - ピコスデエカロツ(二六七八) シエラテグレス(二五九二)
 - フランス中央山脈
 - モンドール(一八八六)

アルプ山脈

アルプ山脈。アルプは最も有名なる山脈なり、其の境界はアペニン山脈と結合する處に於ける外は甚だ分明なるが、其の基底は約二十三萬方呎に達し、總延長は一千一百呎に近く、幅はモンドピ、ジエノ、マ間の四十八呎を最小とし、ペロナの子午線に於ける二百五十七呎を最大とす、本山脈を四、中央東の三部に分ちて主要なる山岳を記せば左の如し。

(沿海アルプ アルジエンテラ(三三九七))

世界地理提要 よーろば洲 總論

中央山脈

- ジッラ山脈
 - クレードラノネツ(一七〇〇)
- ペーメン山嶽
 - シッネーゴツ(一六〇二)
- ポージッ山脈
 - グランメロン(一四二六)
- 黒林山脈
 - ヘルドメルグ(一四九五)
- エールス山脈
 - スノードン(一〇八九)

北部山脈

- グランピア山脈
 - ベンチピス(一三四三)
- スカンデナビア山脈
 - イメンヘルド(二五六〇) ドンレヘルド(二二〇〇)
- ウラル山脈
 - タルボスイス(一六五六)

火山

- ベツツバ(一二八三) エトナ(三三一一) ヲクラ(一五五七)

西部

コチ(Cottian)ノルン
 ドーヌネ(Dauphine)ノルン
 グレノブ(Grenob)ノルン
 モンテローザ(四六三三)
 モンブラン(八四一〇)
 マルヌー(四一〇三)
 グランドマラヤ(四六六一)
 イタルホルン(四四八二)

ペンニ(Pennine)ノルン
 モンテローザ(四六三三)

中群

ヘルネチン(Helvetian)ノルン
 ヴォネ(三五六一)

中部

北群

バレン(Bernese)ノルン
 スンヌテラルホルン(四二七五)
 エンツフラウ(四一六七)

西群

オルトネル(Orler)ノルン
 オルトレル(三九〇五)
 トリエンチン(Triouine)ノルン

東部

ノリッグアルプ
 ガルニアアルプ
 ジュリアアルプ

高峯奇岳に富める本山脈の地質に就きて一言せんに秀峰を戴ける中帯は主として片麻岩、雲母片岩等の如きものより構成せられて其の外方に水成岩を見る而してミラノとコンスタンツ湖とを運ぶ線以東に於ては水成岩は内面(南)外面に現はれ孰も石灰岩、白雲岩の發達著しきが、該線の西に於ては内帯を有せず、蓋本山脈の隆起以來水、流水、其の他の作用に依りて非常なる損害ありしもの如し、線は北緯四十六度四十五分のモンブラン山に於て二八六〇一三一〇〇米突にし



エイゲル, メンク, ヤングフラウ (オベルランド) [スイス]



ピラチウス山脈 [スイス]

オムルラント (Ochardt) 即ちメルンアルプは中央

アルプの山脈最高支脈を爲せるが起伏著しく重厚なるを

以て開ゆ、最高峯はフイニステルアルホルン (Finster

mahorn)(四二七三米突)にして其の他にエイゲル(Eiger)

(三九七五)メンツ(Mönch)(四一〇四)等あるも外観の

壯大にして氷河、雪崩、等に據りて一層の恐怖心を起さし

むるはヤングフラウ(Jungfrau)(四一六七)にして一千八

百七十一年を以て始めて登山者を見たり。

ピラチウス (Pilatus) 山脈はウメンタルホルン(Unter

walden) 脈の山脈なり、峡谷にて分離せらるオベルン

ヴァント (Oberwald) (二二二二米突) トムリスホルン

(Tomishorn) (二二二三) 等若干の山峯を抱括せるが最

も有名なるはエゼル(Esel)山(二二二三)にして眺望極

めて佳なり、山麓に旅舎あり索綯鐵道に據りて頂上に達

すべし。

河流

て氷河の終端は海面上一一〇〇米突なるが、ベルンアルプに至れば雪線は二七五〇米突、氷河は九八〇米突の低きにあり、此の氷河層は無数の溪流を發し、本山脈をなして一大貯水地たらしむるが、縦横に走行せる峡谷は天然の通路を開きて、周圍に於ける住民をして容易に交通するを得せしむ、今通路の主要なるものを示せば、西部にシュネッフェ(一八五三)メニ(二〇八三)大ヘルナルド(二一九二)あり、中部にシムプロン(二〇二二)ゴムルド(二一一四)セプチメルあり、中部と東部との兩アルプの境界たるブレンネルあり、而して車行し得べきものは總計二十八ありと云ふ。

水誌 本洲の河流を分類するは極めて困難なり、土地の起伏状態に千差ありて、河流の流域并に分水線は共に明確を缺けり、河系が山脈に従屬せずして同一の水流が山間流、臺地流、平野流等各種の特兆を呈供するが如きは、實に他の大洲に於て稀なる所なり、ライン河がジッラ山脈をコンスタンツ湖とバゼルとの間并にライン沿岸臺地とビンデンとポーンとの間に於て通過横斷し、ドナウ河が一方に於てはアルプとカルパットとの間、他方にありては後シルバニアとバルカンとの間に於て狹隘なる通路を求むるが如きは、なり又平野の河流に於けるも亦流域完全ならずしてボルガ、ドニエプルはウラル、カルパット丘陵を迂回し、ビスチャ、オーデル、エルベもウラル、

世界地理提要 ようらば洲 總論

カルパット并にウラル、バルトの丘陵の爲に迂路を求めざるべからず而して斯の如く河流が山脈を切斷するは交通上に便益を與ふること大なり。水脈の航行に適するは平野流なり、今各河の可航部を河長の分數にて現はせば、ボルガ(16/17)、ドナウ(11/12)、セイヌ(4/5)、ライン(2/3)、ローヌ(2/3)、タホ(1/4)、チベル(1/10)を得るなり、而して河口の状態は注水海の如何に依るものなるが潮汐少なき地中海、北海にありては三角洲を爲すもの多く、之に反して大西洋にありては概し河灣を形成せり、要するに本洲は土地廣大ならざれば他の三大洲の如く大河、巨流を有するを得ざるも、地積の少なきに比すれば海灣多く山岳高く特に起伏の配付宜しきを得たれば、河流は水量に乏しからずして航行に堪ゆるを以て人類の生存には極めて適合するもの如し、是、本洲が夙に文化の佳境に入りて他の大洲に冠たるに至りたる故ならんか。主要なる河流を長の順に依りて列記すれば、括弧内の數字は長を、表す料數

ボルガ(三八〇〇) ドナウ(二八五〇) ライン(一三二〇) エルベ(一一六〇)
 ロワール(九八〇) タホ(八九五) ローヌ(八四〇) セイヌ(七七六)

ボ(六七五) ネバ(五八)

流域の廣に依りて列記すれば、括弧内の數字は廣を、表す料數

- ボルガ(一四五、九〇〇) ドナウ(八一七、〇〇〇) トビナ(五三、九三〇)
 - ドニエプル(五二四、〇〇〇) ドン(四三、〇三〇) ベチラ(三二、九五〇)
 - ネバ(三〇、一九〇〇) キスツラ(一九、六五〇) エルベ(一四、六九〇)
 - ロワール(二二、一〇〇) オーデル(一一、八六〇) ドイロ(一〇、〇〇〇)
- 又此等を水量の多順に依りて列記すれば、括弧内の數字は一秒钟に對する立方米突數
- ドナウ(九一八〇) ボルガ(四五〇〇) ネバ(二九五四) ライン(一七二八)
 - ローヌ(一七二〇) ボ(一七一一) エルベ(一三七二) ロワール(九八五)
 - セイヌ(五〇七) タホ(三三〇)

ボルガ河

ボルガ(Volga)河は土人の聖河、ロシア人のマツシカ母河にして、長は三千八百料に達し、本洲第一の巨流なり、流域は約百四十六萬方料を有するも、平均水速は一秒钟に四千五百立方米突に過ぎず、是、水源が平野にあると流域が降雨の多からざる乾燥の地にあるに因るべし、ボルガ河は水源をラルタイの盆地に於ける海拔六五米突の處に發し、東流してカザンに達し、數多の沼湖の水を容れ、ボロキの階段を越ゆる。

世界地理提要 よーろぱ洲 總論

こと三十五回にしてツェルに至れば航行自由と成り運河に依りてバルト海に通
 べり而してニシニノゴロドに於て一千五百料の長と一千三百米突の幅を有す
 るカカ(Oka)河を合はす、カザンを經過したる後に本流はウラル山脈より来るカマ
 (Kama)河を容れ方向を南に轉じて流下するも著しき合流を受けざると流域が乾
 燥に失するに因りて水量に増加を見ることなし、左岸は平坦なる草原なるも右
 岸は絶壁を爲し稀には三百米突に達することありて風色に富めりサマラ、サラト
 フを經、カスピ海を距る五百料のツァリツインに至りて三角洲に入り、アストラハン以
 下の下流には島嶼又は沙洲多くして無数の分流を爲し航行に便ならず而して湖
 ルがはカスピ海に注水するも此の大湖をして其の水平を保たしむるに足らずし
 て反りて泥沙を輸送し來りて湖底を淺からしむ、然れども魚類を産すること夥し
 きが故に沿岸の住民に漁利を與ふること少なしとせず、又春季の増水の際には三
 米突以上の水層が全三角洲を蔽ふことあり。

ドナウ(Donau)河は一にダニブ(Danube)と呼ばれる、本洲第二の長流にして河長は二
 千八百料を超え流域は八十一二萬方料ありて平均水量は九千立方米突以上に達
 せり、水源はツワルツワルド(黒林)山脈にあり、ドイツユラの麓に沿ひてバイエルン
 舊地の北邊を洗ひ、ンゲンスマルケの附近に至るやバイエルンの高地は本流をし
 て方向を南東に變ぜしむるも、ヘーメンとアルプ山脈の東端との間に於ては峡谷
 を開き、カーンを經、ウナガルン平野に入り、小カルパット山脈を迂回したる後は數派

ドナウ河

に分かれて大小のシワツを抱けり而して第二の峡谷に依りてパゴニールワルドを
 過ぎ、ウナガルンの大平野を潤しつゝ南下す、ドラウ(Drau)タイヌ(Thesis)サーエ(Sav)
 を容れて既流向を變じ鐵門と稱する第三の峡谷に依りて後シルメニアを横断し
 ロマーニア平野の南部を過ぎりて諸水を集めドアルザアの小さな盆地に達して北行
 す、カラツの附近に至れば分かれて數派と成り、三角洲を形成して黒海に注水せり、
 而して分流の主要なるものはキリヤ(Kilia)メリナ(Sulina)サントジョルジュ(Santo Georgia)
 にして航行上最有用なるはメリナなり、而して一九〇五年メリナ河口を出でし船
 船は一千百九艘、百七十五萬六千餘噸にして十萬噸以上に達せしはイギリス(七〇)、
 キリシヤ(四〇)、エストレルライヒウナガルン(一二)なりき。

ライン(Rhein)河は水源をアルプ山脈の中心モンゴマルド山麓のアツラ山地地獄
 氷源に發し、狭長なる縱谷の一に依りて山地を流下し西流してコンスタンツ湖を
 爲し、シヴァイツの産地を横ぎり、シツフンハウセンの瀑布を爲してシツラ山脈を超へ、ア
 ル河を容れバーゼルに於て方向を北に轉じ、ボーツツとシツアルツワルドとの間に於
 ては平野を潤し、マインツに至ればタウヌスの横たはるを以て西に折れて通
 路を求め、狹隘なる河床の中を流れ、ボーンを經てゲッセルドルフに至り、廣潤なる平
 野に出で、四ドイツを通過するものなるが土地に傾斜少なく水勢は甚だ弱ければ河
 流は分かれて數派と成る、其のイッセル(Issel)は北行してライテルゼーに入り、其のレン
 ク(Lake)ヴァル(Waal)は共に西に趣くも、ヴァルはマアスと水を交えて流れ、レンクはエ

ライン河

湖沼

ボア(Vecht)と古ラインとを分派せり、本流の長は一千三百二十料にして流域の廣きは十六萬料なるが平均の水量は一秒時に一千七百二十八立方米突なり。

湖沼は主としてスカンデナヴィア、フィンランド、北ドイツ、アルプの四地方に存するが、一般に其の面積小にして二萬方料に達するものなし而して左表に記入せるものは皆淡水性にして排水口を有せり。

湖沼	面積	長	幅	高度	水深
ラドガ	一、八二二九 ^方	二〇八 ^里	一二六 ^里	五 ^里	二二三 ^里
オネガ	九五五〇	二三五	八〇	三五	三〇五
エンネル	六二三八	一五〇	八〇	一三四	九一
バイブス	三六〇〇	八〇	四八	三〇	一五
エッテルン	一九六〇	一一三	二二	八八	一一三

氣候

氣候 本洲の年同温線は略十九度より零下十度を示し氣温が純然たる温和的特兆を有するには種々の原因あるべしと雖、第一は緯度に依るべし、蓋し極南の地に於けるも熱帯に達せずして北の方も北極圏を超ゆるの地少

なし、第二は大西洋と地中海との間にありて南西并に西の温風の通路に當れるにあり、第三は海岸の屈曲多きが爲、内部も亦海風の温和的作用を蒙るにあり、是、アジアに比してヨーロッパに於ける同温線が北上せる所以なり、而して氣温の昇降の激しきは海濱を距るに従ひて其の度を高むるを以て北進するよりは寧ろ東漸してウシガルン又はロシアに大陸的氣候を觀るなり、第四は土地の起伏が降雨地方を劃するに足らずして乾燥に失する地方を生ずることなく又高地と低地との配付が緯度の高低と相俟ちて氣温の平均を保つにあり、然れども種々の情態より考ふれば縦令境界線は明確ならざるも本洲を三、大帯に區分するを得べし、其の第一は西部にして夏冬共に温和なり、第二は地中海沿岸の地にして夏季冬季孰も氣温高し而して以上二帯は孰も海候に屬せり、第三は東部に於て夏暑く冬寒き陸候の地なり、此等の差異の存するは夏冬兩季の同温線の配置に依りて自明なるが夏季にありては氣温は南より北に越くに從ひて降下するも冬季にありては西より東に越くに從ひて低下せり。

降雨に就きて本洲は熱帯地方の如き豪雨を見ざるも亦乾燥に失する沙漠の地の存するあるなし而して降雨の量并に雨天の日数は西の方大西洋より東の方アジアに進むに従ひて減少せり。

又季節に依りて區分すれば第一に西部は秋季に雨多く第二に中央并に東部は夏季に多く第三に南部の地中海沿岸地方は夏季にありては乾燥を極むるも春季又は冬季に於て降雨を見る。

風に就きては貿易風の外に若干の地方風あり其の「ミストラル」(Mistral)は地中海沿岸に吹く北西の寒風にしてエプロ河口とジノバ灣に至る間殊にマルセイユ地方に起り風力逞し該地方にては平均毎年百七十六日之感ず其の「ボラ」(Bora)はトリエストよりバルカン半島の西岸アルバニアに至る地に起る寒燥風にして一般に晴天に伴はること前者に似たるも多少彼より不規則なり其の「シロコ」(Sirocco)は主としてマルタシチリアに流行し時にローマ又はプロバンスにも及ぶ南の熱風にして其の吹き来るや夜間と雖、三十五度の温度に昇り空は鉛色の蒸氣を以て充たされ植物に大な

る損害を與ふ而して春季に普通なるも必ずしも時を定めず概三日にして止むと云ふ其の「ソラノ」(Sollano)はイベリア半島に於ける東風にして多少の濕氣を帶べり其の「フöhn」(Föhn)は南風にしてアルプの北面に於て北に開ける谷殊にロイス地方に起る主として冬春の間に吹く温風にして大なる雪解かしの名あるが頗る乾燥なり。

天産植物は氣温と降雨とに對し緊密なる關係を有するを以て第一に地中海沿岸地の一帯は全然他の部に異なりて特殊の状態を有せり其の北境は沿岸の山脈なれば地帯の廣狹は勿論一樣ならざるが光熱共に多くして濕氣少なく森林の存するなきも乾燥に堪ゆる厚き葉の常綠灌木又は小樹が所謂「マキ」を形成するを見、オリーブ、柑類、椰樹等は容易に繁殖せり而して地味は概礫確にして豊腴ならざるも亦葡萄、桑樹、蜀黍、米等の産あり此の地方の植物とアフリカの北岸に於けるものとは極めて相類似しベルベリア産の四百三十四種中、ヨーロッパに見る能はざるものは僅に三十四種に過ぎずと云ふ第二に西部中部の一帯は尙温熱を受くること多く殊に濕潤に

動物

礦物

人口

して土地肥え最、穀類の耕種に適せるが又葡萄の栽培を見ざるに非ず、第三に北部并に東部の一帯は冬季の寒氣凛烈にして夏季は甚だ短く、雨量は西方に多くして東方に少なく、アジアの氣候を有する森林、草原の地なり、要するにグリゼバツハに從へば本洲の植物帯は三區に分かるるも、アジアの半島尤るの性質を失はざること動物に於けるが如し。

動物は其の分布上舊北區に屬して二亞帶を形成するも、猛獸奇獸の存すること少なく、狼、熊、野猫、河狸、野牛、麋、馴鹿、シマウマ、Rupicapra、野羊、ヤルモット、等ありて此等の中には生産地を限れるものあり、而して鳥類、爬虫等に至りては殊に列擧すべきものなし。

礦物に就きては鐵を第一とす、銅之に次ぎ金銀は其の量多からず、白金はウラル山脈に産し、錫、鉛、水銀、亞鉛等はイギリス、エスパーニア、ドイツに産す、又石炭はイギリス、ベルジック、ドイツ、フランス等の各地に産するが此の他に琥珀、硫黄、泥炭等あり。

住民 人口は三億九千萬人以上ありて一方籽に就き平均三十九人の割

種族

合なり、されば之をアジア洲の十八人、アフリカ洲の六人等に較ぶれば本洲の人口は稠密にして五大洲中の最たるものなり、且又人口の配付は稍均一にして人跡の絶えたる地少なく、又非常の群集を觀るの土も多からず、而して人口の最、稠密なるは西部にして中部、南部之に次ぎ東部は稀薄にして北部には一方籽に付き一人に達せざる處もありて存す。

本洲の住民は白色人種と黄色人種との二部に大別するを得るが所屬の不明なるもの多少あり、而して大多數は甲種に屬してインド、ヨーロッパ語を使用せり。

- ゲルマニア群(一、三、一、四〇)
- ドイツ(六、九、九〇) オランダ(九、九〇)
- イギリス(四、〇、七〇) スカンデナヴィア(一、〇、九〇)
- ローマ群(一、〇、八、六〇)
- フランス(四、〇、一〇) イタリア(三、四、四〇)
- エスパーニア(二、三、七〇) ロマーニア(一、〇、四〇)
- ポルトガル(二、三、七〇)
- ロシア(八、四、七〇) ポルスカ(一、六、四〇)
- スラブ群(一、二、二、六〇)
- チエヒ
- エネド(九、六〇) セルビア(七、七〇) ブルガリア(四、二〇)

世界地理提要 よゝるば洲 總論

ケルト(二六〇) レットリトニア(四六〇) ギリシア(三六〇)

モンゴル群(一九五〇) マジャール(八七〇) フィン(二三〇)
オスマン(一八〇) 其他(六七〇)

アルバニア(一五〇) バスク(六〇) ツイゴイン(六〇) アルメニア(四〇)

ツイトン群、即ちゲルマニア群はドイツ、アングロサクソン、スカンゲサア等の諸族を含み、丈高く虹彩背く顔は櫻色を呈せり、居住地は大ブリタニア群島、スカンゲサア、ピア地方、ドイツ平原、オランダ、ベルジック、フランスの北東部等なり。

ラテン群(ローマ群)はギリシア(ヘーレン)群と共にヨーロッパの南部及び西部并に地中海の島嶼に住す。

スラブ群はヨーロッパの東部に住む、言語、歴史等に依りて數多の種族に分かるるも、外観は概し方面にして懸少なく、鼻下を、他種の混淆の多からざるを證す。

ケルト群はヨーロッパの現在住民中の最古なるものに屬し、來住期を石、器時代とす、キムリック、ガエリックの二部に分かれ北西ヨーロッパに散居せり、毛髪は帶赤栗色を呈し虹彩は栗色又は鼠色なるが、皮膚は光澤なく身長中位にあり。

信教に差異あるは種族の如何に依れるが如き感あり、ラテン派文化の人民は概してキリスト舊教を信奉し、新教徒の多くはゲルマニア群に屬し、ス

宗教

ラプ、フィン、ギリシア人等はギリシア教を奉じ、トルコ人、ダタル人等はマホメット教に歸依し、ユダヤ教徒は各地に散在せり而してキリスト教徒は千分中の九百六十五を占めて最、優勢なりとす。

キリスト教徒(三、八一九〇) カンリック(一、六六七〇) 新教(一、〇〇二〇)

オルソドックス(九九一〇) 其他(一、五九〇)

マホメット教徒(六〇〇) ユダヤ教徒(八五〇) 異教徒(一〇)

分國 本洲に於ける列國はロシアを除き、其の他は六十萬方呎を出づるもの殆くなく概して地積小なり、然れども宇内に於て強國と稱せらるるもの多くは本洲にありてイギリス、ロシア、フランス、トルコ、ドイツ、ポルトガル、オランダ、イタリア、エスパニア等は他洲に於て各、殖民地を有せり。

分國表

部	國	土	面積	人口	方呎	首府
東	ヨーロッパ、ロシア		五、四、五〇、〇〇〇	一、〇、五、六、六、一、四、一、五	一九	
	ロシア諸州		四、八、七、三、三、三	九、四、四、二、六、四、四	一、九	モスクワ
	ベルスカ		三、七、三、三、三	六、七、〇、三、三、三	三	ベルリン

世界地理提要 ヨーロッパ 總論 三百六十三

モンテネグロ公國	九〇六〇	二五、〇〇〇	三	チエチエ
セルビア王國	四、八三〇	二八、八七七	五	ベルグラド
ロマーニア王國	一三、三五三	五五、六九〇	四	ブカレスト
合計	九一、〇八二	一〇〇、三三三	四〇	

東部

● ロシア

位置 ロシア (Russia) 即ち ロシア (Russia) はヨーロッパの東半部とアジアの北半部より成る帝國にして、東西は西經凡百七十度の東岬より東經凡百七十度三十分のピヌドリ ホーランドの西端 に至りて經度百七十二度四十二分に亘り、極北のチリウスキ岬は北極より十二度の處にありて極南の地は後カスピ州のヘリツドにして赤道より三十五度にあり。

境界の三分の二は海洋的にして殘りの三分の一は陸地的なり、陸地

的、境界に就きて四千五百軒は西ヨーロッパに接し、八千軒はアジア州の有民地に隣し、七千五百軒は山脈又は沙漠に據れり、實にロシア國は約二千二百万方軒の地積に對して有用境界は僅に二萬軒に過ぎず、是此の國が地中海太平洋等に於て海岸線の發達を謀るに汲々たる所以ならんか。

地積 全ロシア國の面積は約二千二百五十萬方軒なるが、其の凡五百四十三萬方軒はヨーロッパにありて、其の他はアジアにあり、此の地積はアジアの大半に當りて、アフリカ洲の三分の二以上に當り、地球表面の二分の一、ヨーロッパ又は清國の二倍以上、我が日本國の五十倍に當れり、されば世界の列國中にて地積上、此の帝國を凌駕するは一のイギリス帝國のみ而して海上王の屬地は各處に散在するも、大北帝國の領土は連綿として間斷なき一大土塊を爲せり。

海岸 北極洋に瀕する海岸の地は常に氷塊、流水の爲に閉塞せられ、ベリリング海、オホーツク海、日本海にありては、結氷の害稍、少なく、交通の便を缺くは、毎年數月のみなるも、人口群集并に百貨生産の中心を距ること遠きに過

世界地理提要 よゝる。ば洲 ロシア

ぐるが如し、白海は四千四百五十軒の海岸を有するも航行に適するは僅に三月なり、バルト海の沿岸の地は延長六千七百五十軒に達するも航行上困難多く毎年五月間は結氷の爲に閉塞せらる而してカスピ海は陸地に挟まれて外海に通することなし、されば始終航行に堪ゆる海濱は黒海(二〇一五)アゾフ海(一四七〇)なり而して黒海は港灣に乏しく、アゾフ海は水底淺くして便ならず、且又此の二海は共に若干の海峡を経るに非ざれば外洋に通ずるを得ざるなり。

- 北極洋 [カラ海] ベチョラ灣 チェスカヤ灣 白海 メゼン灣、ドナ灣、オネガ灣、カンタラーチ灣
- 海灣 [バルト海] [ボスニア灣] フィンランド灣 リガ灣
- 地中海 [黒海] ガブリア灣、サハ アゾフ海
- 海峽 [カラ] ユゴル ケルチ
- 半島 [カニン] コラ クリミア
- 地角 [ロスキース] [シラロト] スウイェトイノス カニンノス
- [ウフトナ] [ラロク] ダメスネス

タルハンクット ヘルンン サリチ
地峽 ベレコブ

島嶼 [ワイガチ] ノワヤゼムリア スビツベルゲン コルグイェフ
[ソロエスキ] アランド ダゲ エセル

地勢 土地の廣大なるに拘らず起伏は極めて僅少なり、平坦にして砥の如くなるか又は皺波の狀を呈するに止まりて、平均の海拔百六十七米突はヨーロッパの平均海拔に比すれば甚だ低しとす、實に山岳と稱すべきは南のクリミア山脈と東のウラル山脈にして西部若しくは内部に於ける起伏は僅に丘陵を爲すのみ、而して内部の高地は北より南に走れる二の臺地より成りて中間には同じ方向にして狭長なる低地あり、甲者は中央臺地と稱すべきものにして北の方アルガイ臺地に起り南の方ドネツに達するが、長は一千四百軒ありて海拔はアルガイ臺地のカメスチックに於て三一五米突と成り、ドネツの南に於ては三七五米突と成る、本臺地は一七〇米突以下に降ることなくドニエプルとドン河との分水線を爲せり、乙者はボルガ臺地と

世界地理提要 よーろば洲 ロシア

アルガイ臺地

ボルガ臺地

稱す北の方ニシノブゴロッド及カザンに起り南の方ツアリチン并に西タン
ボフに達し南北の長一千百七十五料を有す而して海拔はゼグリの三四三
米突フハリンスクの三八四米突サラトフの四〇五米突なり。

ウラル山脈

ウラル山脈はロシア人のゼムノイホイアス(Zemnoi Poias)の地帯にしてカラ河の水
源よりオレンブルクまでの十八度二千四百料に亘れるが二行又は三行の山脈を
爲して三部に分たる北ウラルは花崗岩質にして秀峯たる山峯はカメン(Kamen)山石
のボルシイエカムニイ(Bolshe-Kamny)の大岩の質あり而して全ウラルの最高峯
タルボスアス(Tel-Posis)は一六五六米突を有せり中ウラルはベチオラ河の水源地以南に
ありて尙數個の峯を呈するも漸次低下して丘陵たるが如き觀あり氷河の作用に
依れる此の低落は容易に通路を與へたるのみならず各種の礦産を供す南ウラル
はズラトウスタ(Zlatoust)の微南に起りて數派に分かるるが最西派は最著しくして
イレメマ(Iremel)(一五九五)ヤンタウ(Jamantaw)(一六四二)を有す又バイホイ山脈は
ウラル山脈の一部たるが如き觀あるも精査の結果別個の山脈たるを明にせり。
クリミア山脈はアイア岬より起り半島の南東岸に沿ひて走りバヤケンサイラ
(一五五三)に終る長は百八十料に達し幅狭からず殊に山麓の平野は氣候溫和にし
てクリミアの花園と稱せらる。

河流

河流にはヨーロッパの最長流と云はるるボルガ河即ち大河を始とし北ロシ

アにネバー南ロシアにドニエブルドンの如き著しき水脈の存するあるが
水源の多くは海拔の著しからざる丘陵にありて所謂平野流なり而して營
流力は春季の融雪夏秋の降雨流勢の緩慢流域の廣大水系の發達等に因る
を以て定期の増水は無害の洪水を來たすに止まり冬季に結氷するの缺點
あるも殊に可航性を備ふる點は顯著なりとす。

- 北極洋斜面 ベチオラ メゼン ドビナ オネガ キグ ケム
- バルト海斜面 トルネア ネバー チツナ ニーメン ビスチツラ
- 黒海IIアゾフ海斜面 ドナウ ドニエステル ブグ ドニエブル ドン
- カスピ海斜面 ボルガ ウラル

ネバー

ネバー(Neva)河はヨーロッパのセントローレンスなりラドガ湖に發して水清く
底深く二百乃至四百米突の幅と平均水量二千九百五十五立方米突とを以てメテ
ルブルクとフィンランド湖との間に水路を開き冬季の外は大船巨舶をして自由に
航通するを得しむるがラドガ運河に依りてボルガ河に運なれり。

ドニエムス(Dnieper)河は或はドニエブル(Dniepr)と呼べる水源を中央の森林地に
發しプリペット、デスナの水を容れ五百乃至一千米突の河幅を以て有名のキエフを

世界地理提要

ヨーロッパ ロシア

過ぎイニカテリノスラフ附近に於て十三ヶ處の「ハロクス」即ち急流を爲して四十三米突の地を流下し四百米突の狭谷を過ぎて再び緩流と成り、其の「リマン」即ち河口に於て緑樹叢鬱たる數多の小嶼を潤したる後「オアッサ」灣に注げり、長は二千五百十料ありて五十萬方料以上の流域を有するも平均水量は二千八百立方米突を越ゆることなし、而して「ドロゴア」以下は航行し得べきが「キエフ」に於ては一月より三月末まで凍結し「スモレンスク」に於ては十一月より四月に至ると云ふ。

「ドン」(Don)河は中央ロシアの「イバン」湖に發して「タガン」湖に注ぐ、長は一千八百料に餘り流域は四十萬方料を下らざるも平均水量は九百立方米突に過ぎず、支流は「フオロチイ」ドネツ、ホーヤル、メド「フィヤ」エツアを主なるものとするが「フオロチイ」以下は舟運の便あり河中魚族多し。

湖沼 ロシアは沼湖に富める土地にして殊に北西の一帶を以て然りとす、而して其の著しきものは「ラドガ」オネガの外に「イマンドラ」(Imandra)、「サイ

ヤ」(Saima)、「イメン」(Imen)、「ペイプス」(Peipus)、「ビエロ」(Bielo)等あり。

「ラドガ」(Ladoga)湖はヨーロッパの最大湖なり、長は約二百料にして幅は百二十餘料あるが一萬八千一百三十方料の面を蔽ふ、北西岸は絶壁を爲す、其の他は低くしてオネガ、イルメン、サイマ等の諸湖の水を受くるが、平均の水深は九十米突に過ぎずと雖、バラアム、コネベツ二島の横たはれる北西部に於ては二二三米突に達する

ド

ラドガ

イ

處あり、淺洲暗礁は航行に危険を與へ氷結せざる時、三十一月は暴風の爲に苦むと云ふ、ラドガ運河(一一三料)は「ホルガ」河、バルト海間に大なる便を與ふ。

オネガ(Onega)湖はラドガに次げる面積を有し九千五百五十方料あり、長は二百三十五料にして幅は八十料を示し北岸には深き凹入ありて島嶼散在するが、其の他の部分に於ては低平なり、附近の水を集めて深さは約三百米突に達し「スビル」河と成りてラドガ湖に排水す、本湖の氷結期は五月なり。

オネガ

7

氣候

ロシアの國土は大陸的にして北部に於ける海洋は寒冷を極めて常に凍結するを見る、而して土地は廣漠たる平原より成りて極地より來る寒風を遮ぎる高山なきも南來の温風を遏むるに足るの秀峯に乏しからず、從て此の地の氣温は同緯度に於ける他の地方に比すれば遙に低度でありて且急激の變化あり、要するに南より北に趣きて北極洋に接すると西より東に行きてシベリアに近づくに依りて氣温は降下するもの如し、されば南部一帶の地にありては短期の暑熱に依りて生熟すべき「アルジェリア」的蔬菜の耕種を見るも、其の東部にありては冬季の嚴寒を恐るる果樹の全く缺乏せるを見るべし。

氣温

雨量は西より東に趣くに從ひて遞下し殊に夏季の乾燥に失するは土地の肥力をして甚しく殺滅せしむるが如し、又沼湖、河流が降雨に依りて得る所の水量は蒸發の爲に失ふものを償ふに足らざれば水脈は漸く減縮して遂に涸失せんとするの兆あり、往時には航通の便を供せし河流も現時は一地方に灌溉の利を與ふるに過ぎざるなり、ボルガ河畔の地の衰微したる、ウラル下流の十九派が減じて五派と成りたるは共に水量の減少に歸せざるを得ず而して斯の如き事實の現出せるに就きては森林の濫伐蓋し主因たるべしと云ふ。

植物帯 氣候に關しては土地の廣大なるに拘らず、各處の間に非常なる變差を認めざるも、植物帯には顯著なる分界の存するあり、蓋し四季の長短、降雨の配布、土壤の性質等に因るならん、されば北より南に趣けば、ツンドラ(Tundra)、森林、無樹、南方の四帯の現出するを見るべし。

「ツンドラ」帯は一に凍土帯と云ふ、北方にありて概し北極圏以北の地を占め、森林帯の北境を以て南を限れり、沼地多く樹木なく、短期の夏の外は終始結氷して僅に苔蘚地表の生ずるを觀るのみ。

森林帯は北緯六十五六度に起り南の方モスクバを越え、南西にありてはキエフ

附近に達するが南界は南西より北東に走りウラル山脈に近づくに從ひて北向と成りてシベリアに入る、樹木は最初河岸に現はれ漸く森林を爲すに至るが樹種は南下するに從ひて新陳代謝するの傾向を示すあり、「カラマツ」、「オホマツ」、「カバ」に次ぐは「ハンノキ」、「イルハヤナギ」にして南方には「シナノキ」、「カハテ」、「ニレ」を觀、ロナルナラ(Quercus Robur)も少なからざるが土地の面積の百分の三〇乃至七五を蔽ひて建築材、燃料、工藝用等に供すべきものを與ふ、本帯にありては冬季は一年の半を占め降雪は約二百日に亘り、河流は四五月頃に至るまで結氷す、然れども夏季は高温なれば大麥、燕麥、亞麻等を栽培するを得るなり。

無樹帯は森林地の南又は南西に起り樹木は漸く稀少と成りて遂に其の跡を斷つに至る而して本帯を分ちて黒土、可耕ステップ、不毛ステップの三地方と爲すを得べし、黒土地方即「チェルノツィエム」(Tchernozem)地方は石灰と粘土とに有機性の遺物を混交したるものにして五〇乃至一五〇厘の「ヒュムス」(Humus)にて蔽はれ腐蝕したる雜草は一層の肥力の度を高むるが故に無比の良土たるは疑ふべからざるも春季の乾燥は副土層の特質と相待ちて樹木の生育を許さず、然れども融雪後に於て夏季の温熱は穀類の收穫を期するに足り以て當地方をして露國の倉庫地たるの實あらしむ、可耕ステップ地方は黒土地方の南にありて黒海に達せるが乾燥甚しく樹木なく水に乏しきも純然たる不毛地に非ずして春季には人體を没するの雜草にて蔽はれ夏季の至るや乾燥の下に青草は一變して牧草又は燃料と成る、不毛ステップ

ラッパ地方は海底の遺跡たる砂地にして鹹味を帯び概して不毛の土地なるも稀に駱駝の飼養を見ることあり。
南方帯はクリミア島の南部より成りて「ラウラス」無花果、「マクノリア」オリーブ、「葡萄、桑等の地中海的樹木の生育を觀るも亦冬季には降雨多く零度下二十五度を示すことありと云ふ。

天産 鐵物には金、白金、銀、鐵、銅、滿、俺、石炭、石材、陶土等あり、植物には山林より出づる樺、松、樅、山毛櫸、菩提樹等あり、動物には熊、馴鹿、駱駝、野牛、各種の毛皮、獸羽毛鳥等ありて大麝香鼠、鼯鼠(Spanax)、大鼻アンチロペの如きは南ロシアに於ける「ボバク」(Bobak)即ち「ロシアマルモット」と共に著しきものなり。

沿革 ロシアは北人ルーリックがノブゴロドに來り(八六三)スラブ種族を征服して王朝を創立せしに始まり、十一世紀の頃にはキエフを國都として國勢稍盛なりしが、後に諸族各地に割據して蒙古の侵入(一二四〇—一四八〇)を蒙り、爲にキエフは衰へて十四世紀の始頃よりモスクバ之に代り、シベリアの侵略を始めしイワン四世に至りて蒙古人の羈絆を脱することを得たり、而してルーリック家(八六二—一五九八)絶えてロマノフ家(一六一三—)の代と成るや、ペテロ大帝(一六七二—一七二五)、カトリナ女帝(一七六二—一七九六)等の君臨するあり、ホルスカ、フィンランド、コーカシア、中央アジア等を合はせ領土益々膨脹して遂に世界の強國の一に列したるが、今帝

人口表

ニコライ二世は旭日國の爲に破られてサハリンの南部并に關東租借地、南滿洲に於ける特權を失ひ、極東に於ける經營に大打撃を蒙りたり。

人口 全ロシア國の人口は一億三千餘萬人ありて一方糶に對する平均は五人に過ぎざれどもロシア諸州には九千三百四十四萬ありて一方糶十九人と成りホルスカは九百四十萬ありて一方糶七十三人なりとす。

地方	地積	人口		計	組密
		男	女		
ロシア諸州	四八七、六五二	四五七四、九五七五	四七六九、三二八九	九三四四、二八六四	一九
ホルスカ	一一、七三二	四七一、二〇九〇	四六九、〇一六三	九四〇、二二五三	七三
コーカシア	四七、三〇二	四八八、六七一三	四四〇、二六五一	九二八、九三六四	一九
中央アジア	三六四、七〇五	四一六、四五五一	三五八、二一六七	七七四、六七一八	二
シベリア	一一五三、四二〇〇	?	?	五七三、〇七〇〇	〇、五
アラル海	六、七七六九	?	?		
カスピ海	四三、八六八八				
アソフ海	三、七六〇五				
小計	二二二〇、二二〇〇	?	?	二二五六、二〇〇〇	六
フィンランド	三七、三六〇四	一四二、七三三九	一四三、九八〇九	二八五、七〇三八	八

世界地理提要

よーろぱ洲

ロシア

三百七十七

アハラ	二〇、五〇〇〇	?	?	?
ヒメ	六、〇〇〇〇	?	?	一五〇、〇〇〇〇
ロシア	二二八四、〇八〇〇	?	?	五〇、〇〇〇〇
				二三〇四六、九〇〇〇
				六
				八
				七

人口の増殖は稍著しくして九十年以上百年未滿にて二倍するの割合なり、住民の移動に就きては一九〇四年の往住は約四十六萬七千人ロシア人、外國人二五にして來住者は凡四十二萬人ロシア人、外國人二七なるが、殊にユダヤ人のアメリカに移住するもの漸く多くして一八七三—一九〇〇年に八十四萬人ありき、而して一九〇二年に於てハンブルグ、ブレメン、リッベックを経て移住せる六萬人足らずのロシア人は主としてアメリカ合衆國(五、五三六八)に向へり、又同年シベリア、コーカシア等に往住せしものは八萬八千餘人にして該地方よりヨーロッパに歸來せしものは一萬五千人に達せざりき。

種族　ロシアの種族はエステルライヒ、ウングアルンの如く甚しからざれども亦頗る錯雜せり、其の大部はアリア種のスラブの占むる所なるが、北西及北部にはフィン群(フィンランド人、チャド、ラップ、カレリア人、リープ、エスト、イン

グリア人)あり、スラブ派に混じて黃種の存するあり、即ち北にサモイェド、ジリアヌ(Nyrians)等あり、南にキルギス、カルムクあり、西部にはスラブに近きリットニア(Litto-Lithuanians)あり、西部にドイツ人、南西にユダヤ人、ベッサラビアにロマニア人を見る、而して當國のスラブはロシア、ポルとの二群より成れり、ロシア群は更に三部に分かる、其の白ロシア人はチナ河の左岸よりブリットの沼地に至る平地を占め、其の小ロシア人はドネツ、サン、チツァの水源間に於ける廣大なる地方に居り、其の大ロシア人は上記以外の地、殊に中部、南部に住せり、此等のスラブはエステルライヒ及バルカン諸邦に住せるものとは外貌に異なる所あるが、北部に於けるものはフィンの特徴を有し、南部に於けるものはモンゴリア、トルコ等の血を混せり。

今母語に従ひてロシアの住民(一、二五六四萬)を區別せば大ロシア(五五六七)、小ロシア(二二三八)、ポレン(七九三)、白ロシア(五八九)、ヘブレール(五〇六)、リトニア等(三〇九)并にドイツ(一七九)、カルトメル(二三五)、アルメニア(一一七)、ロマニア(一一二)其の他のインドヨーロッパ語(一二九)の外にトルコリタタ

ル(一三三六〇)、ウグルーフィン(三五〇)等を得るなり。

の宗教 國教はギリシア正教にしてロシア皇帝は該教の法王なるが信徒の数は約八千七百十二萬人あり、之に次ぐキリスト教徒はローマ公教派(二一四七)、ルーテル派(三五七)、デシデント派(二二〇)、アルメニアグレゴリアン派(一一八)、其他に屬せり而してユダヤ教を奉ずるものは五百二十二萬に近く、マホメット教を信ずるものは一千三百九十一萬弱なるが前記以外の宗教を奉ずるものは七十三萬餘人なり。

の教育 一八九七年の調査に従へば文字なきものは地方住民百分中八九、二より四四、九の間にありて都會にては六三、六乃至三七、二なれば未だ盛況を呈するに至らず、帝國は十五學區に分たれ學校の大部分は文部省の管理する所なるも他の諸省に屬せるもあり、大學はベテルブルグ、モスクバ、キエフ、ハルコフ、ドルバット、ワルシワ、カザン、オデッサ、トムスクの九ヶ處に設けられ一萬九千五百人許の學生を教養す、此の外に宗教(四)、醫學(六)、獸醫(四)、法律(三)、藝術(三)等の諸學校并に女子高等學校(二)、鐵山學校(二)、機關(四)、農業(四)、森林(二)、博言

(二)軍事(六)等の高等なる學校あり、中等教育には約一千五百校ありて男女合はせて三十五萬以上の生徒を養ふが初等教育には學校八萬四千餘、生徒四百六十九萬餘あり、而して後者の百二十三萬餘は女子なり。

の政治 ロシア帝國の君主はツァール(三)と稱す、舊專政の國なりしが一九〇五年に於て樞密院の外に代議院は設けられ又信仰、言論、集會の自由を臣民に與へたり、行政に關しては中央に大臣會議(外務、陸軍、海軍、内務、司法、教育、財政、成)、元老院、教務院等ありて地方には太守、總督、知事等を置くがベテルブルグ、セバストポール、オデッサ等の如き重要な都市には府尹を置く。

の行政區劃 全ロシア國はロシア諸州、ポルスカ、フィンランド大侯國、コーカシア、中央アジア、シベリアの六部より成れるが、行政上省州に分たれ、其の若干を合はせて太守府又は總督府を置く、總督府はモスクバ、バルト諸州、ワルシワ、キルナ、キエフ、トルキスタン、ステップ、イルクツク、アムルに置かれ、コーカシアには太守府あり、而して省州はロシア諸州に四十九、ポルスカに十、コーカシアに十一、中央アジアに九、シベリアに八、フィンランドに八あり。

兵備 陸軍に就きては全國を十三軍管區ヨーロッパコーカシア九に分ちて募兵、其の他の事務を司るが各聯隊の組織に就きては非ロシア人が四分一を超過せざること又少なくとも三分一は大ロシア人なることを以て原則とす、而して平時に於てはヨーロッパに二十二軍團、コーカシアに二軍團、トルキスタンに二軍團、シベリアに三軍團を置くが總員は一百二十五萬四千人に達すべし、戰時に於ける兵員は士官六萬六千四百十人、下士卒三百五十四萬九千人なるが馬匹は五十六萬二千二百頭に達すべしと云ふ。

海軍に就きてはバルト、黒海、シベリアの三艦隊あり、乗組は士官一千五百六人、水夫三萬八千餘人あり、而して建造中のものはバルト艦隊に甲裝戰艦(一、六六)二隻、一等甲裝巡洋艦四隻、潛航艇四隻、水雷驅逐艦二隻等あり、黒海艦隊に戰艦(一、二〇〇)噸二隻、シベリア艦隊に砲艦十隻あり。

艦隊	噸數	馬力	砲門	水雷發射管	根據地
バルト海	三〇、六八四九	七四、九二六二	一五〇四	三八三	クロンスタット
黒海	一四、五七二八	二六、九九〇二	七六八	一二八	セバストポール

シベリア

三、〇三八二

一六、七九二三

一七八

八七

ウラヂフストック

上記の外に各艦隊多少の汽船を有するが殊に注意すべきは義勇艦隊が十隻、十萬一千八百十噸あることなりとす、而してカスピ海には武裝せる數隻の船艦を備ふ。

財政 一九〇六年度の歳入は二十五億一千一百萬ルーブル、餘にして經常歳入二十億二千八百萬ルーブル、弱は直税(一、四八三)、間税(五、三三五)、專賣(五、八二八)、國領(五、八二八)、其の他より得られたり而して歳出約二十五億一千一百萬ルーブルの大部は經常歳出(二〇、一八〇)にして其の主なる科目は公債(三、三四七)、陸軍(三、七四五)、海軍(一、〇四〇)、大藏(三、四二六)、内務(一、三二二)、逓信(四、七七七)等なりとす、又公債は凡七十六億八千九百萬ルーブルなり。

生業 農業は帝國の生業中にて主位を占め住民の十中九までは本業に従事せり、ヨーロッパロシアの三分の二に當る三百六十萬方杆の地は耕耘に適するが、其の中九十萬方杆は「チルノシオム」即ち黒土にしてウラル河の水源

世界地理提要

ヨーロッパ

ロシア

牧畜 漁業 蠶業 鑛業

より西方の國境に達せり、然れども人口の發達充分ならざれば實際に耕作せらるるは九十五萬方籽に過ぎず、農産の第一は穀類にして六百四十六億疋あるが、其の二百三十二億疋はライムギなりとす、此の外亞麻に五十八萬噸、大麻に三十四萬噸、馬鈴薯に二百四十七億疋、牧草に五千萬噸、煙草に六千六百萬疋の産あり、南部は果樹を栽培し、北部の森林は樺、松、樅等を産し、國有林の實收益は四千八百萬ルーブル以上なり、牧畜は盛に行はれて牛三千三百二十四萬頭、馬二千九百五十四萬頭、羊及山羊六千四百三十九萬頭、豚一千三百六十六萬頭等を飼養す、而して漁業には二千五百萬ルーブルの産あり、て蠶業に二百萬ルーブルの産あり。

工業

鑛業は凡、四萬疋の金、二百四十萬噸の鋼、及鐵、一千八百六十二萬噸の石炭あり、バクー地方より出づる石油は九百九十四萬噸を超ゆ、此の外に白金五九一一疋、銀、鉛、亞鉛、銅、岩鹽等あり、一九〇一年鑛業に従業せしものは四十九萬六千人に近かりしが、其の二十三萬餘人はウラル地方にありたり、工業は未だ盛大なるに至らざるも、近來長足の進歩を爲して工場は一萬七千に近く、

貿易

使役せらるるものは百七十一萬を超ゆるが、蒸溜、醸造、紡績、六五五萬鍾、製糖(九、一〇六六萬疋)、製油、製鐵(二億疋)、製麻、毛布の製作、煙草の製造(七萬噸)等は稍、著しとす。

貿易に就きて貨物の輸入は一高一低あるも、輸出は漸次増加して一九〇四年に於ける貿易高は十六億ルーブルを超えしが、貴金屬の取引は七千萬ルーブルに達せざりき。

年次	貨物		金	
	輸入	輸出	輸入	輸出
一九〇〇	六、二六三、七、五	七、一六四、一、八	三四六、一、一	一、三四三、一、一
一九〇一	五、九三四、二、五	七、六一五、八、三	一八〇三、三	七二〇二、三
一九〇二	五、九九一、五、一	八、六〇三、二、二	一四四〇、四	七二〇、九
一九〇三	六、八一六、七、〇	一〇、〇一七、九	二七九一、五	四五七、七
一九〇四	六、五一四、〇、三	一〇、〇六三、八、四	三八五二、二	二六二八、七

次に主要なる取引先を示せば輸入にドイツ(二二八百萬ルーブル)、イギリス(二〇三三)、合衆國(六二二)、清國(五二二)、フランス(二六)、フィンランド(二四)、ベルギー(二二)、エストレル、ライヒ、ウィーン、ガールン(二二)、エジプト(一六)、オランダ(一一)、イタリア(九)等

世界地理提要 よーろば洲 ロシア

ありて輸出にドイツ(二三四)、イギリス(二二〇)、オランダ(九九)、フランス(六一)、イ
 タリア(五二)、フィンランド(四六)、ベルジック(四三)、エストゥラライヒ、ウシガルン(四
 〇)、デンマルク(三〇)、ベルシア(二七)、トルコ(二五)、清國(二二)等あり。
 り貿易品の重要なものは輸入に綿花(一〇八)、器械(五五)、茶(四七)、金物(二九)、石
 炭(二六)、彈力ゴム及びグタバ、ルチア(二二)、魚類(二二)、化學品及藥品(二三)、果物(一
 二)、生絲(一一)等にして輸出に穀物及穀粉(四七七)、木材(七三)、石油(五九)、鶏卵(五
 四)、亞麻(五〇)、タバ(二九)、砂糖(二三)、綿布(二二)、油類(二〇)等あり。

又一九〇五年に於けるヨーロッパ、ロシアに於ける輸入は五億五千三百五
 十二萬ルーブルにして輸出は約十億一千八百二十五萬ルーブルなるが、輸
 入先はドイツ(二三二)百萬、ルーブル、イギリス(一九五)、フランス(二六)、フィンラン
 ド(二六)、清國(一九)、エストゥラライヒ、ウシガルン(一八)等を主とし、輸出先はドイ
 ツ(二五四)、イギリス(二四九)、オランダ(二二六)、フランス(六四)、イタリア(六二)、ベル
 ジック(四四)、フィンランド(三九)、デンマルク(二三)等を主とせり、而して同年の貿易
 品を種類別にせば輸入の主要部は粗製品(三、〇〇七)四、加工品(一、五五二)の

占むる所にして輸出の大部は食料品(六、八五一)八及粗製品(二、九二三八)より
 成れり。

通商港の名あるものはバルト海に於ける、ペテルブルグ、クロンスタット、ナ
 ルバ、レヘル、リガ、フィンダウ、リバウ、黒海に於ける、オデッサ、ニコライエフ、ヘルソ
 ン、エウパトリア、セオドシア、ケルチ、ベルチア、ンスク、タガンログ、マリウヅル
 ロストフ、イエイスク、ポチー、白海に於ける、アルハンジェルスク、オネガ、カスピ
 海に於ける、アストラハン、デルベント、バクー等なりとす、而して此の國の貿
 易に従事する船舶は出船に一萬一千七百四十九隻、一千四百四十萬一千噸、入
 船は一萬一千七百七十七隻、一千三百三十九萬五千噸なるが、外國旗船、〇二船、入
 二隻、一〇五二千噸、出船一噸、優勢なり、而して船舶の出入は、バルト海、〇千噸、出船
 〇二隻、三隻、一〇五二千噸、優勢なり、而して船舶の出入は、バルト海、〇千噸、出船
 〇三九千噸、黒海及アゾフ海、六九四三に多し。

内國商業は稍盛にして商賈の數は一百万以上に達し、純益高の概算は五
 億、ルーブルなり、而して取引は各地に開かるる定期市場にて行はる、殊にニ
 ジ、ノブゴロドの市場は著名なり、又南東の諸省并に、ポルスカには、ユダ

ヤ人にして商業に従事するもの甚多し。
 交通に就きて記さんにロシア帝國の海岸線の發達は四百五十方秆に付
 き一秆の割合にして航行し得べき河流は三萬五千秆あるも之を地積に對
 比すれば百五十五方秆に付き一秆を有するに過ぎず然のみならず冬季は
 凍結し夏季は水量減少して航行の便あるは春季に限れり然れども土地平
 坦にして山岳に乏しきは運河の發達を助け其の延長は一千三百餘秆に達
 せり商船(一九〇五年は三千三百四十隻汽船二八二五六十四萬餘噸四五二八
 帆船二五二五六十四萬餘噸四五二八)
 二六あるが主としてカスピ海(二三)黒海及アゾフ海(二二)バルト海(一六)にあ
 り鐵路(一九〇六年はヨーロッパロシアに五萬三千九百二十九秆ありて國有
 (三、三八七二)私有(一、七七九四)地方(二、二六四)の三種に分かるるかアジアに於
 けるものを加へば六萬三千七百十五秆と成る郵便局(一九〇四年は一萬三
 千九十四處ありて二億七千四百萬フランク餘を收入し電信線は各種合は
 せて線路十八萬六百四十秆延長六十一萬一千八百六十八秆ありて又電話
 線は線路八千六百二十二秆延長十三萬八千六百九十四秆の外に長距離線の

延長三千五百二十二秆あり。

處誌 ヨーロッパロシアはロシア諸州、ボルスカ、フィンランドの三大部よ
 り成れるがロシア諸州を分ちて更に六部バルト海諸州、大ロシア、小ロシア、とす。
 としてペテルブルグ、エストランド、リブランド、クールランドの四省あり。
 サシクトペテルブルグ(St. Petersburg) 北緯五九度五十六分三二秒はペテロ大帝
 東經三〇度一七分五二秒は

バルト海諸州

の創建(一七〇三年)に係りて全ロシアの首都なるがフィンランド灣に瀕しネ
 ー河に跨れり土地は濕潤に過ぎて寒氣は凜烈を極むるのみならず時に
 洪水の患あるも街衢は十三區に分れ道路端麗にしてネフスキープロス
 ベクト街の如きはベルリンのウンテルデンリンデンに優れるものあり宮
 殿寺院は屹然として高く聳え商店倉庫は整然として軒を並ぶ大學、學士會
 院、各種學會あり博物館、圖書館、植物園あり、兵器廠造兵廠あり、一九〇〇年に
 は約百四十四萬(一四三、九三七五)の人口を有するに至れり實に世界屈指の
 大都會たり軍港を以て有名なるクロンスタット(Kronstadt)(五、九五二五)は本府

レフェル
リガ
リバウ

の西三十二軒に位し、狭長なる小島コトリン(長一軒)にあり、レフェル(Revel)
(六、四五七八)はフィンランド灣に瀕して綿を輸入す、リガ(Riga)(二八、二九四三)
五、六度五七分七秒、東はデナナ河口より十一軒の上流にありて、オデッサに次げる
經二四度六分五九秒、東はデナナ河口より十一軒の上流にありて、オデッサに次げる
商港なり、リバウ(Libau)(六、四五〇五)はリガの西、微南、鐵路二百三十五軒に位
してバルト海に沿ひ第一流の軍港たり、港形佳良にして、氷結期(二週間は極
めて短し)。

大ロシア

大ロシアは一四七九年ヨアンバセロキッチの下に獨立した
りしがヨーロッパロシアの主部を爲してアルハンジェル、オロネツ、ポログダ、ノ
ブゴロド、ブスコフ、モスクバ、トフェル、ゴストロマ、ウラヂミル、ヤロスラフ、リエ
サン、ニジニノブゴロド、ツラカルガ、アリヨル、スモレンスク、クルスク、ポロネジ、
タムボフの諸省を包括す。

モスクバ

モスクバ(Moskwa)(一〇三、八五九一)北緯五五度四五分二〇秒は、ペテルブルグ
の南東、鐵路六百四十四軒、オデッサの北北東一千五百五十六軒に當り、オカ河
の支流たるモスクバ河の岸、海拔一二八米突の地に建てり、舊都の一にして

ニジニノブ
ゴロド

アリヨル
ボロネシ

トフェル

ロシア人の以て聖地と爲す處なるが、寺院極めて多く、其の數四百餘に達し
クレムルの宮殿は歴史上殊に有名なりとす、本府は此の國上流社會の避寒
地なれば、庭園別墅多く、廣袤甚大にして、頗る殷賑なり、從て商工業共に見るべ
きものあり、當地の西九十七軒にボロヂノ(Borodino)あり、一八一二年フラン
ス、ロシア兩軍の戦ひし處なり、ニジニノブゴロド(Nischni Novgorod)(九〇〇五
三)はボルガ、オカの相合する地に位し、年市場として名あり、造船に従事す、イ
バノボポスネンスク(Ivanovo-Wosensk)(五、四二〇八)は盛に綿布を製す、ヤロ
スラフル(Jaroslavl)(七〇六一〇)はモスクバの北東に於ける商業地なり、トフ
ル(Tver)(五、三四七七)はモスクバの北西に當り、ボルガに沿ふ商業市にして、汽
船の終航點なり、綿絲、綿布を製す、ノブゴロド(Newgorod)はイルメン湖の北に
位し、ロシア建國史上著名の地なり、アルハンジェル(Archangel)はドビナの口に
近くして、白海の主港たり、エカテリナ(Ekaterina)はロシアラプランドに於け
る不凍港なり、ツラ(Tscha)(一一、一〇四八)はモスクバの南に當り、鐵物殊に武器
を製す、アリヨル(Orel)(六、九九五八)はオカに沿ひ、煉瓦を製す、ボロネシ(Voro
世界地理提要 よーるば洲 ロシア 三百九十一

ニエツ(八、〇五九九)はドン河に沿ひ鞣皮、穀類等を集散す、ペンザ(Penza)(五、九九八)は紙を産し東境に近し。

小ロシア

小ロシアは一六八六年に於て獲得せられし地にして、バルコフ、キエフ、ポルタワ、チルニゴフの諸省を含めり。

キエフ(Kiev)(二四、七四三)北緯五〇度三〇分一〇秒はドニエプル河の瀕、海抜九〇米突の地にあり舊都の一にして寺院に富みロシア人の聖地として崇拜する所なり、又軍府としては防備堅固なるが商工業共に見るべきものあり、ヘルヂチン(Berditschew)(五三、七二八)はキエフの南西に當る商業地なり、クレメンチン(Kyementchug)(五、八六四八)はドニエプルに沿へる工業地なり、ポルタワ(Poltawa)(五三、〇六〇)はドニエプルの支流に瀕し煙草、熟皮の産あり、ベテロ大帝がカローロ十二世を破りし處とす、ハルコフ(Char'kov)(二七、四八四六)はポルタワの北東東にありて砂糖、石鹼等を産するが殊に年市を以て著はる、住民にはドイツ人、ユダヤ人多し。

南ロシア

南ロシア即ち新ロシアは主として一七九一年に獲得せられ

キエフ

ハルコフ

オデッサ

キシネフ

ニコライエフ

イェカテリノスラフ

ロストフ

たり、ベッサラビア、ヘルソン、タウリエン、イェカテリノスラフ、ドン地方等を包含す、オデッサ(Odessa)(四〇、五〇四)北緯四六度二八分三六秒は黒海に瀕す、創建は一七九四年にして爾來百餘年に過ぎざるも帝國第四の都會、第一の貿易港と成りて盛に穀類を輸出し製粉、其の他の工業行はる、キシネフ(Kishinev)(一〇、八七九六)はオデッサの北西に於ける商業地なるが商權はユダヤ人の手にあり、ニコライエフ(Nikolajew)(九、二〇六〇)はイングル河とブグ河との會流する處にありて海軍の要地たり、イェリザベトグラド(Jelisawegrad)(六、一八四二)は石鹼、蠟燭を製す、ヘルソン(Cherson)(六、九二一九)はドニエプルの下流に沿ひ穀類、木材を輸出す、イェカテリノスラフ(Jekaterinoslaw)(一一、一一一六)はドニエプルに臨みて皮類、生毛、獸脂を集散す、セバストポール(Sewastopol)(五〇、七一〇)は城塞地にして良港を有するが、クリミア戦争に依りて其の名著はれたり、ケルチ(Kertch)は海峡に臨みて港を有す、タガンログ(Taganrog)はアゾフ海に瀕するが黒土地方の穀類、ドネツ炭田の石炭を輸出す、ロストフ(Rostow)(一一、九八八九)はドン河の下流に於ける港なり、ノボチルカスク(Nowo Tscherkask)(五、

二〇五五(は年市を以て知らる。

東ロシア

東ロシアはカザン及アストラハンの汗國の地を含めるが一五五〇—八〇年に獲得せられ十省に分かる。

カザン

カザン(Kazan)一二五九九はボルガの東に於ける商業地にしてシベリ

サマラ

アとの取引に見るべき者あり、石鹼、皮革の製造に従事す、ペルム(Pere)四五四〇(三)はカマ河に沿へる商業地にして冶金に従事す、サマラ(Samar)九、一六七

サラトフ

(二)は小麦、クミス酒の産地にありて馬を飼養す、サラトフ(Saratov)一三七一〇

アストラハ

九はボルガに沿ふ工業地なるがロシア、中央アジア間の商路に當れり、ツァリツイン(Tsaritsyn)五、五四八八はボルガに瀕して温泉を有す、アストラハン(Astrakhan)一一二八八〇はカスピ海貿易の主港なるがボルガの河口を溯るこ

と約八十軒にありて漁業に従事す、オレンブルグ(Orenburg)七、二七四〇はウラル河畔に於ける鑛業地なり、イカテリンブルグ(Ikaterinburg)五、五四八八はウラル鑛區の中心なり、チェリアピンスク(Tcheliabinsk)は交通上の要地たり。

西ロシア

西ロシアは一七七二—九五年に獲得せられたり、キエフス

キルナ

ク、コフノ、キルナ、グロドノ、ミンスク、モヒレフ、フリニエン、ポドリエンを含めり。

コフノ

キルナ(Wilna)一五、四五三二はリタウアの舊首府なるが今は軍府の一にして商業も盛なり、住民にユダヤ人少なからず、コフノ(Kowno)七、三五四三は

ミンスク

ニエメン河に沿ひ小麦、亞麻を集散するが住民にユダヤ人多し、ヂャナブルグ(Dinaburg)六、九六七八即、ドビンスク(Dvinsk)は西ロシアの一軍府なり、キテプスク(Witebsk)六、五八七二も亦ヂャナ河に沿ひ農産物の倉庫地たり、ミンスク(Minsk)九、一四九四はブリベットの流域にあり居民にユダヤ人多く商業稍盛なり、グロドノ(Grodno)四、六八七二はニエメンの右岸にありて煙草を製す、ビ

エロストク(Belostok)六、三九二七は、ポルスカの境に近くして毛織物の産あり、住人にユダヤ人多し。

ポルスカ

ポルスカの意、即、ポーランドは舊一王國なりしが、一七七

二—九五年に於てロシア、プロイセン、エステルライヒの爲に三回に分割せられ、一八〇七年のチルシット條約によりて形成せられしワルシヤ侯國は一八一四—一五年のキーン條約ありし爲、其の大部ロシア領に歸し、一八三〇

一三二年の叛亂も失敗に終りて「ツァール」の主權者たるを甘せざるべからざるに至れり、要するに今のロシア領ボルスカは往昔の強大なりし王國の一部に相當するものなるが十省を包有せり。

ワルシヤ (Warszawa) (六三・八二〇八) 北緯五二度一分四分六秒 東經二二度一分四分九秒 はワルシヤ (Warszawa) とも云ふ舊一王國の首都たりし處にして、ペテルブルグの南西一千百二十七軒、ワイクセル河畔にあり、往昔の如き盛況を呈せざるもロシア第三の都會にして宮殿寺院を有し、軍府の一たるのみならず商工業にも見るべきものあり、ロツ (Lodz) (三一・四一一〇) はワルシヤの南西百二十二軒に位し、ロシア第五の都會たり、線絲の紡績綿布毛織の製造鐵器の製作に従事す、ノボジエオルジエウスク (Novo-Georgie sk) はキスチラとナレフとの合流地にありて要塞を有す、ブレストリットウエキイ (Brest-Litvskiy) (四六・五四二) は交通上の要區にして軍府の一たり、チェンストホフ (Czenstochowa) (四・五〇四五) はドイツの國境に近し、ルブリン (Lublin) (五〇・一五二) はワルシヤの南東に位し、煙草「ビーン」等の産あり、イワンノゴロト (Ivangorod) はキスチラ防禦線の要塞地たり。

ワルシヤ

ロツ

ルブリン

◎ フィンランド

フィンランド (Finland) 大侯國はロシアの北西部にありて三十七萬四千方、纤弱の地積を有せり、土地は主として花崗岩層より成りて起伏を呈するも、海拔は著しからず、フィンランド灣の沿岸には絶壁多く、小灣峽灣に富みて、無数の島嶼は航行の妨害を爲す、又此の地が不流の瀦水に富めるは實に世界無比にして、サンクトミカエル省にありては沼湖は地積の半以上を占む、此の外殊に記すべきは河流が互に並行するの一事なり、氣候は凛烈なるも健康に適し、七月に亘る冬期は嚴寒なれども夏季は溫暖にして殊に乾燥を極む、人口は一九〇三年に於て約二百八十二萬人ありて一方、千八人の割合なるが、同緯度の諸國に比すれば住民の多き方なり、而して之を種族別にすれば、フィンランド人 (二三・五最) 多く、其の他はスウェリゲ人 (三五)、ロシア人、ドイツ人、ラップ人等に屬せり、移住者の數は約七萬二千人なりとす、信教上はルーテル派の新教を奉ずるもの (二六六最) 多く、ギリシア正教徒は二割に達せず。

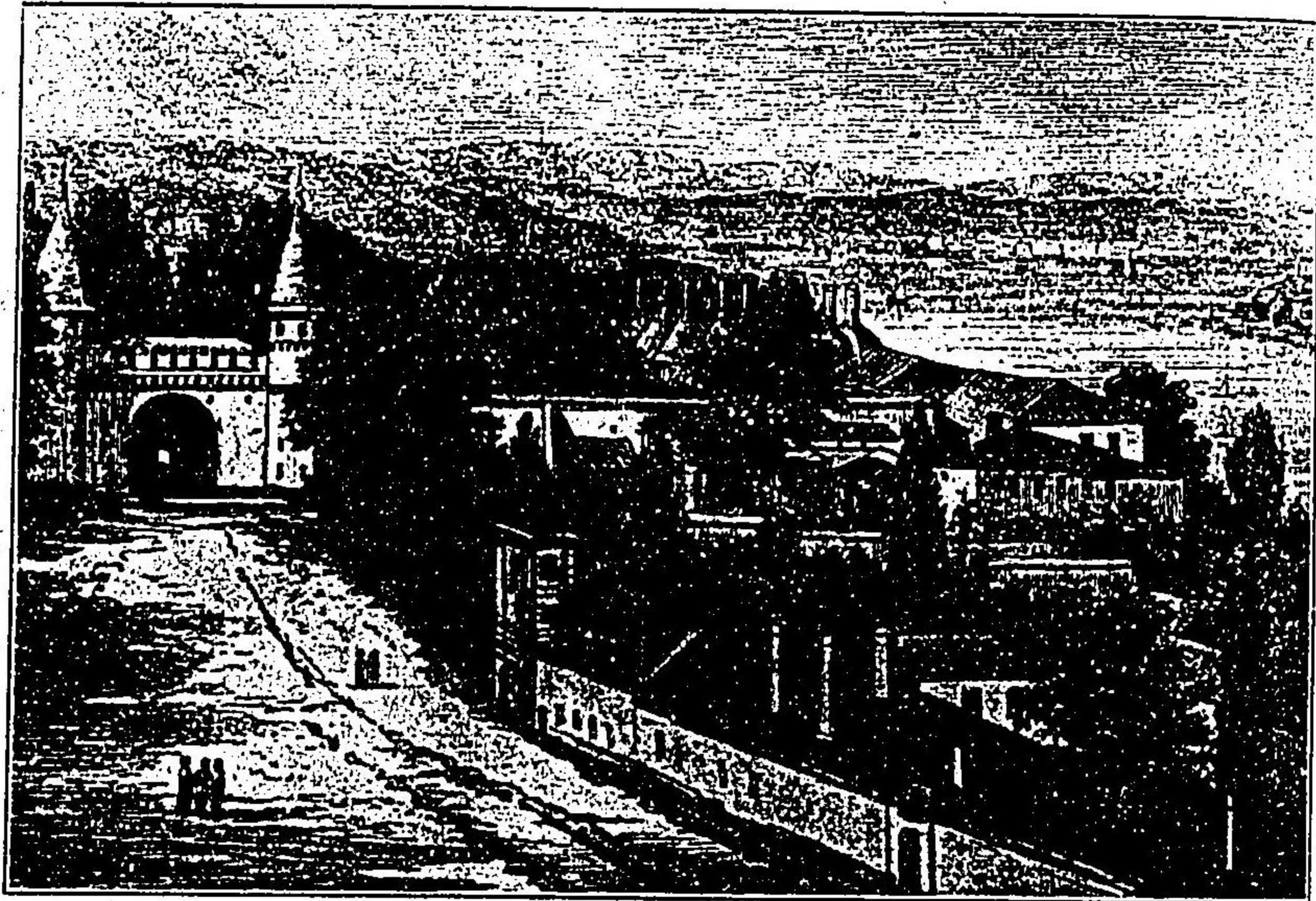
土地

住民

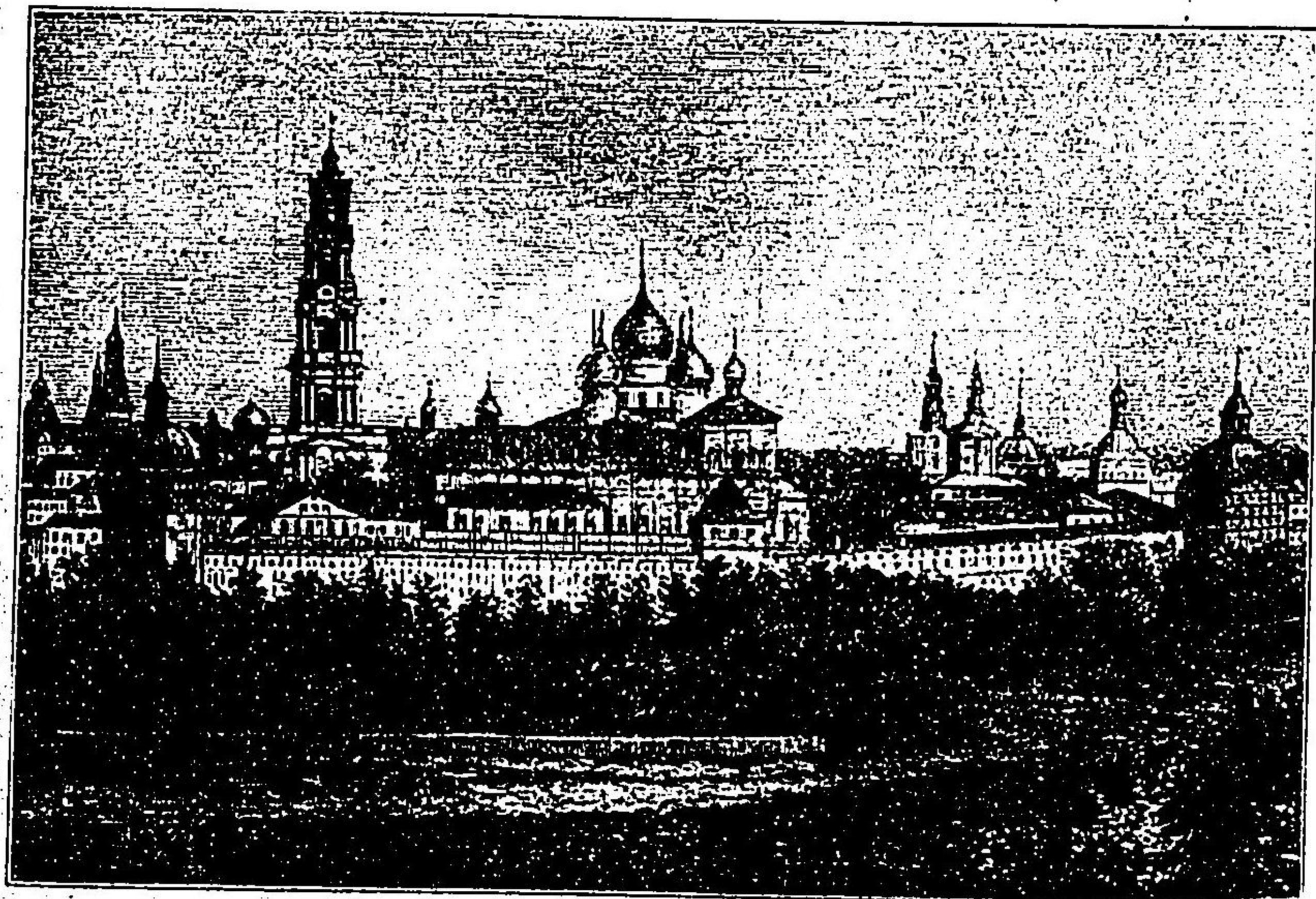
政治

世界地理提要

よーろば洲 ロシア



舊城 (Serail) とボスホロスの南端 【コンスタンチノブル】



トロイツァ (Troitz) の寺院

生業

ヘルシング
フォルス

オガ

國に内屬したるも、特立の大侯國にしてロシア皇帝を君主に戴き、大侯の代理者たる總督の下に元老院ありて内政を司り、又代議院も設けらるべし、而して地方は八省州に分たる。

沼湖森林は土地の九割を占め、耕地は八千方軒に過ぎざるも、農業は生業中にありて首位を占め、牧業は二萬七千五百方軒の牧地に於て主として馬を飼ふ、又此の地の大理石は著名なり、貿易は一九〇五年に於て二億六千八百二十萬マルク〔金〕を輸入し、木材〔バタ〕紙及〔セルローズ〕等の二億四千七百八十萬マルクを輸出せるが主としてロシアと取引す、入船は約二百四十四萬噸にて出船は凡そ二百四十二萬噸なるが、商船は三十五萬噸に餘り、鐵道は三千三百二十九軒に達せり。

ヘルシングフォルス (Helsingfors) 一一・一六五四北緯六〇度 九分四三秒 東經二四度 五七分一七秒は大侯國の首府にして造船所、大學等を有するが、ペテルブルグの西、海路百九十浬、鐵路四百二十二軒に位し、木材、紙〔バタ〕等を輸出す、附近のヌエオボルグ (Sveaborg) に軍港あり、北のジブラルタルと稱せらる、オボ (Abo) 四二・六三九はボスニア

コンスタンチノープルは舊名をビザンズ (Byzance) と云ひホスボロスの南端にありて金角灣長さ九軒半軒に跨れるを以て三部を爲せり、其のトルコ街即ちスタンブル (Stambul) は金角灣の南方、七丘上に建てり、舊城「セライユ」を始めとし有名なソヒア大寺、官衙、「バサル」倉庫等あり。其の自由街即ち四人街は金角灣の北方にあり、三橋に依りて南街に速りカラタ (Kalata) スラ (Pam) トンノネ (Top-Hane) 等に分かる。新宮城、各國使臣館銀行、商館、等の所在地たり、其の黄金街即ちスクタリ (Sankari) はアジアにあり、廟墓の地として知らる。
ホスボロス (Hospitios) 牛の道路の礎は黒海とマルマラ海とを連ぬる水道にして二十七軒の長さな有するが屈折して兩岸に七軒七軒を呈し四岸に三十一軒、東岸に二十七軒の延長を興ふ。幅は五百五十米突乃至三千二百米突にして「セライユ」岬に於ては一千五百米突あり、深の平均は約二十七米突、最深は五十二米突なり、流れの方向は風の方角に従屬するも南流多く一時間に五軒の速度を有することあり。

トロイツァセルシエホ (Troitza-Sergievo) はモスクワの北々東六十四軒にあり、食器、玩具等の製作に見るべきものなきにしもあらざるも本市の生命は主として有名なるトロイツァ僧院に繫れり、院は新ロシアの大聖義軍の勇士たるセルシスの創建に係りて數多の祈念堂、廟墓、等を包蔵し、ギリシア正教徒の誇稱する堂宇四百八十八處中屈折のものにて四大「ラアラ」(Lavra) (僧院) の一なるが殊に當國統一事業上に資すること極めて大なりしを以て世に聞ゆ。

タンメル
フォルス

灣に近き商業地にして穀類、鐵、木材等を集散し又造船に従事す、タンメルフォルス (Tammerfors) (四〇二六一) は工業地にして綿布、亞麻布、紙等を産す、ビボルグ (Viborg) (三〇四六七二) はカレリアの舊都の地にして小港を有せり。

北部

● スカンデナビア

スカンデナビア (Scandinavia) はスカンデナブ種族の住域に當りてスカンデナビア及、イールランド (Ireland) イギリス人のの兩半島と其の間に於ける島嶼とより成りて、約八十一萬八〇、八一八九方軒の面積を有せり。

スカンデナビア半島はヨーロッパの北部に於ける一大半島にして北緯の五十五度二十分と七十一度十二分との間にあり、地積は約七十七萬方軒と計上せられ長は約一千八百五十軒にして幅は凡七、七百二十四軒なるが幅の平均はスエリダに約四百軒、ノルゲに凡三百二十軒なり。

海岸は屈折に富みて延長は約二萬四千軒に達し、地角に北岬、フアルステル

世界地理提要 よーろば洲 スカンデナビア 三百九十九

海岸

境域

地勢

ボリンドスネス等あり、ワランゲル、トロニエム、ソグネ、クリスチアニア、其の他の「フィヨルド」(Fjords) 峡灣は深く陸地に侵入するが、殊にソグネ峡灣の如きは百七十軒の長を有せり、而して峡灣の沿岸はスエリゲにありては彎曲に乏しきも、ノルゲにありては山岳高く聳え最淺の處は灣口にあるを常とす、又島嶼の主なるものはゴトランド、オーランド、ロフォデン等なり。

顯著なる凸處は西部一帯の地を蔽ひて六百乃至九百米突の地盤の上に臺地又は山衆を形成せり、而してトロニエムの凹窪處の北にありてはキエレン(Kjølen) はフィンマルクに終り、南に於てはドブレ(Dovre) 并に南ノルゲの山脈あり、又最高の地はメルゲにありてはガルドヘッピンゲン(一五六〇) スネハット(二三〇六) 等にして、スエリゲにありてはアーレスクタン(二六〇四) スリテルマ(二八六九) サリエクチオッコ(二〇九〇) ケブネカイゼ(二一二三) 等なり、又氷河はノルゲのホルゲホン、ヨスタダ、ルズブレ面積九百方軒、スハルチセン等を著しとす、而してスエリゲの氷河の總面積は百七十方軒に過ぎず。

分水嶺の西部に偏在する爲、河流はノルゲにありては短小にして急流な

河湖

氣候

れども、スエリゲにありては稍長く其の南部を流るるものは航行の便を供せざるに非ず、就中グロムメン(Glommen) 六四〇、カリスエルフ(四三六)、リウスネエルフ(三九二) 等は稍著し、而して瀑布の最、有名なるはマアン河に於けるリウカンフォス(Rjukan Foss)、ハルダンゲル峡灣に近きフリングフォス(Vöring Foss) ゲテエルフにあるトルルハッタ(Trolltatte) 等なりとす、又沼湖はノルゲの地積の千分の二十五を蔽ひ、スエリゲの十二分の一を占むるが、エネルン(五五六八) 方軒、エテルン(Vetern) 一八九八、メラル(Molar) 一六三三 等は稍著し。

ノルゲに於ては氣温の年平均は二度五分なるが、西部は海候にして北海并に北極洋に瀕するの地には降雨多く、ベルゲンにては二百一十一軒に達す、要するにノルゲの氣候は比較的に溫和なりとす、之に反してスエリゲは陸候の國にして北部の年平均は零下二度、南部の平均は七度なるが、雨量はウブサラに於て四十一軒に過ぎず。

スカンデナヴィア半島にはスエリゲ、ノルゲの二立憲王國ありて、一八一四年以來同一の君主の下にありしが、一九〇五年に至りて全く分離せり。

住民

◎ スエリゲ

スエリゲ(Sverige)はスエーデン(Sweden)或はシウェーデン(Schweden)とも呼ばれる憲政王國なり、人口は五百二十九萬餘人なるが多數はスエリゲ人にしてフィンランド人は二十二萬、ラップランド人は七千弱あり、信教上はルーテル派の新教を奉ずるもの五百七萬餘人あり、教育は普及して讀書を知らざるものは全く其の跡を絶ちしが、一萬二千餘の小學校は約七十五萬人の生徒を教養し、ルンドとウプサラに於ける大學は學術の研究に従事せり。

生業

スエリゲの陸地の過半は森林にして百分中五〇・九を占むるが耕地は僅に八・七にして天然の牧場は三・五なりとす、農業は麥類馬鈴薯等を與へ一九〇三年に於ける總産額は二億五千六百九十萬クロネルなりき、牧業は牛二五八萬頭(羊一二〇、豚八二、馬五四)等を飼養す、鑛業は亦主要なるものにして鐵(四〇八萬噸)銀、鉛、石炭等を産するが、製鐵所は甚だ多く殊にモタラを以て主とす、此の外漁業にも見るべきものあり、工業に就きては製粉(九四〇七、クロネル)製鐵(五六七七)、器械(五二二七)、精糖(四九二七)等あり、殊に製紙用木餅(三九

五八)製紙(二九一九)は一億六千九百七十九萬クロネル弱の産額に達する製材業に關連して大なる生産力を有す、一九〇四年に於ける貿易は輸入に五億七千八百四十五萬クロネル、輸出に四億一千四百七十二萬クロネル餘あり、主としてイギリス、ドイツ、ダンマルク、ノルゲ、ロシア及びフィンランド等と取引するが主要輸入品に石炭、ライ麥及び小麥、鐵物器械、珈琲綿花、皮、生毛、石油等ありて主要輸出品は木材(一三七)、鐵(六〇)、タバコ(三五)製紙用木餅(四二)、紙(二〇)等なり、而して入船は九百十一萬噸にして出船は九百二十三萬噸なるが商船(一九〇五年)は二千九百六十九隻約六十七萬噸あり、鐵道は國有、私有合はせて一萬二千七百十五軒、郵便局は三千六百二十、電信線は凡、延長三萬一千軒、電話線は凡、二十三萬軒の延長あり。

ストックホルム

ストックホルム(Stockholm)三三、四四八八(北緯五九度二〇分三四秒はスエリゲ

王國の首府なり、メラル湖上に於ける十二三の島嶼に跨り風色佳なり、砂糖、煙草、織物等を製し、ドイツ、ロシアに對する取引少なからず、ウプサラ(Upsala)

ゲフレ

(二、四三三三九)はストックホルムの北北西にありて稍、名を知らる、ゲフレ(Gefle)三三、

世界地理提要

ヨーロッパ

スカンデナヴィア

ノルケピン

マルメ

グテボルク

○八四二はボスニア灣に沿へる商港なり、ノルケピン(Orkoping)(四、四七六〇)はストックホルムの南西に於ける工業地にして砂糖、紙、煙草等を製す、カールスクロナ(Karlskrona)(二、六六七三)は南岸にありて海軍造兵廠を有す、マルメ(Malmö)(七、二四五九)はスンド海峽に沿ひ繁華なる港を有す、ヘルシンングボルク(Helsingborg)(三、〇二九四)も亦南スエリゲの海港なり、グテボルク(Göteborg)(二、四〇八五二)はゲータ河の口に於ける商港にしてカッタガット海峽に臨めり。

◎ノルゲ

ノルゲ(Norvege)は立憲王國にしてノルウェーゲン(Norwegen)又はノルモー(Nor-mey)とも呼ばる、凡そ二百二十四萬の人口中フィン人、ラップ人等は合はせて二萬餘に過ぎざるが、ルーテル派の新教を奉ずるものは二百二十四萬人を超ゆ、教育の普及はスエリゲに劣らずして約八千六百の小學校は四十四萬許の生徒に普通の知識技藝を授けクリスチアニアの大學は高等教育を施す、土地の七割五分は不生産的なるが二割二分は森林にして三分は耕地なり、而して森林は六萬八千餘方秆ありて其の七割三分は松杉科に屬せり、農

生業

住民

業は穀類、馬鈴薯等を興へ、牧業は馬、牛(九五萬頭)、羊(一〇〇)、山羊、馴鹿等を飼養す、然れども生業中にて最盛なるは漁業にして漁夫約十一萬人、總産額二千九百三十六萬クロネルなり、主要漁獲物は鱈(一二九〇)、鯷(七九三)にして鱈漁に従事するものは七萬六千人に近し、鑛業は有力ならず、一九〇五年の貿易は輸入に三億一千二百三十四萬クロネル弱ありて、輸出は二億一千七百九十六萬クロネルなるが、イギリス、ドイツ、スエリゲ、ロシア及フィンランド、オランダ等と取引を行ひ、主要貿易品は輸入に穀類、織物、殖民地産物、金物、石炭等ありて、輸出に獸類皮、動物性食品(六七百萬)、クロネル、木材(三五)、木具(三四)、鑛物(二二)等あり、入船は三百九十五萬餘噸にして出船は三百九十六萬噸に近かりき、商船は一九〇五年に於て七千三百二十隻ありて、帆船は五千八百四十三隻、汽船は一千四百七十七隻なりしが、總噸數(一九〇六年)は百四十八萬餘噸(汽船八〇、九六五〇ありて世界屈指の海運國なり、鐵道は二千五百六十秆に止まり、郵便局は二千八百七十四を備へ、電信線は延長一萬九千四百三十秆あるが、電話線は延長約十四萬六千秆あり。

クリスチアニア

ベルゲン

トロンヘム

スタバンゲル

クリスチアニア(Kristiania)二二七六二六^{北緯}五九度五四分二四秒は王國の首都にして峽灣に瀕し商工業の中心として船舶の製造木材の輸出等に從事す。ベルゲン(Bergen)七二二五二^{北緯}六〇度二三分五四秒は西岸に於ける商港にて鱈漁の中心なり。トロンヘム(Tromsø)三八一八〇は當國の舊都たりし處にして商港を有し、鐵路に依りて國都并にスエリゲに通せり。スタバンゲル(Stavanger)三〇六一三三はベルゲンの南に於ける要港にして魚類を輸出す。ドランメン(Drammen)二二三〇九三も亦一小港に臨めり。フレデリクスハルド(Fredrikshald)二一九五七はクリスチアニアの南南東に於ける軍港なり。ハムメルフェスト(Hammerfest)はヨーロッパ最北の都會なり。

◎ダンマルク

ダンマルク(Danmark)即ちデンマルク(Denmark)は代議的王国にしてイールランド半島の北部とゼーランド(Sjælland)ヒネン(Finlen)ホルンホルム(Bornholm)其他百五十有餘の島嶼とより成るも、地積は三萬八千餘方呎に過ぎずして之にフェルエル諸島を加ふれば約四萬方呎を得るなり。

境域

土地

土地は平低にして起伏少なく、處に依りては堤防の築造を要するが、最高處たるアイエルバンネヘイ(Eier Baynehe)と雖、百七十二米突に過ぎずしてヒンメルベルグの如きは百五十三米突に止まれり。島嶼部に於けるリッテルクネグト(一六二)も此等と伯仲せり。沼地は多くして泥炭田は各處にあり、河湖は多きも著大なるものなし。氣温はスカンデナビアの二國に比すれば稍高く、キヤペンハーフンの年平均は七度四分なり、而して冬季の寒氣は烈しからざるに非ずして島嶼間の小水道は凍結す。

住民

人口は一九〇一年に於て二百四十六萬餘人ありて、信教上はルーテル派の新教徒(二四二萬)最多し、教育は盛にして大學も一校を備ふ。

生業

住民を職業別にすれば農林に従事するもの(九七萬)最多く、工(六九)商(三七)等之に次がり、而して土地の八割は生産地にして、農業は麥類、馬鈴薯、甜菜、其他を栽培し、牧畜と共に重要なものなり、此の他に製粉、蒸溜、醸造等の行はるるあり、一九〇四年の一般貿易は輸入に五億九千九百廿四萬餘クローネルありて、輸出に四億九千七百八十四萬クローネル弱あるが、主としてイギリス

ドイツ、合衆國、スエリゲ、ロシア等と取引す而して特別貿易輸入四四六百萬、輸出三五八百萬に就きて主要輸入品は穀類、油槽、石炭、鐵管、綿布等なるが、主要輸出品は「バター」(二五百万)、クローネル、肉類(九二)、獸類(三七)、鶏卵(二五)等なり、商船に四十三萬餘噸ありて、鐵路一九〇五年に三千八百八十二軒あり。

キオペンハーヴン
ハーヴン
アアルフス
オデンゼ
アアルボルグ

キオペンハーヴン(Kjøbenhavn)四二、六五四〇(北緯五五度四一分一三秒はコペンハーヴン)とも稱せらる、ダンマルクの國都にして、ゼーランド島の東岸に位し、要港の一たり、往昔の盛況を呈せざるも、商業繁榮し、鑄物、紡績、造船、蒸溜等の諸業行はれ、北ヨーロッパ第一の都會たるを失はずして、著名なる大學を有す、アアルフス(Århus)五五、一九三は、イールランド半島の東岸に位し、穀類、家畜を集散す、オデンゼ(Odense)四、〇五四七は、ヒッネン島にありて、製皮に従事す、アアルボルグ(Ålborg)三一、五〇九は、リム峽灣に沿へる港なり、漁船の出入少からず。

フエルエル(Føer)諸島(一三九九方寸)は二十二島より成りて、住民(一、五二三〇人)は漁業、蠶業等に従事せり。

殖民地

ダンマルクの屬地は十九萬餘方寸あるも、住民は十二萬餘人に過ぎず。

地	方寸	地積	人口	方寸
殖民地		一九、三三四四	一二、〇八九二	〇、六
イスランド		一〇、四七八五	七、八四七〇	〇、七
グリーンランド	解氷を見 る土地	八、八一〇〇	一、一八九五	〇、一
西印度		三五九	三、〇五二七	八、五

イスランド

イスランド(Island)即ちアイスランド(Iceland)はヨーロッパ第二の大島にして、面積は十萬方寸を超ゆ、海岸は北西及び東部に於て屈曲多く、内部は約六百米突に達する火山質臺地を爲し、エレフアイェクル(一九六〇)、スネフェル(一八二二)、ヘクラ(一五五七)等の聳ゆるあり、氷田の最大なるものはファトナイェクルにして約七千七百七十方寸に達す、温泉は處々に散在し、大ガイサーはヘクラに近く位置せり、河流は少なからずして、湖沼も亦多し、氣候は南部に於てはスコットランドの北部に類し、北部は一層乾燥にして寒冷なり、殊にグリーンランドより流水の達すると否と依りて、氣温は著しく昇降す、天産は乏しきも

世界地理提要 よーろっば洲 スカンデナビア 四百九

「エイデル、蛙、鱈、鮭、硫黄等あり、住民は四、二〇六八方軒の地にあるのみにして
總計は八萬人に達せず、首府レイスキアビク(Raiskivik)は南西岸に於て一小
邑を爲せり。

中部

ドイツ

境域 ドイツ國(Deutsches Reich)は、グーテニー(Germanny)ナルマンニア(Allemagne)
等の稱呼を有す、中央ヨーロッパの北部を占め、北緯四十七度より五十六度に
至り、東經六度より二十三度に達せり、北は北海(四七二軒)ダンマルク(七六)東
海(一四九二)に接し、東はロシア(一一五七)に隣し、南はエステルライヒ(二二五
六)、シツワイツ(四一二)、西はオランダ(六〇七)、ルクセンブルグ(一七九)、ベルジック(一
一三)、フランス(三八九)等に連なり、東と西との境界は自然的ならざるが、南西
より北東に至る長は約一千三百七十軒にして、南北の幅は凡九百三十軒に
及び、面積は五十四萬方軒を超ゆ。

海岸 海岸線の延長は約一千九百六十軒ありて、其の四百七十二軒は北
海に屬し、殘餘はバルト海に屬せるが、一般に平低にして、屈曲に乏しく、灣に
クリッシェス、ハフ、フリッシェス、ハフ、ダンチヒ、ステッチネル、ハフ、リッベック、エルベ、エーゼ
ル等あり、島嶼にリッゲン島、フリーマルン島、アルゼン島、北フリース諸島、ヘル
ゴランド島、フリース諸島(東部)等あり。

地勢 ドイツの地はアルプ山地、アルプ前地、中央高地、北部平野の四部
に分かる、アルプ山脈にしてドイツに屬するはコンスタンツ湖とザルツブ
ルグとの間に過ぎずして二千米突内外の高を有せるのみ、アルプ前地はコ
ンスタンツ湖とインの河口との間に横たはりて、シツピア、バイエルン高
原、其の北境を爲し、ドナウの流域に屬するが、平均海拔は約五百米突なり、中
央高地はドナウの北にありて、カルバット山脈よりライン河に至る、海拔は一
千五百米突を超ゆるもの殆どなし、北部平原は百八十米突を超ゆる處稀にし
て、主として沖積質并に氷河的の粘土及砂より成れり、要するにドイツの平
均海拔は二百十四米突に過ぎざるなり。

ドイツ的表意(Von Reis Zum Meer)岩より海への義)に従ひてアルプ山地よりバルト海に越れば土質外觀等に差異の存するありて三大地方の別を見るべし、高蓋地とドナウ、ネツカル、マインの高谷とより成れる南ドイツ、山岳高隆ならざるも土地は起伏に富み肥沃なる坤圃耕地多く、鐵産に乏しからざる中ドイツ、井に砂地、沼地、泥炭地、荒蕪地、森林地を包括する平野にして高地より流れ来る並行大河の爲に潤さるる北ドイツ是なり、而して此等の地域の西方に當りて利害を均しうするも地形の錯綜せるライン地方あり。

南ドイツは北の方アルプ山脈に據り南の方中ドイツの山麓に達するが流水はネツカル、マイン等に依りてライン河に趣き又はドナウ河に注入す。

中ドイツは幅百五十料内外の高隆帯の爲に縦貫せられ、起伏の情態自三群を呈し、專屬の河流に依りて疏水せらる即ち東方に於けるザクセンのエルムに、チウーリンゲンのサアルに、ヘッセンのエセルに對するが如し、而して西方にあるラインの片岩質山地も亦前記の高隆帯に關連せり。

北ドイツは主として北ヨーロッパの大平野に屬し約一千料の長と百五十乃至五百料の幅を有するが、面積は帝國の中を越ゆるも海拔は概百米突以下なり、最高處はタンナッロ附近のチンハルロ(Timberg)にありて標高は三百三十四米突に達せり、而して東部は粘土又は砂礫にて蔽はれ湖沼極めて多く、沿岸にはハッフ(Haff)即ち潟の存在を認むるが、西部には沼地、泥炭地多く、沿海地にはマルム(Marsch)即ち「シーヌイ」(Geest)

ありて沖合には東フリース諸島(Ost Frisische Inseln)の連鎖的に配置せらるるを見るべし。

山誌 アルプ山脈は東西に走れるが、ボージ(Vogel)ハント(Hardt)シワフルツワルド(Schwyzwald)オーデンワルト(Odenwald)スペッサルト(Spessart)等は南南西より北北東に向ひ、シムスロムマント(Schwabischer Jura)フランクマンナ(Franken Jura)ローネ(Rhön)フンズリック(Hunsrück)タウヌス(Taunus)エスターワルド(Wesertwald)等は南西より北東に走る、之に反してハルツ(Harz)エーゼルベルグ(Weserberg)トイトブルグワルド(Teutoburgerwald)チャーレンゲルワルド(Phiringerwald)ブーメルワルド(Böhmer wald)バイエリシエルワルド(Bayerischerwald)等は北西より南東に趣けるもの如し。

水誌 ドナウ河は東流して遂に黒海に趣くも、其の他の河流は概南東より北西に向ひて北海或はバルト海に入る、其の北海斜面にライン、エムス、エゼル、エルベあり、其のバルト海斜面にオーデル、ワイクセル(Wielche)メメル(Memel)等あり而して北部平原の河流は各流域の中心を過らずして西方に分

河流

水嶺に近づきて走り最長の支流を右岸に受く假令ばエニスに對するハア
ゼ(Hase)エセルに對するアルレル(Aller)エルベとハーフェル(Havel)オデール
とネツヒ(Netze)との如し。

オーデル(Oder)河はエントテルライヒに發源するもプロイセンに屬する部は九百
料に達す水深著しからずして沙洲の横はるあれば航行に便ならず、プレスラウを
過ぎりゲメル、ナイセ、等を左岸より受け、ホツツを合はせ來るワルテを右岸より容れ
ステチン附近に於てダス、ハッフ(Das Haff)に入りユゼドム、チリン二島の間よりバルト
海に通ず。

エルム(Elbe)河はメーメンに發源しシランダウ(Schandau)の峡谷を経てザクセンに來
リドレステンを通過したる後、ザアル(Saale)河を左岸より、スプレア(Sprea)河を堤げ來
るハーフェル(Havel)河を右岸より受け、河口を距ること百二十料に於てハンブルク
に接したる後、下流は漸く廣湖と成りて河灣を爲せるも沙洲多く水底淺く船舶の出
入はクックヌ、ハーフェンに依りて行はる。

エセル(Weser)河の源流をフルダ(Fulda)及ヴェラ(Werra)と云ふ、其の相合するや通舟
の便備はリエヌトフン門に於てエセル山脈を貫きて北ドイツの平野に出でア
ルレル(Aller)河を容るるも水層薄く沙洲の間を北西に流れて北海に朝す。

沼湖は北部平原に甚多くして殆ど枚舉に暇あらずと雖、中央高地には記す

沼湖

に足るものなく、南進すればボーデン(Boden)湖の外にアンメル(Ammer)キッル
ム(Würm)ケーニッ(König)ヒエム(Chiem)等の諸湖あり。

氣候 高地と海洋との關係は此の國に於ける降雨の情勢を定めたり、平
野にありては西より東に趣くに從ひて陸候の度を増し、雨量はブレメンの
七十糧、ベルリンの五十九糧、ダンチヒの四十八糧と漸次に減少し、寒暑の差
は愈、強く、氣温の變化は漸く激烈と成る、而して西部并に南部にありては氣温
稍、高く降雨多く變化は漸く少なし、フランクフルトに於ける年平均は十度な
りとす、又南東の高地并に山岳の地にありては冬季は嚴寒を覺ゆ。

沿革 西紀前四世期の頃ローマ人は始めてゲルマニ種族の存在するを知れり、當
時彼等はエルベ、ライン間に住し、マインの北にありしが次第に地を擴めて西紀四
世期の頃は益々、ローマの領土を侵し遂にフランク國を建設せり、紀元八〇〇年法王
より帝冠を授けられしシアルルマースはザクセン、ウングアルンをも從へ、帝の没後國
は分裂してドイツ、フランスを生ぜしなり、其の後オットー大帝出でて國境を進め、エ
スパニア王カローロはドイツ、ノーテルランド、イタリアの大部分を支配せしことあ
りしが宗教改革、三十年戦争の結果帝國は割據の姿と成り一時は約三百國を數へ
しと云ふ、ナポレオンの出づるやライン同盟は彼を盟長と仰ぎ一八一五年にはド

イツ聯邦と變じたり、其の時聯合せるものは三十五國なりき而して聯邦に於ける
覇權の掌握に關して紛争ありしがエステルライヒは聯邦より除去せられプロイ
セン代て盟主と成るに至れり、爾來フランスとの戦争(一八七〇―七一年)に依りてエ
ルザッス、ロートリンゲンを得たるの外は著しき變化を見ず、又ドイツの殖民的擴張
は一八八四年に始まりて漸次に領土の發達するを見たり。

住民 人口は約六千六百四十萬人、男二九八八、三、四にして一方糶に付き百十
二人なるが、一八七一年以來の増殖は約一千九百五十萬人なり、而して住民
を國籍別にすればドイツ(五五五八、七)、外國(七七、八)と成り、後者はエステルラ
イヒ(三七、二)、オランダ(八、八)、イタリア(六、九)、シツウィツ(五、五)、ロシア(四、六)、ダンマル
ク(二、六)、フランス(二、〇)等より成れり、又一九〇五年に於ける海外往住者は約
二萬八千人にして主として合衆國に向へるが、一九〇一年の調査に従へば
外國在留ドイツ臣民は三百五十萬人以上にして、其の二百六十六萬九千餘
人は合衆國に住み、殘餘はエステルライヒ(一一、四)、シツウィツ(二六、八)、ロシア(一
五、二)、フランス(九、〇)、ベルジック(五、三)、イギリス(五、三)等に居りたり。

宗教

ドイツ人中にても北部のプロイセン人、南部のバイエルン人が歴史、習慣

教育

等を異にする如く、宗教上に於けるも北、南、東の三部は各、其の趣を異にせり、
新教、信者は其の數三千五百二十三萬餘人にして北部、中部に多く、ローマ公
教の信者は二千三十二萬餘人にして南部、東部にあり、而してユダヤ教を奉
ずるものは五十九萬人に近し。

教育は甚だ盛にして各種の機關を具備し、一九〇二年に於て壯丁中の無學
者は〇、〇四に過ぎざりき、初等教育は強制的にして年齢は六歳より十四歳
に達し公立の國民學校(Volksschulen)は五萬九千餘ありて、四億二千萬マルク
弱に依りて八百九十二萬餘の生徒を教養するが、私立には六百四十三校、四
萬一千餘人あり、中等教育には一千百二十二校ありて、ギムナシア(Gymnasia)
(四六八)、プロギムナシア(Progymnasia)(一〇〇)、レアルギムナシア(二二二)、レアル
プロギムナシア(四八)、オーベルレアルシューレン(Oberrealschulen)(六四)、レアルシュ
ーレン(二六五)等に分かれ、大學は二十一處にあるが學術上の進歩、發明の著
大なるを以て名あり、又實業學校、專門學校等數多くして農商工を始め、其
の他各種の生業の發達に資せり。

住民の最も多く使用するものはドイツ語(五一八八)にしてポーランド(二三三二)フランス(二二二)ダンマルク(一四)チェコ(一〇)リタウ(一〇)其の他の外國語を用ふるものは四百二十三萬餘人に過ぎず。

政治 一八七一年の制定に係りて一八八八年の改正を経たる憲法に従へばドイツはドイツ皇帝(Kaiser)の高等統治の下にある立憲聯邦にして行政權を始とし條約の締結宣戰媾和等の權は皇帝に屬し兵備財政通商交通司法等の如き聯邦全體に關する法律の制定は聯邦會議(ブンデスラート Bundestag)と國會(ライヒスタグ Reichstag)との共に司る所なりブンデスラートは各邦より派遣せる五十八人の全權委員より成るが其の十七人はプロイセン、バイエルンは六人ザクセン、キールテンベルヒ各四人、バーデン、ヘッセン各三人、メクレンブルグシツェリン、ブランンスワイヒ各二人其の他一人宛なりライヒスタグは一般の投票に依りて選出したる三百九十七人の議員より成れり其の任期は五年にして選舉權及被選舉權は二十五歳に達して之を享くべし聯邦は一大國、四中國、二十小國より成りて各國は二院或は一院の議會を

有し、三自由市は共和國にして其の他は君主國なるがエルザス・ロートリンゲンは別に一の帝國領土を爲し該領土に關係を有する事件に就きては太守(Statthalter)は下院に委員を派遣するなり。左表中は二院なるを示せり。

國名	面積	人口	方針に付	首府
王國				
プロイセン	三四八、六五八	三七二、九三三、二四一	〇七	ベルリン
バイエルン	七、五八七〇	六五二、四三七二	八六	ミュンヘン
ザクセン	一、四四九三	四五〇、八五三、三〇一	〇一	ドレスデン
キールテンベルク	一、九五一四	二二〇、〇三三、〇一一	一八	シュツットガルト
バーデン	一、五〇八一	二〇〇、九三三、〇一三	三三	カールスルーエ
ヘッセン	七、六八一	一一一、〇一〇、四一五	七	ダルムシュタット
メクレンブルグシツェリン	一、三二二七	六二五、〇四五	四八	シツェリン
ザクセンライマール	三、六一七	三八、八〇九五	〇七	ライマール
メクレンブルクシトレリッツ	二、九三〇	一〇、三四五一	三五	ノイストレリッツ
オルデンブルク	六、四二七	四三、八八五六	六八	オルデンブルク
ブラウンシュヴァイヒ	三、六七二	四八、五六五五	三二	ブラウンシュヴァイヒ
ザクセンマイニンゲン	二、四六八	二六、八一、九六一〇	九	マイニンゲン
公				

世界地理提要

ヨーロッパ

ドイツ國

四百十九

國	君	國	自	市	ドイツ聯邦
ザクセン	アルテンベルク	一三二四			
ザクセン	コブレンツ及びゴタ	一九七七			
アンハルト		二二九九			
シウワルトツブルク	ゾンテルスハウゼン	八六二			
シウワルトツブルク	ルドルスタット	九四一			
ワルテック		一一二一			
ロイス	エルテレルリニエ	三二七			
ロイス	エンゲレルリニエ	八二七			
シウカムブルク	リッペ	三四〇			
リッペ		一一一五			
リウベック		二九八			
ブレメン		二五六			
ハムブルク		四一五			
エルツツス	ロートリンゲン	一、四五一三			
ドイツ聯邦		五四、〇七四三			
ザクセン	アルテンベルク	二〇、六五〇八			
ザクセン	コブレンツ	二四、二四三三			
アンハルト	テッサウ	三三、八〇二九			
シウワルトツブルク	ゾンテルスハウゼン	八、五一五二			
シウワルトツブルク	ルドルスタット	九、六八三五			
ワルテック	アロルゼン	五、九一二七			
ロイス	エルテレルリニエ	七、〇六〇三			
ロイス	エンゲレルリニエ	一四、四五八四			
シウカムブルク	リッペ	四、四九九二			
リッペ	デトモルト	一四、五五七七			
リウベック		一〇、五八五七			
ブレメン		二六、三四四〇			
ハムブルク		八七、四八七八			
エルツツス	ロートリンゲン	一八一、四五六四			
ドイツ聯邦		五四、〇七四三			
ザクセン	アルテンベルク	二〇、六五〇八			
ザクセン	コブレンツ	二四、二四三三			
アンハルト	テッサウ	三三、八〇二九			
シウワルトツブルク	ゾンテルスハウゼン	八、五一五二			
シウワルトツブルク	ルドルスタット	九、六八三五			
ワルテック	アロルゼン	五、九一二七			
ロイス	エルテレルリニエ	七、〇六〇三			
ロイス	エンゲレルリニエ	一四、四五八四			
シウカムブルク	リッペ	四、四九九二			
リッペ	デトモルト	一四、五五七七			
リウベック		一〇、五八五七			
ブレメン		二六、三四四〇			
ハムブルク		八七、四八七八			
エルツツス	ロートリンゲン	一八一、四五六四			
ドイツ聯邦		五四、〇七四三			

兵備。兵備上ドイツは世界屈指の強國なり、兵役は十七歳より始まるが

陸軍

海軍

服役は常備(七年)現役三年或は二年、國民(十二年)第一(五年)第二(七年)補充(十二年)の三種に分たれ滿二十歳より三十九歳に至りて止むを常とす。

平時(一九〇六年)に於ける陸兵は士官二萬四千六百七十九人下士八萬三千九百六十六人兵卒四十九萬九千三百七十八人馬匹十萬九千五百二十七匹ありて軍屬は六千餘人あるが之を二十二師團に編成す、戦時に於ける兵員は五百萬人に達すべしと云ふ。

海軍には百二十四隻、五十四萬餘噸あるが建造中のものを記せば戦列大艦(二三二〇噸)六隻、大巡洋艦(一、一六〇〇噸)二隻、小巡洋艦七隻、潛航艇六隻あり。

艦種	隻數	噸數	馬力	艦種	隻數	噸數	馬力
戦列大艦	二五	二六、八九五〇	二九、五九〇〇	砲艦	六	五六〇〇	七八〇〇
海防艦	八	三、二九八〇	四、〇〇〇〇	河上砲艦	三		
甲鐵砲艦	一一	一、三〇〇〇	九二〇〇	練習艦	一四	二、六四六七	二、二二五〇
大巡洋艦	一一	九、一四〇〇	一六、一七〇〇	特別艦	一一	二、四六六一	三、三六八〇
小巡洋艦	三三	七、六二八〇	一九、八六〇〇	合計	二二四	五四、二五八八	七七、八二三〇

財政。一九〇六―〇七年の歳入、出は各二十三億九千七百餘萬マルクを示

し、歳入は關稅及消費稅(九〇八百萬マルク)、郵便電信(五五二)、鐵道(一〇七)、其の他より得らるるが、經常歳出は主として陸軍(六一六)、郵便電信(四六六)、收稅(二一〇)、國債(一一三)、海軍(一一二)等に充てられたり、而して一九〇三年末の國債は三十六億五千三百五十萬マルクなり。

林業

生業 ドイツの土地は百分中九十一の生産地を有し、不生産地は九に過ぎざるが、一八九五年の調査に従へば千人中三五五、五は工業に従事し、三四九は農業に、一一五、二は商業を営み、ドイツ人が學理の應用に依りて自國の生産力を利用し、以て比較的、多量の物品を製造するは實に驚嘆するに餘あり、林業は帝國の生業中にて主要なるものの一にして、林地は帝國の二割六分足らずを占め、南部、中部に於ては三割乃至三割九分に達し、プロイセンのみにても四千萬圓の收益を得と云ふ、蓋し地味は佳良なるに非ざるも、智識と人工とは斯業をして今日の盛況を呈せしめ、保存培養上、南部及中部の森林は世界第一と稱せらる、農業の最發達せるは北部、東部に於て、殊にシレンジエン、ザクセン地方を以て然りとす、而して穀類には小麦(三八〇萬噸)、ライ麥

農業

(二〇〇六)、大麥(二九四)、燕麥(六九三)等あるが、多量の馬鈴薯(三六二八)は穀類の不足を補ひて餘ありとす、コンスタンツ湖沿岸の地、エルザス、其の他ライン河畔の地は葡萄(七二四萬リートル)を産し、アンハルト、ブラウンシュワイツ、ザクセン、シレンジエンは甜菜の産地としてヨーロッパ第一と稱せらる、此の他に牧草(二一五〇萬噸)、ホップ(二二二)、煙草(三四)等あり。

牧業

牧業に就きては八萬七千方籽の艸圃を以て多數の畜類を飼養せり、牛は約千八百九十四萬頭ありて、馬は凡そ四百二十萬頭、羊は九百六十九萬餘頭、豚は一千六百八十一萬頭、山羊は三百二十七萬頭に近し、而して各の大部はプロイセンにあり。

鑛業

鑛業は近來長足の進歩を爲して一九〇三年に於ける鑛産總額は十三億一千二百萬マルク(ルクセンブルクを含む)なるが、ドイツ鑛産の大部はプロイセンにあり、同國の主要なる鑛業地は石炭及鐵に、エストファーレン、ライン、プロイセン、シレンジエンあり、銀銅にハルツ、亞鉛にシレンジエンあり、ザクセンも石炭、鐵、銀を與へ、ロートリンゲンも亦石炭、鐵の産多し。

工業に從事する者一八九五年調査は鐵工業に五十二萬餘人ありて器械器具に五十八萬餘人、織物に九十九萬餘人、製紙に凡十五萬人、熟皮、ゴムに約十六萬人、木具に約六十萬人と概算せらる。製鐵業の重要中心はプロイセン、エルザス、ロートリンゲン、バイエルン、ザクセンにありて鋼鐵はラインプロイセンに於て製せられ、ザクセンは織物の主産地なるが、シレンジエンも亦亞麻布を製し、エルザス、ロートリンゲン、キルテンベルヒ、バーデン、バイエルンは綿布を與へ、毛織物はプロイセンの諸州より出で、絹布はラインプロイセン、エルザス、バーデンより出づ。又甜菜糖はプロイセン、ブラウンシュヴァイヒ、アンハルトに産し、粗糖約百八十二萬佛噸、糖蜜二十八萬佛噸弱を與ふるが、精糖は百四十一萬佛噸に近し、シレンジエン、チャーリングゲン、ザクセンに硝子、陶器、土器あり、キルテンベルヒ、バイエルンに時計、木具あり、バイエルン、キルテンベルヒ等に「ビール」の産あり、一九〇三年の「ビール」産額は六千八百七十四萬三千、ヘクトリートルに達せり、此の外、イセルローヌ、レムシアイド、ツイスブルグ、ソリゲンの金屬器を以て聞ゆるあり、ステッチン、キール、アルトナの造船

に從事するあり。
貿易は漸次進歩しつつありて一九〇五年に於ける輸入は約七十四億三千六百萬、マルクにして輸出は五十八億四千一百餘萬、マルクなれば全計は百三十三億、マルクに近し。

年次	輸入		輸出	
	貨物	貨金	貨物	貨金
一九〇一	五四二二	二八九	四四三一	八一
一九〇二	五六三二	一七四	四六七七	一三五
一九〇三	六〇〇二	三一八	五〇一四	一一五
一九〇四	六三六四	五〇〇	五二二二	九二
一九〇五	七二二八	三〇七	五七三一	一一〇

今一九〇五年の主要なる取引先を記せば輸入の部にロシア(一一二)、合衆國(二〇〇四)、イギリス(七八四)、エヌテルライヒ、ウシガルン(七七三)、フランス(四〇九)、アルヘンチナ(三六九)、イギリス領印度(二七七)、ベルジック(二七七)、オランダ(二五六)、イタリア(二一五)、シツワイツ(一九〇)、ブラジル(一七二)、チレー(二六八)、等ありて輸出の部にイギリス(一〇五七)、エヌテルライヒ、ウシガルン(五九四)、合衆

國(五四三)、オランダ(四四八)、ロシア(四一一)、シロウィツ(三六九)、ベルジック(三二二)、フランス(二九三)、ダンマルク(一八五)、イタリア(一七五)、スエリゲ(一五九)、アルヘンチナ(一一三)等あり。

次に貨物を種類別にせば輸入は原料品(三四五七)、食料品(三〇六〇)、製造品(二三二八)、生獸(二八三)の順と成るが、輸出は製造品(三八二二)、原料品(一四〇〇)、食料品(四八九)、生獸(一八)と成る而して主要輸出入品は輸入に穀類(八〇四)、綿花(四三四)、皮革(四二九)、獸毛(三九六)、畜類(二六三)、木材(二六〇)、石炭(二〇三)、珈琲(一七二)、絹絲(一六五)、銅(一六五)、種子(一六三)、カウチー(一四三)、化學製造品(一四〇)、果物(一三四)、鐵(一三二)、葉煙草(一二二)、鶏卵(一二二)、チレー硝石(一一〇)等ありて輸出に化學製造品(四七五)、綿布(三八〇)、鐵器(三五九)、器械(三二二)、毛織物(二九三)、石炭(二八七)、鐵(二二四)、皮革(二〇七)、砂糖(一八三)、絹布(一四九)、小間物(一六六)、被服(一三二)、熟皮(一三〇)、銅器(一一二)、紙(一〇八)、穀類(一一六)、樂器(一〇二)等あり。

出入船舶に就ては入船に九萬五千二百隻ドイツ外國二二三七二、約二千二百三十五萬噸九三〇、四七四、八二ありて出船は九萬五千餘隻七、三二七、九凡二千二百

交通

四十二萬噸一三一二、三二二三あり。
 交通に就きて記さんに一九〇〇年に約百七十四萬噸ありし商船は一九〇五年に至りて二百三十五萬噸を超え其の凡二百十萬噸は北海にあり。

沿海地	隻數	噸數	入船	出船
ハムブルグ	一三三九	一三五、六八八七	九四五、〇六五三	九六、四八〇二
ブレメン	六三二	六九、三八一〇	二七三、三六七五	二七八、四三五五
プロイセン	二二三六	二八、三一七一	八五七、九二七三	八三二、二三四二
オルテンブルグ	二二六	五、六三二八	五〇、二二二二	四二、〇一三六
リウベック	五一	三、九五〇四	一〇〇、二〇四九	一〇〇、六一六六
メクレンブルグ	五〇	二、二八一五	五七、七一〇〇	五九、〇六五三

ハムブルグはクックスハーフェンと相俟ちて世界屈指の商港を爲し、ブレメンはブレメルハーフェンを控えドイツ第二の商港たり其の他、ステッテン、キール、ダンチヒ、リウベック、ゲーニヒスベルヒ等の各港も亦盛なり。

内部の航路は一萬四千軒の長を有するが殊にフランス、プタールとホルテナウとを連ねる北東兩海運河は九十八軒の長を有し幅は表面に於て六十

世界地理提要 よーろば洲 ドイツ國 四百二十七

米突水底に於て二十二米突に達し水深は八米突半なり。

鐵道には國有(五、一九八五)あり、私有(五、一九六)あり、合はせて五萬七千八百八十一軒(一九〇六年)に達す、而して電氣鐵道は三千七百九十四軒あり。

郵便局は三萬九千餘ありて電信線は十四萬三千七百九十二軒の長と五十三萬三千六百軒弱の延長とを有するが電話線は市内に九萬一千七百七十四軒、此の延長二百一十一萬四千六百餘軒、市外線四萬七千四百五十軒、此の延長五十七萬八千五百軒許あり。

處誌 ドイツ帝國は二十六邦を以て組織せらるるが地域、人口に大なる不同あり由て左に主要なるものに就きて記す所あらんとす。

プロイセン

プロイセン(Pruessen)は一にプロシヤ(Pruссия)と云ふ、ドイツ帝國中に於ける最要の國にして北ドイツの殆ど全部、ホーヘンツォルレン及分散せる十三部より成りて面積は三十五萬方軒に近く、實に帝國の約六割五分に當れるが住民は三千七百三十萬人に近くして總人口の凡そ六割に當れり、種族に就きて二百五十萬人はポーランド人なるも殘餘はドイツ人なり

而して信教上は新教徒(二三三四)最、多く、ローマ公教徒(一三三五)之に次ぎてユダヤ教徒(四〇)も多少あり、教育は頗る進歩せり。

プロイセンは立憲王國にして立法權は貴族代議の二院より成れる議會に屬し、内閣は外務、法務、内務、海軍、陸軍、宗教及教育、財務、農林、商工、土木の諸長官より成れり、地方は一市、十三州に分たれ、各州は若干の縣より成れり。

ベルリン

ベルリン(Berlin) 一〇四、〇一四、八北緯五二度三〇分一七秒 東經一三度二三分四三秒は地味礪礪なる

平野の中にありてエルベ河の支流ハーフェルに注ぐスプレア河に跨り河港を爲せり、ブランドンブルグ大侯の建設に係る一小都會なりしが近代に至りて迅速の進歩を爲して遂に今日の隆盛を見るに至れり、實に一八〇四年に於ける人口は十八萬二千餘人に過ぎざりしなり、街衢端麗、道路廣濶、交通上の要區にして商業、工業共に繁榮し、學術上の淵藪にしてドイツの帝都、プロイセンの王都たるのみならず、世界政治の一中心なり、チエルガルテン(Tiergarten)の西にシッロテンブルグ(Charlottenburg) (二三、九五、五九)及南にシニェベルク(Schöneberg) (一四、一〇、一〇)あり、共に繁華の新街たり、スパンダウ(Spandau) (七、

○二五九はハーフエルとスプレアとの合流地に於ける軍府なり、兵器廠、軍用倉庫等を有す、ポツダム(Potsdam)(六一四一四)はハーフエル河中の一島にあり、軍府の一にして附近にサンヌーシー(Sans-Souci)其の他の城邸あり、フランケンブルグ(Brandenburg)(五二二二九九)も亦ハーフエルに沿ひ羅紗、麻布、加工紙を産す、マグデブルグ(Magdeburg)(一四〇六三三三)はエルベ河畔の軍府にして毛布、砂糖の産あり、ハルブルグ(Harburg)(五五六七六)はハンプブルグに對せる商港なり、フルトナ(Altona)(一六八三二〇)はハンプブルグに接する商港なり、キール(Kiel)(一六三七七二)はフュールテン(Föhrlen)の一に瀕す、軍港の所在地なるが商業も亦盛なり、ハルン(Halle)(一六九九一六)はエルベの支流ザールに瀕す、食鹽、石炭を産し、車輛、器械、ビール等を製し、大學を有す。

ステッテン(Stettin)(二二四一一九)はオーデルの下流に沿ひ麥粉の集散港にして商業繁榮す、フランクフルト(Frankfurt a. O.)(六四三〇四)はハルリンの南東東、オーデルの右岸に位し機械、金物等を製す、ゲルリッツ(Gürlitz)(八三七六六)はシレジエンにありて毛布、麻布を産す、リীগニッツ(Liegnitz)(五九七〇六)はゲル

マクデブル
グ
フルトナ
キール
ハルン
ステッテン

リッツの東方に位し戦史上著名の地なり、ブレスラウ(Breslau)(四七〇九〇四)はオーラウとオーデルとの合流地に於ける工業地にして油類、煙草、鞣皮等を製す、ポーゼン(Posen)(二二六八〇八)はフルタに沿へる軍府なるが生毛の市場なり、ブロンズベルヒ(Bromberg)(五四二二二)はワイクセルを距ること遠からざるが砂糖、煙草等を製す、ダンツェヒ(Danzig)(一五九六四八)はワイクセルの河口に近き商港にして木材、酒精を輸出す、要塞地の一たり、エルビング(Erling)(五五六二七)はダンツェヒの南東東、航河に瀕し器械、船舶等を製す、ケニーヒスベルヒ(Königsberg)(二二三三七七〇)はフレゲル河を帯べる軍府なり、各種の工業に従事し農産を集散するが殊に琥珀の市場として知らる。

ハンノーフェル(Hannover)(二五〇〇二四)は舊、同名の王國の首府たりし處なり、エーゼルの流域にありて製鐵、紡績に従事す、ゲッティンゲン(Göttingen)(三三四〇八一)はハンノーフェルの南方に位し大學を有す、カッセル(Kassel)(一二〇四六七)はヘッセンカッセル國の首都たりしことあり、毛織物、器械類を製す、附近にギルヘルムホーへの名城あり、エルフルト(Erfurt)(九八八四九)はチーリングゲンの

ブレン
ッ
ポーゼン
ダンツェヒ
ケニーヒス
ベルヒ
ハンノー
フェル
カッセル

首都たりしことあり、オスナブリック(59580)はエムス河の支流に沿ひて鐵、亞麻布の製造に従事す、ビーレフェルト(Bielefeld)(71796)はオスナブリックの南東に位し亞麻布を集散す、ミンステル(Münster)(81468)は織物、皮革等を産す、非ルヘルムスハーフェン(Wilhelmshaven)は海軍の根據地たり、
 ドルトムント(Dortmund)(175577)はミンステルの南に於ける鑛業地にして、ビールを醸造し、ボフム(Bochum)(118464)と共に製鐵に従事す、
 ゲルゼンキルヘン(Gelsenkirchen)(147005)は石炭と鐵との爲に迅速の進歩を爲せり、エッセン(Essen)(131360)はルール(Ruhr)煤田の中心にして製鐵業を營むが有名なるクルップ(Krupp)會社は此の地にあり、ミッペンハイム(Milheim)(93599)は製鐵、石炭の取引に従事す、ツィスマブルク(Duisburg)(192436)も亦製鐵に従事し石炭を集散す、クレフェルト(Krefeld)(110344)はラインの左岸に位し絹布、天鵝絨を以て名あり、デュッセルドルフ(Düsseldorf)(253274)はライン河の岸にありて屈指の河港たるのみならず、冶金業の中心たり、エルムホルムフェルト(Elberfeld)(162185)はデュッセルドルフの北東東に

ドルトムント

ボフム

ゲルゼンキルヘン

エッセン

クレフェルト

デュッセルドルフ

エルムホルムフェルト

バレン

位し綿布、絹布、染物の産あり、バルメン(Barmen)(156080)はエルムホルムフェルトの東に位し大陸に於ける「リボン」の一主産地たり、ハーゲン(Hagen)(77567)はルール(ルール)の煤田にありて鑄物、綿絲を産す、ゾーリンゲン(Solingen)(49018)はデュッセルドルフの東に位し製鐵業を以て著名なり、レムシナイド(Remscheid)(64340)はゾーリンゲンの東にありて製鐵に従事す、メンヘンゲン(Mönchengladbach)(60709)はデュッセルドルフの西に於ける工藝地にして紡績其の他の諸業に従事す、ケルン(Köln)(42872)即ち「コロニーヤ」(Cologne)はライン河の左岸に瀕す、歴史上著名の地にして交通上の要區、ライン線の一大軍府たり、蒸溜業、其の他の工業に従事し、商業も繁昌せり、大寺院は殊に名を知らる、ボーン(Bonn)(81996)はラインに瀕し大學を有す、コブレンツ(Koblenz)(53897)はライン、モゼルの合流地に位し堅城を有するが右岸のエーレンブライスタイン城と相俟ちてラインのジブラルタルと稱せらる、トリエル(Trier)(46709)はフランス名をトリーブと云ふ、モゼルの右岸にある舊地にして工業に従事す、キスパーテン(Wiesbaden)(10095)

ケルン

フランクフルト

三はナッサウ國の舊都の地なるがタウヌス山の南斜面に位し有名なる温泉場たり、フランクフルト(Frankfurt a.M.)(三三、四九二八)はライン河に跨り、交通上の要區にして、建築物、博物館を以て知らる。金融上若しくは貨物集散上の一大中心なり、附近に繁榮の地多く、該に北のエッセン(Wetterau)はフランケンフルトの穀庫、西のラインガウ(Rheingau)は穴倉、東のマインガウ(Maingau)に木石を仰ぎ、南のゲラウ(Geran)は庖厨たりと稱せらる。アーヘン(Aachen)(一四、一〇一〇)即ちエクスラシヤベル(Aix-la-Chapelle)はケルンの西、微南、石炭の産地にあり、シールマーニッ帝國の舊都にして温泉場の一たるが盛に毛織、機械、針類を製す。

メクレンブルグシ、マリニ
メクレンブルグシ、マリニ
メクレンブルグシ、マリニ

○七九三はワルネミュンデ(Warnemünde)を前港とし、大學校を有せり。

リッベック
リッベック(Liibeck)自由市はバルト海に瀕す、市街(九一五四)はトラフエ河に沿ひ、トラフミッペンデ(Travemünde)を以て前港とす、往時ハンセン同盟の首府たりし處なり。

アーヘン

ワルネミュンデ

ハンブルグ

ハンブルグ市(八〇、二七九三)北緯五三度二分七秒、東經九度五八分二七秒はエルベの河口より一百二十軒、ベルリンの北西二百八十五軒に位す、市街は清潔にして、建築壯大、商業極めて盛にして、世界第一流の市場たり、而して自由港の區域は十方軒に餘れるが船舶の出入は合はせて二千餘萬噸に達し、通商高は五十二億、マルクに及べり、實に聯邦第一、世界第三の商港たり。

ブレメン

ブラウンシュヴァイヒ

ブレメン市(二一、四八六二)はドイツ第二の商港にして、合衆國との交通盛なるが、殊に移民の出發地として名あり、ブレメル、ハーフェン(Bremervahen)(一三、九三二)を以て前港となす、北ロイド汽船會社の所在地なり。

ブラウンシュヴァイヒ
ブラウンシュヴァイヒ(Braunschweig)公國は三大部、五小部より成り、首府ブラウンシュヴァイヒ(一三、六一六二)はエーゼルの支流たるアルレルの一支に沿ふ、往時の盛況を證明する建築物あり。

アンハルト

アンハルト(Anhalt)公國は二大部と五小部とに分かる、首

世界地理提要

ヨーロッパ ドイツ

府デッサウ(Dessau)(五五・一三四)はエルベ河とムルデ河との會點に近し、砂糖、毛布等の産あり。

ザクセン

ザクセン(Sachsen)は一にサクソニー(Saxony)と云ふ、プロイセン

ペーメン、ザクセン諸國と境する王國にして長約二百十軒、幅凡百四十五軒あり、面積は聯邦の第五位にあるが、住民は第三に居り、宗教上は新教徒三九七萬人最、勢力あり。

ドレスデン

ドレスデン(Dresden)(五一・六九九)北緯五一度三十分、東經一三度四分、人口稠密、地味肥沃な

ライプチヒ

るザクセンの王都にしてベルリンの南東、鐵路百八十七軒、エルベ河に瀕し、風色に富みて美術上有名なる處なり、金銀器、造花等を製す、ライプチヒ(Liepzig)(五〇・三六三)北緯五二度二分三十分、東經一〇度二分三十分、六秒はドレスデンの北西、鐵路約百三十軒に位し、エルベの支流ザアレに臨めり、商業の中心にして書籍の出版を以て名を知らる、ケムニツ(Kemnitz)(一九・四九二)はドレスデンの西方に

ケムニツ

位し、機械、織物、絲類を製す、ツキカウ(Zwickau)(六・八五〇)はケムニツの西、微南に於ける工業地なり、ブラウエン(Braun)(一〇・五三八)はエルスター河の岸

に位するが綿布「モスリン」等を製す。

バイエルン

バイエルン(Bayern)王國はバワリア(Bavaria)とも稱せらる、

バーデン及ヘッセン、ダルムシュタットに依りて大小の二部に分たるるが、プロイセンに次げる大國にして、住民も亦之に従へり、信教上はローマ公教徒に四百三十六萬人あるも、新教を奉ずるものは百七十五萬人に達せず。

ミンヘン

ミンヘン(München)(五三・八九八)北緯四八度三十分、東經一一度三十分、四分一秒は、ドナウの支流

イザル河畔、海拔五二〇米突の地にあり、王國の首府にして、建築繪畫等を以て美術上に名を知らるるが、又盛にビールを醸造す、アウグスブルグ(Augsburg)(四九・四九二)はミンヘンの北西にあり、史上著名の地なるが、絲類、機械

ニウレンス

を製し、商業に従事す、レゲンスブルグ(Regensburg)(四八・八八〇)はドナウとナア

ブとの合流地に近く、位し、銅器、砂器、陶器等を製す、ニウレンベルグ(Nürnberg)(四九・四二六)北緯四九度二分四分一秒は、南ドイツ屈指の市場にして、マインの支流に跨り、樂器、時計、玩具品、ビール等を製す、フュルト(Furt)(六〇・六三五)は鏡類、化粧具を産す、バンベルグ(Bamberg)(四四・五八三)はニウレンベルグの北に

位し「ビール」皮革、綿布等を産す、キルツンブルグ(Würzburg)(八〇三二七)はマイン河に瀕す、軍府の一にして盛料器械、煙草、家具等を製す、ルドキヒスハーフェン(Ludwigshafen a. Rh.)(七二二八六)はライン河の左岸に位し、河港を備ふ、曹達「アメリシ」の産あり、カイゼルスラウテルン(Kaiserslautern)(五二二三〇六)はルドキヒスハーフェンの西に位せる工業地なり。

キルツンブルグ

キルツンブルグ(Württemberg)王国はバーデン、バイエ

ルン、シッツイツと境し、地積は聯邦中第三位を占むるが住民の約七分の五は新教を奉せり。

スツットガルト

スツットガルト(Suttgart)(二四九四四三)はネッカー河に近き豊饒の地にありて王国の首都たり、バリー、キーンの鐵道幹線に當り、建築物、博物館を以て著はれ、飾具「ピアノ」を製す、ウルム(Ulm)(五一六八〇)はドナウに瀕す、軍府の一にして「ビール」、綿布、毛布等を製す、ハイルブロン(Hellbron)(四〇〇二六)はネッカーの右岸にありて花卉を栽培す。

バーデン

バーデン(Baden)大侯國は地積上、聯邦の第六位を占むるが

住民は概しローマ公教を奉せり。

マンハイム

カルルスルーヘ(Karlsruhe)(一一二二〇〇)は當國の首都にして交通上の要區たり、マンハイム(Mannheim)(一六二六〇七)はラインの右岸に位し、街衢殊に端麗なり、軍府の一にして兵器、鏡、煙草、鐵等を製す、ハイデルベルヒ(Heidelberg)(四九四三九)はネッカーの左岸に位してドイツ國最舊の大學を有するが書籍、煙草の産あり、プフォルツハイム(Pforzheim)(五九三〇七)は金銀器、羅紗を製す、フライブルグ(Freiburg)(七四一〇二)はシッツルツワルド山脈の西麓に位す、大學の所在地にして綿布、綿絲等の産あり。

ヘッセン

ヘッセン(Hessen)大公國は南北の二部并にバーデン及プロイセンの領土を以て圍まれたる十一處の地より成れり。

首府ダルムシュタット(Darmstadt)(八三一一二三)はフランクフルトの南に位し、化學品、帽子等を製す、マインツ(Mainz)(九一一九八)はラインの左岸に於ける軍府なり、航海上の要區にして酒類、穀類を集散す、ウォルムス(Worms)(四三三八四一)はラインの左岸に於ける舊市なり、オフエンバハ(Offenbach)(五九七六五)はマイン

ン河に沿へる工業地にして皮革、飾具を製す。

エルザス・ロートリンゲン

エルザス・ロートリンゲン (Elsasz-Lothringen)

はフランス名をアルサス・ローヌ (Alsace-Lorraine) と云ふドイツの帝國領土 (Reichsland) にして東はバーデン、南はシツワイツ、西はフランスと接す、長、百九十八軒、幅三十五乃至百六十九軒ありて地積は一萬四千五百十三方軒あるが、下エルザス(四七八五)、上エルザス(三五〇五)、ロートリンゲン(六二二三)に分たる。

當地方はケーザルの時代に於てはケルト派の人民の占居する處なりしが、十世紀に及びてドイツ帝國の一部を爲せり、一六四八年のユーストフアイレン條約に依りて其の一部はフランスに割かれ、殘餘はルイ十四世の爪牙に懸り、一六九七年のライプシッツ條約を以て全部フランスの手に移りしが、一八七一年のフランクフルト條約は再び之をドイツ領たらしめたり、住民は約百八十一萬人にして下エルザス(六八、六)に最も多く、ロートリンゲン(六一、五)に最も少なきが、信教上はローマ公教を奉ずるもの(一三八)多し。

ストラスブルグ

ストラスブルグ (Strasbourg) (一六、七、六、七、八) はライン河の左岸を距ること三軒餘、パリーの東四百八十軒に位す、交通上の要區にして軍府の一なるがラ

イン河の兩岸に亘れる十一處の要塞に圍繞せられ、商業盛にしてビールの産あり、ミッルハウゼン (Mühlhausen) (九、四、四、九、八) はストラスブルグの南南西にあり、綿布、麻布を造り機械を製す、メッツ (Metz) (六、八、四、一、九) はモゼル河に瀕する重要なる軍府にして九處に要塞を備ふ又製鐵業の中心たり。

殖民地 ドイツ人は戰勝の餘榮として殖民業を起し僅に數十年にして約二百六十萬方軒の地と一千二百八十萬の住民を領有するに至れり、されば世界の殖民國中にて第五位を占むるの名は存すれども未だ利用の實を收むる能はざるが如し、然れども本國の生産大に増し船舶の發達甚速なれば殖民業も亦有望なりと云ふべし。

地	方	地	積	人	口	に方
アフリカ			一三三、五、二二〇〇	一一二〇、〇〇〇〇	五	付軒
トエ			八、七二〇〇	一五〇、〇〇〇〇	一七	
カメルン			四九、五〇〇〇	三五〇、〇〇〇〇	七	
ドイツ領南西アフリカ			八二、三三〇〇	二〇〇、〇〇〇〇	〇二	
ドイツ領東アフリカ			九四、六五〇〇	七〇〇、〇〇〇〇	〇六	

世界地理提要

よーろば洲

ドイツ

太平洋	二四、三八一九	四五、二〇〇〇	一、七
ドイツ領新ギニア	二四、〇八二六	四〇、四〇〇〇	一、七
サモア	二五八八	三二六二二	一一
膠州灣租借地	五〇一	一一、〇〇四	二一七
合計	二五九、六五〇〇	一二七七、〇〇〇〇	五

● エステルライヒウングアルン

境域 エステルライヒウングアルン君主國 (Osterreichisch-Ungarische Monarchie) 即ちオーストリアハンガリア (Austria-Hungaria) は中部ヨーロッパに於ける強國の一にして境界は南東のアドリア海に瀕する部分を除く外悉く陸地にして列國の間に介在せり而して境を接する諸國を列擧すれば北にドイツのバイエルン、ザクセン、プロイセンあり、北東并に東にロシアあり、南東にロマーニアあり、南にスルビア、トルコ、モンテネグロ等あり、南西にイタリア、西にシツワイツあり、東西は一千二百九十軒にして南北は八百軒あるが面積は

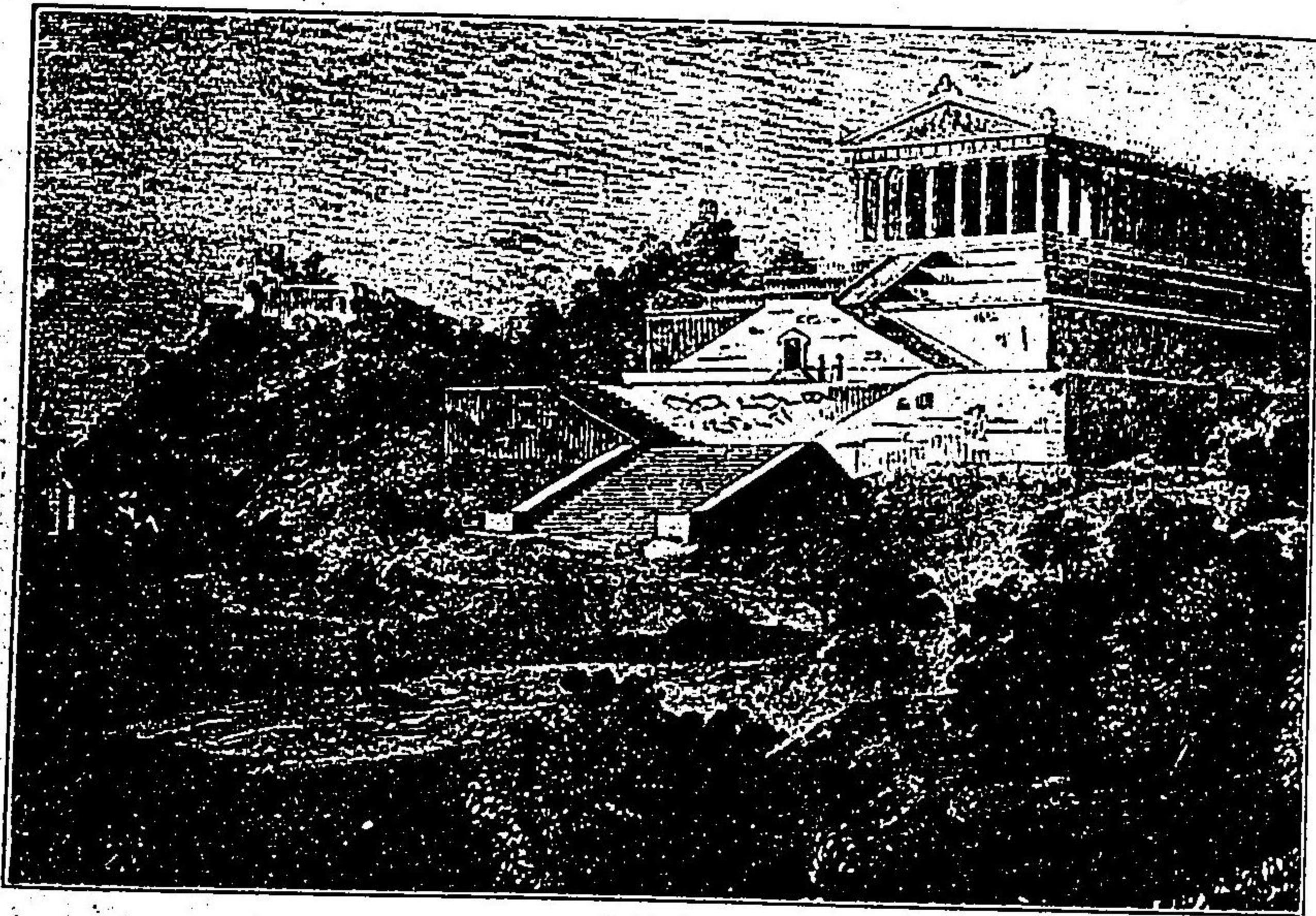
六十二萬方軒を越ゆ、然れども地貌は佳良ならずして一國を組成するに必要なる地理的單一性備はらず、國土の主要部(八割二分)がドナウ河の流域に屬するありて自然的結合に資する所少なからざるも中流以上の地に止まれるの缺點あり。

海岸 アドリア海に於て七百軒の海岸線を有するも交通上の便益を供するは僅にトリエスト、オウメの二港あるのみなり、又地角の著しきはブントデプロモントレ、ブントデルラブランカにして島嶼はヘルツェグリア、バゴ、グロッサ、ブラッサ、リッサ等を以て主とす。

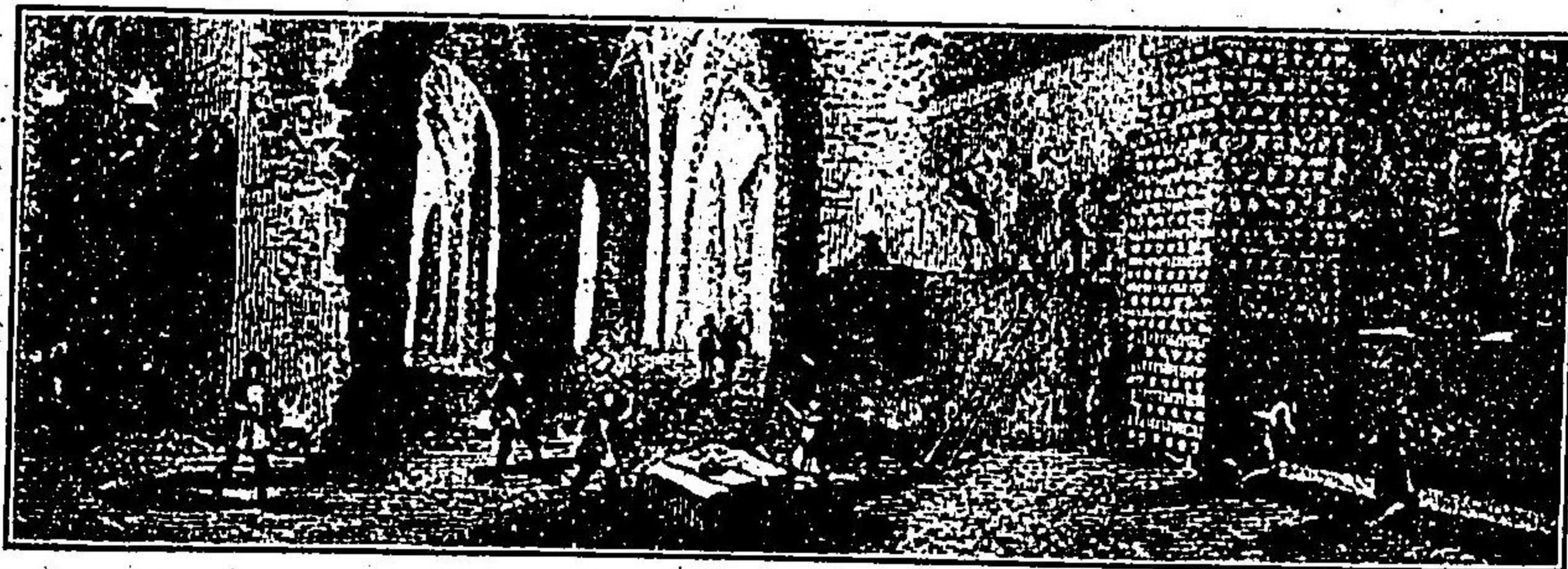
地勢 山脈は何れも外邊にありて配置は均一ならず、西方にあるアルプ山脈并に東方に横たはるタトラ (Tatra)、カルパット、外シルバニアの諸脈は顯著なるも北西より北に亘れるペーメン、エルツゲビルゲ、スデーテン (Sudeten) の諸脈は概して高丘を爲すに過ぎず、南部に於ける隆起帯は平原を距るに従ひて其の高度を増加せり、又此等の山脈に圍繞せらるる内部の平野は舊湖底たりし地にして起伏に乏しく地味肥沃なり。

山誌 山脈は南西及北東の二群に分つことを得、殊に其の北東に於けるものは二つの大なる彎曲を描けり、ヘーメルワルド (Hoher Wald)、フュルラ (Fichtel)、エレンツ (Erlenz)、リッペン (Riesch)、メテレン (Metzen)、タトラ (Tatra)、カルパット (Karpaten)、外シルバニアアルプは其の二なり而して山岳の最、高きものは三千九百米突を超ゆ。

東アルプ山脈は概々エスタールライヒに属するが、地質的三帯は完全に露出して石灰的三帯は北と南とにあり、結晶的の一帯を挟み、結晶的アルプは中部を占め著しき海拔を有して、レナヨ (Rennock)、シレン (Sillberg)、シラク (Sillberg)、等の横谷を呈す、其の最高峰をピズリナルド (Piz Jindard) (三、四、一、六) と云ひてアルルベルグ (Arlberg) の山越 (一、七、九、七) かならず、一八八四年を以て新道の開鑿と共に、一八八二年に開設せられたり、は有名なり、又チロルアルプには、ワイルドピツ (Wildspitze) の高峰 (三、七、七、六) 、ハンマン (Hannmann) (三、四、八、七) 、ブレンネン (Brenner) (三、三、六、二) 車道は一七七二年、鐵道は一八六七年に建設せらる等あり、ハイマツエレン (Hohe Tauern) には三千二百米突を超ゆる四峰ありて、氷河は面積の百分の七を被ふ、ニーマルタウエレン (Nieder Tauern) には、スチリアアルプ等あり、而して北部は顯著ならざるも、南部は規模稍廣大なり、其のオルトメル (Ortler) 山脈は三千六百米突以上の十一峰を有し、最高峰オルトメルは三、九、〇、五米突に達し、氷河奇景に



ワルハルラ (Walhalla) [ババリア]



井エリクツカ嶺山 (會堂)



井エリクツカ嶺山 (岩鹽の採掘)

ワルハルラ (Valhalla) 即ち優勝館はスカンデ

ナビアの「エリセ」にしてオサム王が賢人男子を

集めて名譽の快樂を共にせし處にして興國の志に

熱衷せしバイエルン王は其の名を探りて新設の

名譽館に冠し以てギリシアの「パルセノン」に擬し

たり、館は造家匠クレンツェ (Klenze) の圖に據

りて建築せられ間口二十五米突、奥行七十五米突、

高さ二十一米突を有し七層塔の上に位せるが前面

の彫刻は國人シウワンターレル (Schwanthaler)

の作に成れり。

食鹽の産地として古來有名なるキエリクツカ (Wieliczka)

はクラカウ (Krakau) の南東十二程に於ける一小事街に

して六千内外の住人を有す

鹽窟床は長さ九程、幅一千二百米突、厚さ三百二十米突

に亘れり、發見の時代は明ならざれども四紀十二世期以

來採掘せらる、十一ヶ處に坑を設けて外界との交通を便

にせるが内部は三階に分かれて道路の延長は四百五十程

に達し詳細の觀覽を遂げるには毎日八時間宛にて四週日

を要すべし、坑内到處處食糧たらざるはなく就中第一階

の祈念堂 (Saint Antoine) 第二階の小湖 (長さ百七十米

突深さ十二米突) 等最も奇なり、窟床は「スレート」粘土

「ギプス」等より成りて三層の岩鹽を挾めるが、其の一は

綠鹽、黑鹽、氷鹽、砂鹽を、其二は化石鹽、其三は珠鹽

を包蔵せり、工夫は八百人内外にして約四百頭の馬を使

役し年産頭平均六十万噸を興ふと云ふ。

富めるが其のアダムスロ (Adamslo) 山麓は三四〇〇米突以上の高峯九座を有し水河も少なからず、尙ほ此の外に水河を駈けるマヤヨラダ (Mayrolada) (三四九四) あり。

水陸 河流の主要なるものはドナウ河及其の支流なるが、今各斜面に

就きて記せば、黒海斜面にドナウ河、イン、マルナ、ドナウ、サエ、タイス ドニエスチルあり、アドリ

ア海斜面にエチ (Etsch) 即ちアドジエ (Adige) 北海斜面にエルベ、オードデル、ワイ

クセル (ビヌチラ) あり、湖沼は著しきもの少なし、就中稍鹹味を帯べるブラッテ

ン (Platen) 湖を最大とす、而してノイシードネル (Neusiedler) ツンクニツ (Zirknitz)

の如きは湖水の時に涸失することあり。

ドナウ河は水源を黒森山脈に發し南ドイツを潤はし、イン河を合はせたる後、エ

ステルライヒに來りトラウン (Traun) エン (Enns) ライタ (Laila) 等を右岸より、マルナ

(March) を左岸より容れ、ウンガレンに入りてドラウ、タイス、サエ等を合はするが、若

干の小盆地を出入し幾多の障礙を排して黒海に達し以て勇流、又は舊河たるの實

を示せり。

氣候 地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ、ウンガレンをして單

純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處寒

暑の差の大なるの一事なり、寒暖計が夏季に三十四度餘に昇りて冬季に零下三十四度以下に降るが如きことは敢て稀ならず、一般に此の國の氣候は大陸的なり、殊にウングアルンの平野にありては氣温の昇降著しく四季の差別極めて判然たり、ベールメン、ウングアルン、ガリツイエン等の平低の地に於ては冬は嚴寒に苦み夏は酷暑堪え難し、アルプ、カルパット等の山地又はクラインクロアチエンの高地に於ては氣温の平均は下降するも寒暑の差は減少して變化少なく、濕氣は大に其の度を増せり而してアドリア海沿岸に於ては地中海的氣候を有し、寒烈風「ボルラ」の吹き荒まざる時は冬季と雖、温暖を覺ゆ、夏季は暑氣強く殊に「シロッコ」風の吹き來る時は炎熱灼くが如し、又降雨の最、多きは山地の高處と沿海の地方なりとす。

沿革。 エステルライヒは七九六年に設けられたるシアルマーニツ帝國の東境州より起り、一一五六年公國に進み、ハプスブルグ家の代に於て強大なる國と成り、一四三八年より十九世紀までドイツの覇權を握り居りしが、一八六六年プロイセンとの戦に敗れてドイツ聯邦を脱せざるべからざるに至りしが翌年を以てウングアルンと共に聯立の君主國を組成したり。

ウングアルンの地たるや早くフン、アバル、等の占領する所と成りしが、八九八年アルパドの率ひたるマジアル人に征服せられたり、爾來マジアル人は隣地を侵略し一〇〇〇年に至りて王國と成りたり、其後一二四一年に於て甚しくモンゴルに荒されたるもアンジウ家の代ウングアルン、ポーランドの合併ありて當國は其の地位を進めたり、然るに一五二六年トルコ人に敗られて國土の大部分を失ひ、殘部はハプスブルグ家の手に止まりたり、而して一六九九年及び一七一八年に至りて先に失ひし地をトルコより恢復し一七一一年に終れる八年間の内亂并に一八四八一四九年の革命騒動を経て遂にエステルライヒと聯合せりと雖も、其の結合には確固ならざる所あり。

住民

エステルライヒウングアルンが一國として統一性を缺く點は種々あれども、就中人口配布の不均と種族の錯綜を極むるとは最著しきものなり、一九〇〇年の人口調査は四千五百四十萬餘人、女二二九七三を以て方針には平均七十二人を與ふるも、各地方の疎密を詳にすれば甚しき不均均を見るべし、北西部の市街の地、工藝の中心にありては人口稠密なれども、山岳地方又は高原地方にありては極めて稀薄なりとす、下エステルライヒは方針に付き百五十六人を與ふるも、シツンジエン、ベールメンに於ては百三十二

人乃至百二十二人に下り、ウングアルンにありては六十人に減じ、チロル、ザルツブルグにては三十二人乃至二十七人を示すに過ぎず、又種族の如何を考ふるときは實に一齣を喫せざるを得ず、蓋し君主國の成立は歴史的事實の結果に基き、毫も國土の自然的連鎖の存するに非ず、さればヨーロッパの三大派族たるツートン、スラブ、ラテンが強固に代表せらるるのみならず、又フィン派の優勢なる代表者を觀るに至れり。

言語	エステルライヒ	ウングアルン	君主國
ドイツ	九一七、〇九三九	二二三、五一八一	一三〇、六二二〇
ウングアルン(マジャール)	九五二六	八七四、二三〇一	八七五、一八一七
チエヒ(プロツケン)	五九五、五三九七	二〇一、九六四一	七九七、五〇三八
ポーレン	四二五、九一五二	四二、九四四七	四二五、九一五二
ルイテチン	三三七、五五七六	二七三、〇七四九	三八〇、五〇三三
クロアチヤ、セルベヤ	七一、一三八〇	九、八四四一	三四四、二二二九
スロフエネン	一一九、二七八〇		一二九、一七二一
ロマーニア	二二三、〇九六三	二七九、九四七九	三〇三、〇四四二

宗教

教育

イタリヤ、ラヂネル 其他	七二、七二〇二	二、七四八二	七五、四五八四
合算セザル分(エステルライヒ 在住外國人)	五一、七九〇三	二七、一三三八	二七、一三三八
合計	二六一五、〇七〇八	一九二五、四五五九	四五四〇、五二六七

而して信教上に於けるも少なからざる宗派ありて、ローマ公教派(三〇五八)ギリシア及アルメニア公教派(四九九)、ギリシア正教派(三四二)、新教のアウグスブルグ派(一六五)及ヘルベチヤ派(二五六)の外にユダヤ教徒(二〇七)等の存するを見る。

教育に就きて記さんにエステルライヒにありては小學校は二萬一千に近くして三百七十四萬餘の生徒を教養す、而して公立小學校七千八百二十校はドイツ語を用ふるがチエヒ語(五一七七)其他の斯拉ブ語(五六三四)イタリア語(七六八)等を使用するものも少なからず、又ギムナシヤ、レアルシューレ(三二八校)、大學(八)、高等なる實業學校、特殊學校等少からず、ウングアルンにありては一萬九百五校はマジャール語を用ふるも、マジャール及他語(三三四九)ド

イツ語(三七二)、スロヴァク語(三〇)、ロマニア語(一一六二)、クロアチア(一四八五)等を用ふるものもありて大學は三校あり。

立法

政治 エステルライヒ・ウングルン君主國はエステルライヒ帝國とウングルン王國(Magyarország)との二國より成れり。ハブスブルグ・ロートリンゲン家より出づる君主は帝冠と王冠とを戴きて聯合國に君臨すれども、二國に共通なる外務、軍務、財務并にボスニエン、ヘルツェギナに關する立法權に限りてキーンのライヒスラート(Reichsrath)とフダハストのライヒスタ(Reichstag)とより撰出せられたる六十人づつ各上院より二十人、各下院より四十人の代議員、任期之を司れり、而してエステルライヒの立法權はヘレンハウス(Herrenhaus)とアングオルドネランハウス(Angelordnenhaus)との二院に屬するが、上院議員は皇族(一六)貴族(六四)有爵大僧正(六)有爵僧正(七)大僧正(五)勅選(一五三)の六種の議員より成り、下院は直接或は間接に選舉せられたる四百二十五人の議員より成れり。ウングルンの國會はウングルンに對する立法權且ククロアチエンスラボニエンとウングルン本部とに共通なる政務を掌るが、上院(Forendihaz)の

行政

議員は其の種類エステルライヒに比すれば一層複雑なり而して下院(Közp viselohaz)の議員は公選せられ、其の四百十三人はウングルンを代表し、其の四十人はスラボニエン、クロアチエンを代表す。行政に就きては兩國に共通なる事件に對して外務、軍務、財務の三省を置くが、兩國は各、獨立の政府を有し、共に其の議會に對して責任を負へり、而して兩國に關する領土の分界は一小河流たるライタなるを以てエステルライヒ並に其の屬地は前ライタ部と稱し、ウングルン並に其の屬地を後ライタ部と呼べり。

世界地理提要

エステルライヒ・ウングルン

四百五十一

地方名	地積	人口	方料	首府
下エステルライヒ	一、九八五、四	三、一〇〇、四九三	一五六	ブーデン
上エステルライヒ	一、一九九、四	八、〇二四、六	六八	リンツ
ザルツブルグ	七、一六三	一、九、二七六、三	二七	ザルツブルグ
スタイエマルク	二、二四四、九	一、三、五、六四九、四	六一	グラツ
ケルンテン	一、〇三三、三	三、六、七三三、二	三六	クラゲンフルト
クワイン	九、九六五	五、〇、八一五、〇	五一	ライバハ

總計	ンルガソウ		ヒ		イ		ラ		ル					
	合計	ウソガソウ クロアチヤ、スラボニア	合計	ダルマチエン	ブコサナ	カリツイエン	シウレシエン	メーレン	ペーメン	フオアルベルヒ	チロル	イストリエン	ゲルツ及びクラチスカ	トリエスト及び屬地
六二、五五一八	三三、五三二五	四、二五〇一	三〇、〇一九三	一、二八六三	一、〇四五六	七、八五三二	五、一五三	二、二二三一	五、一九六七	二、五七〇	二、六六九〇	四九五二	二九二七	九五
四五四〇、五二六七	一九二五、四五五九	二四一、六三〇四	二六一五、〇七〇八	五九、三七八四	七三、〇一九五	七三一、五九三九	六八、〇四二二	二四三、七七〇六	六三一、八六九七	一一、九二三七	八五、二七二二	三四、五〇五〇	二二、二八九七	一七、八五九九
七二	五九	五七	八七	四六	七〇	九三	一三二	一一〇	一一二	五〇	三三	六九	八〇	四百五十二
		アグラム	ブダペスト	ツアラ	ツエルノサツ	レンメルヒ	トロンボ	ブラウソ	ブラーグ	ブレゲンツ	インスブロッグ	パレンツェ	ゲルツ	トリエスト

陸軍は平時に士官二萬八千餘人、下士卒三十五萬餘人あるが、戦時には百八十七萬餘人に達すべし又海軍は百十五隻、凡十五萬六千噸、約三十萬馬力を有す。財政上に於ては全豫算は三部より成り、兩部に共通なる歳出入は各約三億五千五百萬クローネなるが、前ライタ部の歳出入は十八億二千萬クローネ内外にして、後ライタ部は約十二億九千萬クローネの歳出と十二億九千六百萬クローネの歳入を示せり。

生業 農業はエステルライヒに於ても主要なるものにして住民の約二分の一は本業に従事し、凡二千八百二十五萬ヘクタールの耕地に依て一億二千百三十萬ヘクトリートル餘の穀類を始とし、馬鈴薯九七一九萬キントル、甜菜五三二三三、葡萄、煙草、ホップ、麻、亞麻等を與ふるが、養畜に關しては牛九五一萬頭、馬一七二、羊二六二、豚四六八、山羊一〇二、等の飼養あり、鰯一六七萬斤の産あり、森林は九百八十萬ヘクタールに近し、ウンガールンにありては住民の六割八分餘は農業に従事し、五十二億三千三百七十六萬斤の穀類を始とし、馬鈴薯五〇二七、甜菜二一一二、其の他の産ありて、馬二二二、牛六

鑛業

七四、羊(八一)、豚(七三)、家禽(三二七)の飼養あり、繭は百七十一萬疋に達せず、森林は主としてカルパット、ドラエ及サエ間に存するが、森林の面積は約九百二萬ヘクタールにして其の四百七十萬ヘクタールは山毛榉林に屬せり。

鑛業はエステルライヒに於て一億一千五百七十萬フロリンの産額あるが、ペーメンは鐵、石炭其の他各種の鑛産に富めり、而して主要なる鑛産を記せば褐炭(五〇一九萬フロリン)、石炭(四八七三)、生鐵(三五六五)、亞鉛(二〇九)、鉛(二〇〇)、水銀(一四九)等を得べし、ウングアルンも亦褐炭(三五七二萬クロネ)、銑鐵(三三一九)、石炭(三三二二)、金(一一〇七)等を産す。

工業

工業はエステルライヒに盛なり、本業に従事するものは三百萬人以上あるが、一千四百二十三處の醸造場は、ビール約一千九百六十三萬ヘクトリートルを製し、三萬九千足らずの蒸溜場は凡百五十萬リートルの「アルコール」を製するが、玻璃器其の他各種の製造行はる、ウングアルンに於て工業に従事する者は百十三萬人に達せずして其の二十八萬餘人は衣料に關係を有す、而して九十處の醸造場は百三十二萬ヘクトリートルの「ビール」を産し、六萬

貿易

七千弱の蒸溜場は凡百一十萬リートルの「アルコール」を與へ、砂糖には一億七千三百八十萬疋、葉卷煙草には四億四千四百萬本、紙卷煙草には十三億七千四百萬本の産あり。

貿易に就きては輸入に凡二十一億四千六百萬クロネ、輸出に二十二億四千三百萬クロネ弱あるが、此の外に貴金屬の輸入高は五千五百萬クロネ以上、達し輸出高は五千九百萬クロネを超えたり。

取引先の主要なるものを記せば輸入にドイツ(八〇四百萬クロネ)、合衆國(二〇三)、イギリス(一五七)、ロシア(一三七)、イギリス領印度及セイラン(一二五)、イタリア(一〇六)、スルビア(六八)、フランス(六八)、シツワイツ(五八)等あり、輸出にドイツ(一一一四)、イギリス(一九九)、イタリア(一六一)、トルコ(九四)、シツワイツ(八九)、羅馬ニア(八二)、フランス(七一)、ロシア(六五)、イギリス領印度及セイラン(六八)等あり、主要貿易品は輸入の部に綿花(一九六)、獸毛(一二六)、石炭(一〇五)、穀類(九七)、器械(六三)、化學品(六一)、皮革(五七)、家畜(五二)、書籍地圖(五二)、種子(五一)、珈琲(五〇)等を得、輸出の部に木材(二五二)、砂糖(一八九)、家畜(一四九)、穀類(九八)、鶏卵(九七)、石炭(八

交通

六)毛織物(六二)皮革(五九)硝子(五九)麥芽(五三)革具(五一)等あり、船舶の出入一
 九〇四年は各、一萬八千隻、一千四百六十餘萬噸なりとす。
 一九〇五年に於ける商船は百九十四隻の遠洋航船三五、四五五八噸を合
 みて一萬四千三百八十五隻帆船一、四三八五 汽船三六〇四十二萬餘噸三六、六一一五あ
 りて三萬九千六百近くの乗組を見るがロイド商船會社は本社をトリエス
 トに置きて海路の航業を專にしドナウ汽船會社はドナウ河の航路を利用
 せり。

次に鐵道、郵便、電信、電話等に就きて一表を示せば

國名	鐵道	郵便局	電信線		電話線	
			線長	延長	線長	延長
エステルライヒ	三、一六一九 <small>料</small>	八六二八	四、〇三七三 <small>料</small>	一八、七九二二	二、〇七八八	三、七二二九
ウングアルン	二、〇一八二	五、〇一八	二、三三四〇	三、一六七五	一、五九七〇	一、三三二六
合計	四、一八〇一	一、三三七六	六、三六一三	三、九五九二	三、六七五八	四、八四五五

井

處誌 エステルライヒ

キーン(Vien)一六七、四九五七北緯四八度一分二秒、東經一六度二分二秒は一にキエンナ(Vienna)と云ふ、アルプ山脈の末端一四六米突の地に

リ

ありて遙にカルバット山脈を望みドナウ河に瀕す、交通上の要區にしてドイ
 ツ人ウングアルン人、スラブ人の相隣接せるの地にあるを以て市内に此等の
 種族雜居す、當地はエステルライヒの首都として中央政府のある處なるが
 故に市街は頗る殷賑にして宮殿寺院多く建築には見るべきもの多し、而して
 工藝の中心としては飾器、縫箔、磁器等を製す、實に世界屈指の都會たるに耻
 ぢず、リント(Linz)五、八七九一は上エステルライヒの首府なり、ドナウの右岸
 に位する河港の一にして毛布、煙草等を製す、リント、ブドワイヌ間の鐵道は
 ヨーロッパ最舊の線路なりと云ふザルツブルグ(Salzburg)は風色を以て名あり、
 グラツ(Graz)一三、八〇八〇はスタイエルマルクの首府なり、ドラウ河の支流
 ムルに沿ひ冶金業に従事して鋼鐵を製す、トリエスト(Triest)一三、四一四三
 は帝國第一の商港なり、キーンの南南西鐵路五百九十五軒に位しアドリア海
 に瀕してカルスト山の麓にあり、船舶の出入は各二百九十四萬噸を超ゆ、住
 民にはイタリア人甚だ多し、ポラ(Pola)四、五二〇五は海軍の根據地にしてイ
 ストリア半島の南端に近く位せり。

ク

トリエスト

プラーグ

プラーグ(Praha)二〇、一五八九は一にプラハ(Praha)と云ふ、海拔三〇〇米突の地にありてモルダウ即モルタフ(Vltava)河に沿入り、本市はヘーメンの首府たるのみならず農産、鑛産に富める地にありて綿布、羅紗、玻璃器等を製しツィッコフ(Zikow)五、九三二六、スミホフ(Snichow)四、七一三五、等と接続す、ピルゼン(Pilsen)六、八〇七九はプラーグの南西に於ける工業地なり、ブドワイス(Budweis)三、九三二八はモルダウ河畔にありて鉛筆、硝石等を産す、ブリュン(Brunn)二〇、九三四六はメーレンの首府なるがマルチの支流に沿ひ絹布、燐寸の産あり、クラカウ(Krakau)九、一三二二はポーレンの舊都にして同國王の墳墓の地なり、近傍のキエリツカ、ボヒニアは岩鹽の産地として名あり、ブルツェミスル(Przemysl)四、六二九五はワイクセル河の支流に沿ひ軍事上の要區たり、器械、酒精等を産出す、レンベルヒ(Lemberg)即ルロウ(Lwow)一五、九八七七はガリツィエン即モロシアの首府にしてブグ河の一小支流に臨めり、麻布、器械、陶器等を産するが住民にはユダヤ人、アルメニア人多し、ツェルノキッツ(Czernowitz)六、九六二二はブコキナ第一の都會なり。

ブワウ

クラカウ

レンベルヒ

ツェルノキッツ

ブダペスト

ウングアル

ブダペスト(Budapest)七、一六四七六、北緯四七度二九分三五秒、東經一九度三分五一秒、は海拔一〇六米突に位す、ウングアルの王都にしてブダ即、オーフェン(Ofen)とペストとを併稱せるものなるが、ドナウ河は其の間を流る、ペストは後ライタ部の政府國會の所在地にして商業、工業の盛なる王國第一と稱せらる、ブダはマジール人の堅城とする所なり、プレズブルク(Presburg)六、一五三七は一にポツゾニー(Pozsony)と云ふ、ドナウの左岸にありてエヌテルライヒの國境に近し舊都の地なり、ケクスケメット(Keskené)五、六七八六はブダペストの南東にあり、マリアテレシオペル(Maria Theresiopel)八、一四六四即モサバドカ(Szabotka)もドナウ河とタイス河との間にありて農産物の集散地たり、セゲダン(Szegedin)一〇、〇二七〇はタイス河に瀕し王國第二の都會なり、純然たるマジール市街にして商業盛なり、デブレツィン(Debrecin)七、二二五一はシスコルツの南東に當り畜類、煙草を産す、グロスワルダイン(Gloswarden)四、七〇一八はナギフランド(Nagy Varad)とも云ふタイスの支流ケレス河に瀕し酒精油等を産す、アラド(Arad)五、三九〇三はタイスの支流たるマロスに沿ひ穀類、

プレズブルク

ケクスケメット

マリアテレシオペル

デブレツィン

アラド

アグラム

家畜等を集散す、テメスヴァル(Emesvár)(四、九六二四)はアラドの南へガ運河の
沿にありて穀類、煙草等を製す、クラウゼンブルグ(Klausenbourg)(四六六七〇)即
ちコロツスヴァル(Kolozsvár)は後シルバニアの首府なり、アグラム(Agram)(五、七
六九〇)は一にツァグラブ(Zagreb)と云ふ、サエ河の沿にあり、クロアチエンの首
府にして南スラブ人の要市たり、フウメ(Fiume)(三八〇五七)はトリエントの
南東東に於ける商港なり。

○ボスニエンヘルツェゴナ

ボスニエン(Bosnien)ヘルツェゴナ(Herzegowina)の二州は名義上トルコに屬
すれども一八七八年のベルリン條約は統治を君主國に委任したり、ボスニ
エン(四、一九〇八)方籽はボスナ河の流域より成りて起伏多く山林、原野に富
めるが、ヘルツェゴナ(九一一九)はナレンタ河に依り瘠地、沼地少なからず、經
濟上の價值は著しからざるも君主國對バルカン半島の關係上重視せられ、
二萬餘人の士卒をして駐防せしめ、其の約二千八百四十人を派してノビバ
ザル(Novibazar)を占領せしむ、住民は一八九五年に於てボスニエン百三十一

ノビバザル

サライエボ
モスタル

萬餘、ヘルツェゴナ二十三萬弱、總計百五十三萬五千餘人ありしが、一九〇〇
年に於ては總人口を百七十三萬七千人とせり、之を宗教別にせば四割三分
はギリシア教徒、三割五分はマホメット教徒、二割一分はローマ公教を奉ず、農
業は穀類、果物、蔬菜等を與ふるも、主要なるは牧畜業にして皮革、生毛等を産
す、サライエボ(Sarajevo)(四、一五四三)はトルコ名をボスナセライと云びてミ
リアナカ河に跨り、金屬器、煙草等を製し市街賑なり、モスタル(Mostar)(一、七
〇一〇)はヘルツェゴナにありて地方の商區なるが住民にマホメット教徒多
し。

○リーヒテンシュタイン公國

リーヒテンシュタイン(Liechtenstein)は一七一九年以來公國として存し、一八八四
年に於てエステルライヒの關稅同盟に加入したるが首邑をヴァツ(Vaduz)と云
ふ。

● シュヴァイツ

境域 シュヴァイツ國(Schweizerische Eidgenossenschaft) スイス連邦(Switzerland)

世界地理提要 シュヴァイツ

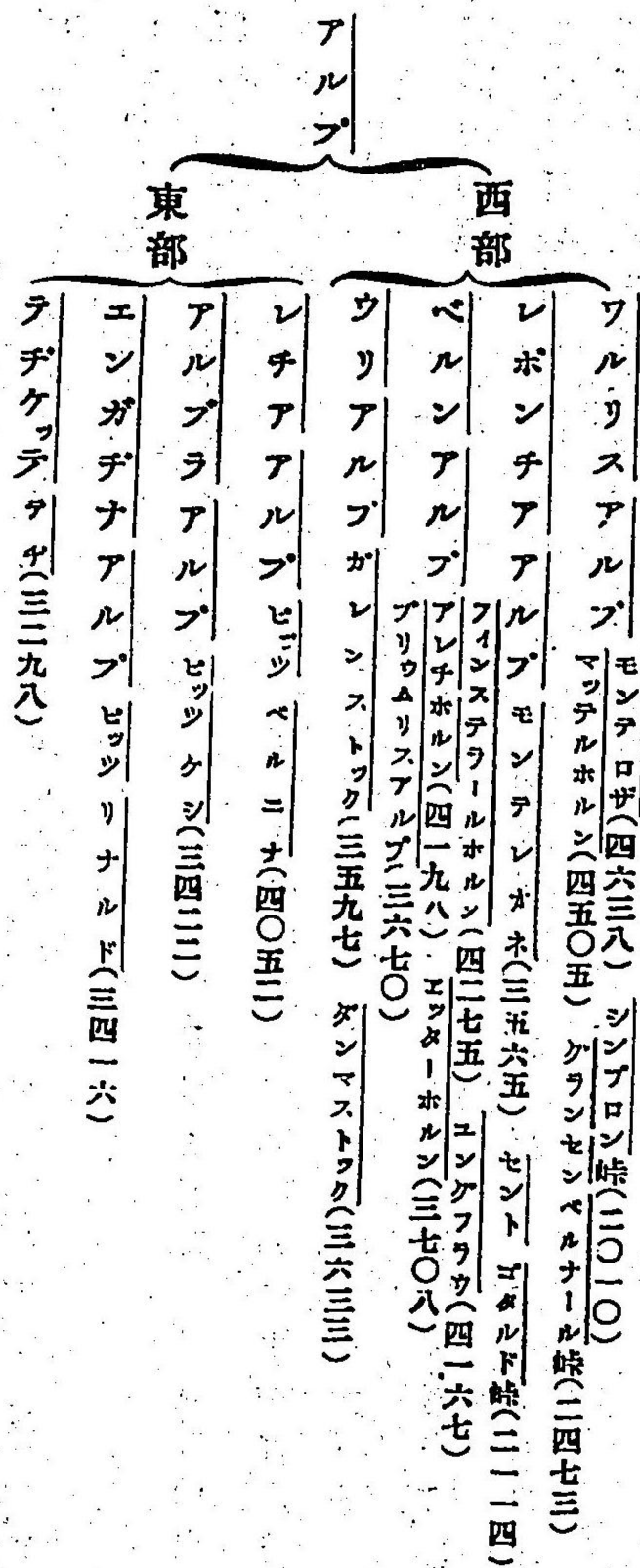
and) スイス(Suisse)とも呼ばれヨーロッパ中部に於ける小國なり北にドイツの
エルザス、バーデン、キルテンベルヒ、バイエルンあり、東にリーヒテンシュタイ
ン、エステルライヒあり、南はイタリアと境し西はフランスに接す、東西は三
百四十八軒ありて幅は二百十九軒に達し、地積は四萬一千餘方軒なるを以
て我が九州より少しく小なりとす。

土地 シツウィツは純然たる陸國なるが、山岳は土地の三分の二を占む、南
にアルプ山脈あり、北西と北とに二百八十軒の長さを有するユラ山脈ありて
此の二山脈とレマン、コンスタンツ兩湖との間に海拔五六百米突のシツウィ
ツ平原あり、而して此の國の最高點はロザ(Ros)山(四六三八)にして最低處は
マシヤン(Magjore)湖(一九七)なり、アルプ山脈は南の斜面に於て斷崖絶壁多く、北
面の傾斜は少しく緩慢なり、中央のゴタルド(St. Gotthard)山嶽より三縦谷、三横
谷の發するあり、二縦谷の一はライオン上流の谿谷にして北東に趣くが、他の
一はローヌ上流の谿谷にして南西に走れり、而して三横谷中のテ、シン(Tessin)
三は南に、ロイス(Rous)は北に、アル(Aar)は北西に向へり、又ゴタルドの山結

山岳

レナフ

に集合する山脈には南より来るワルリスアルプ、ダリゾンアルプあり、北よ
り来るベルンアルプ、レチアアルプあり、而してモンブラン山嶽は僅に其の
北端をシツウィツに觸るるに過ぎず。



河流

ローヌ、アール、ライン、テッシン等の河流は概してサントゴタルト山嶽より
發して北海、地中海或はアドリア海斜面に屬するが、ドナウの支流たるイン

世界地理提要 シツウィツ

河はシツウィツの東部を貫流せり、而して瀑布は數多きが就中シツフハウセ
 ンの下に於けるライン瀑の如きは著名なり、又湖沼には頗る風色佳良なるも
 のあり、主要なるものはレンマン(Leman)、ヌーシヤル(Neuchâtel)、ビエラ
 ツン(Thun)、ブリエンツ(Brienzi)、ルツェルン(Luzern)、ツン(Zug)、チャーリーヒ(Zürich)、ワ
 ルレン(Wallen)、コンスタンツ等の外にマジヤレあり。

氣候 同じ海拔の地に就きて谿谷は臺地より、西部は東部より氣溫稍高
 く、ユラ地方は寒氣強く、レマン湖地方は溫和なり、中部平野の年平均は八度
 にしてセンベルナル(St. Bernard)の寺院にありては年平均は零下一度な
 り、又高山の頂には積雪あり、氷河あり、アレツヒの氷河はヨーロッパ第一にし
 て二十五軒の長を有するがモンテロザの氷河も亦大なりとす、要するに氷
 雪に蔽はるる處は全面積の十二分の一なるべし。

住民 人口は一九〇〇年に於て三百三十餘萬、男一六八、八四一、八ありて一
 方軒八十人の平均なり、而して二百三十一萬餘人はドイツ語を使用し、約七
 十三萬人はフランス語、二十二萬餘人はイタリア語を用ふ、又宗教上に於て

は新教に約百九十二萬、舊教に凡そ百三十八萬ありて、殘餘は主としてユダヤ
 教に屬せり、教育は甚盛にして一九〇二年の壯丁中讀み得ざりし者は〇・一
 五、パーセント、書き得ざりし者は〇・五一に過ぎざりき、而して初等、中等の機
 關より始め六ヶ處に大學を設くるが、チツリヒのポリテクニコムは天下無雙
 と稱せらる、此の他に特種の學校種々ありて、大圖書館、學校圖書館、通俗圖書
 館等も少なからず。

政治 シツウィツは二十二カントンを爲せる二十五邦より成れる合衆共
 和國にして、中央政府はベルンにあり、聯邦議會は二院より成りて、共和國の
 政權を掌握す、其の國民院は人口二萬に就き一人の割合を以て撰ばれたる
 百六十七人の議員より成り、其の聯邦院は各カントン二人アッペンツェル、バゼル、
各、二部に分かれ各部よりの議員を出たすを以て四十四人より組織せらる、行政
 權は兩院の推選に係る、聯邦行政會議に屬し、任期一年の大統領は外務、内務、
 司法及び警察、軍務、財政及び關稅、農工、郵便鐵道の七委員(三年)中より互撰せら
 る、聯邦軍はアウスツグ(Auszug)撰兵に十四萬餘人ありて、ランドエール(Land-

(國民軍)に凡九萬あり、一九〇五年の歳入は一億二千九百三十萬餘、フ
 ランクにして歳出は一億一千六百七十一萬餘、フランスなるが國債は貸方
 に二億八千一百萬、フランス餘、借方に一億二十五萬、フランス餘あり。
 生業 土地の二割八分餘は不生産地なるが、三五、八は牧地、二九は森林、
 八、七は果樹の下にありて、一六、四は耕種地、園地なり、農産の主要なるものは
 ライ麥、オート麥、馬鈴薯なるが、葡萄はワード、ノイシテル、チッリヒ、ワルリス
 等の地方に栽培せられ、三千八百五十四萬、フランス餘の産額に達する葡萄
 酒の原料と成る、牧業は牛(二〇八萬頭)、豚(五五、五)、山羊(三三、五)、羊(二二、二)、馬(一六、六)等を
 飼養するが、グリュイエル、エムマンタルの牛は良種として名あり、養蠶はデッシ
 ン、グリゾン、アルガウ、チッリヒ、ツルガウ等の地方に行はる、蠶業は著しから
 ざるが、鐵鹽、褐炭、土瀝青等を産せり、工、藝の主なるものは時計飾具、綿布、絹布、裨
 紐、笹線、チーズ、煉乳等を製するにあり、動力の多くは水利に依れり、貿易の高
 は一九〇五年に於て貨物の輸出凡九億六千九百三十萬、フランス餘、輸入十三
 億七千九百八十五萬餘、フランス餘あり、正貨の輸出に凡三千八百五十萬、フ

ンク、輸入に約七千八百四十七萬、フランス餘あるが、主要なる取引先は輸入に
 ドイツ(四四〇百萬)、フランス餘、フランス(二七四)、イタリア(一七六)等ありて、輸出
 にドイツ(三三三)、イギリス(一七五)、合衆國(一二五)、フランス(一一九)等あり、主要
 貿易品は輸入に生絲(一三五)、穀類及穀粉(一三三)、石炭(六八)、獸類(六〇)、綿布(六
 〇)等あるが、輸出に綿布(一七三)、絹布(一六六)、時計(一三三)、器械(五六)等あり。
 遊覽旅行に供する機關の整備せるは實に世界第一にして、當國富源の主
 要なるもの一なり、旅館及宿舍は一千八百九十六ありて、五億五千四十八萬
 フランクの資本を有せり、而してシツウィツは交通の機關を整備せんが爲に
 巨額の金員を投入したる國の一にして、其の結果は山間の地たるに拘らず
 道路開け、鐵路の延長は一九〇五年に於て四千五百六十九軒に達し、殊に網
 索鐵道は當國の名物たるが、ゴタルドの隧道(一、四九九〇米突)はアルプの南
 北に於ける諸國間の交通を開き、シンブロン(Simplon)隧道(一、九三七〇)は世界
 第一の長隧道にして、イタリアとフランスとの間に新通路を開きたり、又チ
 ロルに於けるアルルベルク隧道は南東ヨーロッパに對して一の門戸をシツ

イツに與へたり郵便は一千六百七十七局を有し國有電信線は線路六千三十五軒延長二萬二千八百六十軒電話線は線路一萬六千三百十九軒延長二十五萬二千二百三十五軒を有す。

ベルン

盧誌 ベルン(Bern)七・一七四八 北緯四六度五七分九秒 東經七度二六分二六秒 は一八四八年以來

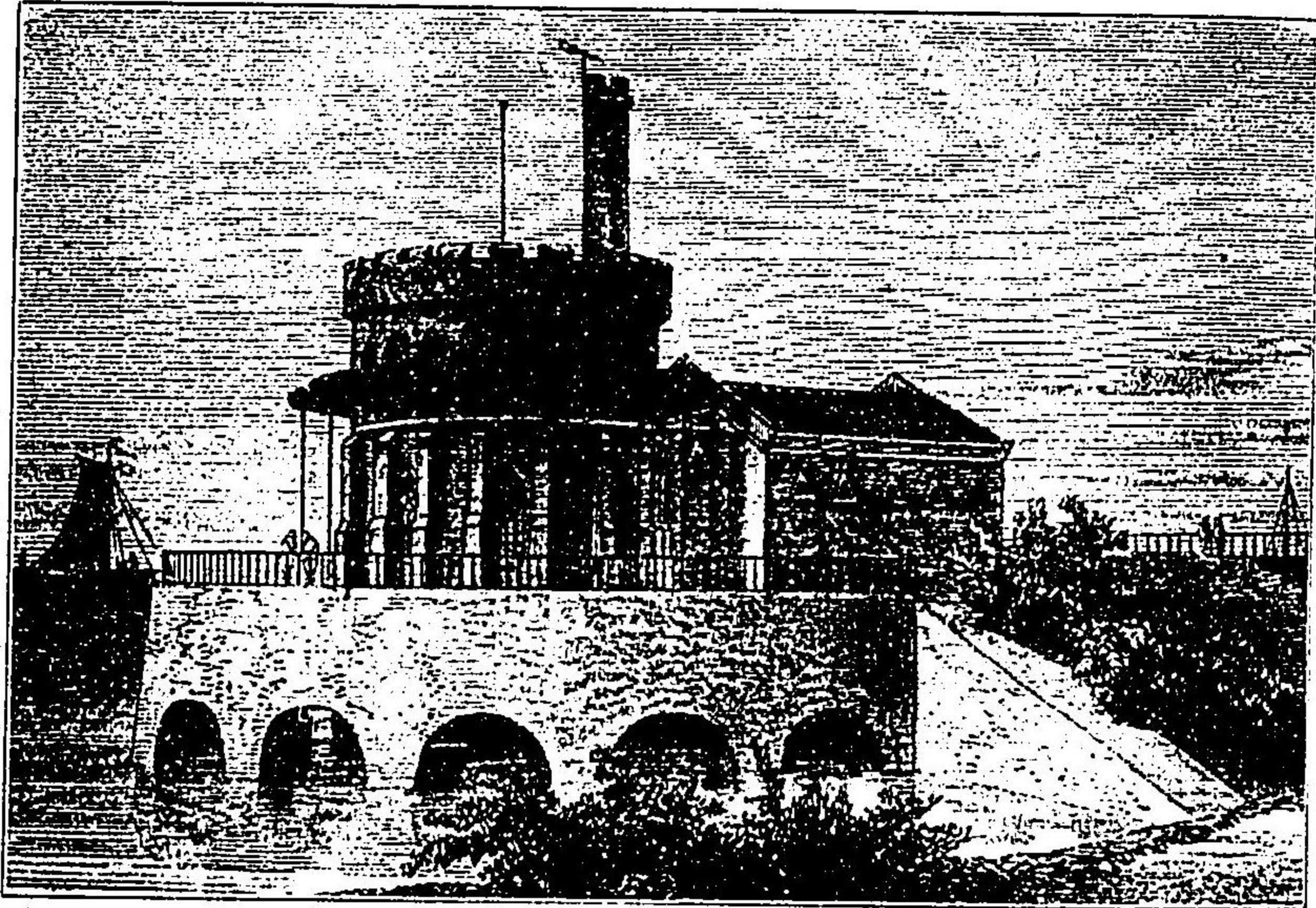
バゼル

聯邦の首府たりアール河に瀕し織物飾具の産あり、シャードフオン(Chaux de Fonds)四・〇四五〇はヌーシヤタルの北北西にありて時計を産す、バゼル(Basel)二・二七九八七はライン河に瀕す市街は廣大ならざるも生産力に富めるを以て世界屈指の都會に數へらる貿易に従事し又絹布を製す、セントガレン(St. Gallen)五・二七六六はボーデン即ちコンスタンツ湖の南方に位し笹織綿布を製す、チューリッヒ(Zürich)一八・〇四八三 北緯四四度二二分四〇秒 東經八度三三分六秒はリムマ

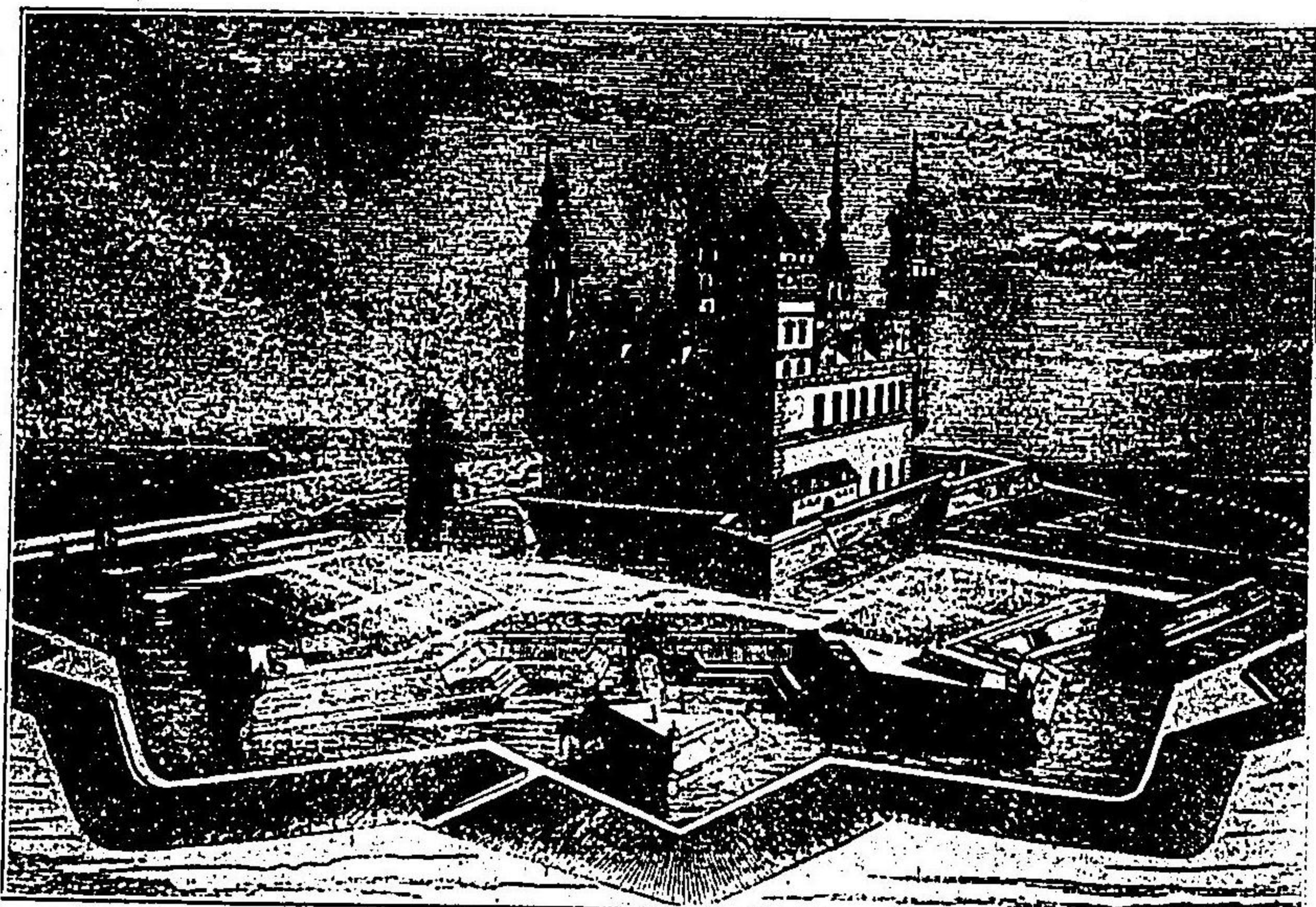
チューリッヒ

ローザンヌ
ジュネーブ

がチューリッヒ湖に注ぐ處にあり當國の最大都會にして大學を以て聞ゆるのみならず絹布の産あり、ルツェルン(Lucerne)三・三六三〇は同名の湖より流れ來るロイス河に瀕し釋紐を製するを以て名あり、ローザンヌ(Lausanne)五・三二〇九はレマン湖の北岸に近くして氣候佳良なり製革に従事す、ジュネーブ(G



リーグ・ワートル (Leegh-Water) (ハアルレムの排水器)



クロンボルグ (Krönborg Seeland)

海と隣ふは蘭國永久の責務なり。水を防ぐは蘭人終生の役務なり、水害の多きこと蘭國の如きもの少なく治水の法に巧なる蘭人の如きもの稀なり、土堤を築き治水を排し以て三百有餘年の間に約三十六万町歩の地を獲得し又は昔て國都を驚かせし暴慢無禮の「ハアルレム」(Haurlem) 三(潮(百八十万軒)を死刑に處したり、ズイアルジューの化して青田と成るの日も益し遠からざるべし、「リーゲツ」(Leege Minne)は其の名をハアルレム湖の湖標を首唱せし人に借りたるが蒸氣力に據りて運轉する一大排水器なり、該器は他の二ヶ處に設けたる排水器と共に活働し三十九ヶ月間に約九十三億立方米突の水を排して肥沃なる新耕地を興へたり。

ゼーランド (Zeeland) の北東端 スンドの最狭處に於ける「ヘルミンゲン」(Helmingen) 並に「クレンボルク」(Klunborck) 城王の廟ありと云ふ「ハムレット」(Hamlet) はスエーデンの「ヘルミン」(Hermine) と相對してスカンデナヴィアホスボロスの鎖輪の地たり、城は海上に突出する地點に於て堅固に築造せられ三重の石壁を繞らせり、港灣は真好にして「ヌイロット」(水先案内)の發着地、造船處として知らる。

néve(一一四五四七)北緯 四四度 一分五九秒はドイツ的にゲンフ(Genf)イギリス的にジネバ(Geneva)と云ふ「レマン湖」の南端に位し世界著名の地にして時計飾具の産あり、大學あり。

西部

● オランダ

境域 ネーデルランド (Nederland) 即ち ペイネー (Pays-Bas) の意は俗にオランダと呼ばれるが、西ヨーロッパに於ける一小國なり、北と西とに北海を控え東はドイツに境し、南はベルジックに接す、長三百四十軒ありて幅は百七十五軒なるが面積はゾイデル海及淺瀬 (Schoren) (五二五〇方軒) 并に「ドルラルト」(Dordrecht) (九五五) を除きて三萬三千方軒あれば我が四國の二倍より稍小なり、然れども築堤に依りて「ポルダー」(Polder) を作り毎歲十方軒づつの増加を得と云ふ。

海岸 海岸は到る處低くして或る部分は海面より低く砂丘或は築堤の

保護を要するが、著しき灣入はゾイデル海(Zuyder Zee)、デルラルト(Dollard)海、ライン、マース、シエルト等の河灣にして、島嶼は北西にテクセル、フリーランド等あり、南西にオトフェルフラッケイ、ツルヘンシ等あり。

地勢 土地は平低にして最高處と雖、海拔は二百四十米突に過ぎずして海面より低き土地あり、又國の東部一帯には沼地多く荒蕪の地ありて、ドイツとオランダとの天然の境界を爲せるが、ライン、マース、イッセル、シエルト等の下流は國內を貫流す。

氣候 氣候は概して海候にしてフリエスランド并に東部の地にありては稍大陸的なり、氣温は甚しく低下することなきも、不同にして變化し易く濃霧屢起り降雨も亦少なからず、ユトレヒトに於ける觀測に従へば氣温の年平均は十度にして春秋は九度四四なるが夏季は十八度八九、冬季は十一度三九なり、又年雨量は約七十一糎にして降雨日數は二百四日なり。

住民 人口は一九〇五年に於て約五百五十九萬人あり、一方糎に付きて百六十九人を與ふ、信教上は新教に三百七萬人、舊教に百八十萬人、ユダヤ教

に十萬人あり、其の他の宗教を奉ずるものも多しあり、教育は普及せずして下等社會には無知の者多きも之に反して中等社會以上は教育の恩澤に浴せり而して、ライデンの大學は往古の隆盛を見ざるも亦王國各種學校の首位を占む。

政治 オランダは立憲王國にして立法權は君主及國會に屬す、國會は第一、第二の兩院より成りて前者は地方議會の選舉せる五十人の議員を有し、後者は一般の公選に係れる百人の議員を有す、而して内閣には首相兼外務司法、内務、海軍、財務、殖民、陸軍、治水(Waterstaet)商工の八大臣ありて別に國務大臣五人を置き、其の他に參事院、會計検査院あり、地方は十一州に分たれ、各州の議會は其の權限甚だ大なり、兵備は陸兵に三萬五千人足らずありて兵艦に七十九隻、九萬百餘噸あり、財政は一九〇七年の歳入凡一億七千八百萬グルデンにして歳出は一億八千六百萬グルデン弱なるが國債は十一億グルデンを越ゆ。

生業 一九〇五年に於ては耕地約八十六萬方糎、牧地凡百十九萬三千方

稻の外に森林(二五萬并)に花園(七三)等ありたりしが、ポルデル并にオランダの平野は地味極めて豊沃なれば、農業は大に發達して耕種の業大に進歩せり、殊に麻類、煙草等を栽培し、花園は珍花奇卉を與ふ、牧業は主として牛(一六七萬頭)を飼ふが亦馬(三〇)、羊(六五)、豚(八八)等を養ひたり、漁業は鯨(八五九萬)グレンデン(鯨)等を與ふ、而して工業はフリエスランドの麻布、トリブルヒの羅紗、エトレヒトの天鵝絨、グーダの煙管、アムステルダム(寶石細工、ザアングムの造船等あり、蒸溜、醸造、製糖等の各業亦行はる。

貿易は一九〇五年に於て輸入に二十五億八千三百五十萬、グレンデンありて輸出に十九億九千三百八十萬、グレンデンありしが、輸入元の主なるものはドイツ(六三九)、オランダ領東印度(三九九)、ロシア(三一八)、イギリス(二六三)、ベルジック(二五四)、合衆國(二四〇)等にして輸出先にドイツ(一〇六六)、イギリス(四〇九)、ベルジック(二二七)、合衆國(八二)、オランダ領東印度(七〇)等ありたり、而して貨物を種類別にすれば輸入の中、約九百萬、グレンデンは原料品にして、飲食品(七〇)、雜品(三八六)、加工品(四七九)之に次ぎ、輸出品は原料品(七〇)、飲食品(六六

一)加工品(三六〇)、雜品(二六六)より成れり、又入船は約三千三百二十萬噸にして出船は凡三千二百二十八萬噸なり、商船に七百五十隻、百十六萬餘噸ありて、鐵路(一九〇五年)は二千九百八十七、千に過ぎざるも、電信線の延長は三萬二千、千、近くありて、電話線の延長は六萬三千、千に達し、殊に運河は三千、千を越えなり。

處誌 ハーグ(Gravenhage)(二四、二〇五四)は王國の首都なり、海岸并にシッペンゲンを距ること凡一里の處に建設せられたる美麗の都會なり、デルフト(Delft)(三三、三三五七)は首府の南東に位し、陶器を製す、ロッテルダム(Rotterdam)(三七、九〇一七)は、レック河に瀕す、船舶の碇繋に便にして王國第一の商港なり、盛に殖民地の貨物を輸入す、ライデン(Leyden)(五、六七二二)はハーグの北東にありて其の大學は古來有名なり、ハーレム(Harlem)(六、五九九七)はアムステルダム(五五、七六一)の西にありて花園を以て知らる、アムステルダム(Amsterdam)(五五、七六一)北緯五二度二分一六秒、東經四度五四分四五秒は、ゾイデル海の南西隅に於ける一小灣に瀕し、アムステル河に接す、運河多く交通の便を備ふる一大商港なるが、市街は殷富にし

ハーグ
ロッテルダム
アムステルダム

て金融上の一大中心なり又金剛石の細工并に賣買を以て名を知らる、ユトレヒト(Utrecht)一、四三二二)は国防上の要處にして大學校の所在地なり、羅紗、天鵝絨を製す、アルンヘム(Arnhem)六、八五一五)はユトレヒトの南東東、ライ
ン河畔に位し、煙草、織物を製す、ニイメーゲン(Nijmegen)五、〇六八四)はワール
河に沿ひ商業地として名あり、マーストリヒト(Maastricht)三、六二五七)は國の
南隅、マース河畔にありて硝子、陶器を製出す、ヘルトローゲンボシ(Herogenbosch)
(三、四〇九三)はユトレヒトの南南東に於ける工業地なり、チルブルグ(Tilburg)
(四、六五一七)は南境に近くして熟皮の産あり、ドルドレヒト(Dordrecht)四、四〇
二二)はロッテルダムの南東に位し亦工業に従事す、グロニンゲン(Groningen)七、
二二二四)はドルラート灣の西方に於ける一都會なり。

殖民地 オランダは強大國の間に介在する小國なれば夙に富源を海外
に求むることに努力し、特有の性質技能に基づきて巧に海上に驅逐し以て
殖産的土地を領し、ポルトガル、エスパニアの二種族に劣らざる事業を行
ひ一時は旺盛を極めしが、有力なる競争者の出現するに逢ひて勢、退歩せざ

るを得ざるの非運に陥りしも、今尙二百餘萬方料の土地と三千八百萬弱の
住民とを有し優に殖民國たるの實を有せり。

領	地	地	積	人	口	方料ニ付
東印度	シアパロマンツラ		一三、一五〇八	二八七四、六六三八	二一八	
外領			一七八、三九〇九	八九八、七〇〇〇	五	
西印度	キツラン		一一三〇	五、三六五二	四七	
	スリナム		一一、九一〇〇	九、一〇〇〇	一、二	
合計			二〇四、〇二三〇	三七八七、九〇〇〇	一九	

◎ルクセンブルグ

ルクセンブルグ(Luxemburg)大公國はプロイセン、ベルジック、フランスの間にある一
小國にして地積は二千六百万方料に達せず住民には二十四萬足らずあるが大多數
はローマ公教を奉じ概してドイツ語を用ふ、首都ルクセンブルグ(二、一〇二四)はモ
ゼル河の支流たるアルセツトに瀕せり、舊有名の要塞地たりし處なるが商工業共に
稍盛なり。

● ベルジック

地積

境域 ベルジック (Belgique) は ベルシャム (Belgium) 又は ベルギー (Belgien) と稱せらる。西部ヨーロッパの一小國にして北はオランダに境し、東はドイツ并にルクセンブルグに接し、南はフランスに連なり、西は北海に瀕す。地積は二萬九千五百方呎に近く、長さは二百七十八呎、幅は百六十九呎あり。

バラック
ミシエル

地勢 六十七呎の延長を有する海岸の附近には海面より低き耕地の存するあるも、東并に南東に趣くに從ひて土地は漸次に隆起しアルデンヌ臺地のバラックミシエルは王國の最高處にありて海拔は六七五米突に達せり、而してサムブル (Sambre) マーズ即ちムーズ (Meuse) の兩河は北西の低地と南東の高地との區劃を爲せり、又砂丘の存する沿海の地には數百年來の變遷ありてロムバルド、ブリッジ、ゲナム、エクリューズ等の港灣は砂礫の閉塞する所と成りて現時は北海を距る數里の地にあり、兩フランドル、シンピースにありては砂地多く、肥沃の地として有名なるワエスは沼地の乾涸せしに外なら

す而してポルデルは築堤の保護に依りて良土と成りたり。

河流 當國は灌溉の利を享受するも主要なる河流の全部を有せず、ムーズは丘陵の地を流れ、エスカウ即ちシェルド (Schelde) は平野を潤すが二流共に水源をフランスに發しオランダに至りて海に注げり。

氣候 氣候上に於てはベルジックの國を二帶に區分するを得、西部の一帯は海候にして氣温低からず、濕氣多きが東部の一帯は陸候にして寒氣凜烈、濕氣少なし而して全國の平均温度はブリッセルの平均温度に似たるものにて凡そ十度なるが、春季は九度強、夏季は十七度強、秋季は十度強、冬季は三度足らずなりとす。

人口
言語
移住

住民 人口は一九〇五年に於て七百十六萬餘人ありて一方呎二百四十三人の割合なるが、一九〇〇年の六百十九萬人を言語に依りて區分し其の主なるものを示せば二百五十七萬人はフランス語のみを用ひ、二百八十二萬はフレミッシュ語のみを用ひ、フレミッシュ語とフランス語とを話すものは八十八萬人なり、移住に就きては來住に三萬四千餘人、往住に二萬五千人足らずあり。

り、宗教上國人の多數は天主教を奉ずるも宗教の自由は憲法の保障する所にして一萬餘の新教信者と數千のユダヤ教信者等あり、教育は普及の度に於て未だ缺くる所ありて一九〇三年の壯丁百分の九は讀書を爲し得ざりしと云ふ、又主要なる都會には男女の中等學校の設りあり四處の大學中ガシとリエージュとに於けるものは國立にしてルーベンのアルマ・マテル大學は教會の維持に係り、ブリクセル大學は私立にして自由黨の保護する所なり、此の外アンペールは美術大學校を有しブリクセル、アンペール、ルーベンは音樂學校を有せり。

政治　ベルジックは一八一五年の條約に據りてオランダと共にペイバール(Pays-Bas)王國を組成せしが、一千八百三十年の革命以來獨立國と成り其中立は列強に認めらるるに至れり、代議王國にして立法權は王、元老院、代議院に委ねらる、兩院議員は人口に比例し複票權に依りて直接に選舉せらるるが、元老院議員は百十人ありて直接國稅一千二百フランク以上を納むるもの或は一萬二千フランク以上の不動産を有するものより直接に選舉せ

らるるも、二十六人は人口に關せずして地方議會より選出せらる、代議院議員は四萬人に付き一人の割合を以て公選せられ目下百六十人あり而して撰舉權に就きて一言を要するあり即ち二十五歳以上にして一年以上同一の町村に住し且つ除外すべき條項に該當せざるものは一票を有するが、(一)三十五歳以上にして正出の子孫を有し直接國稅五フランク以上を拂ふもの、(二)三十五歳以上にして二千フランク以上の不動産を有するもの若しくは之に相當する収入を財産より得るもの或は少なくとも百フランクの收利あるもの各に就きて一票を加與し、次に二十五歳以上にして高等教育の卒業證を有するもの若しくは高等教育を受けたる證左と認むべき官職又は地位にあるもの又はありしものに加票二個を與ふ但何人と雖、三票以上を有することを得ず。

行政　政府は首相兼財務及び土木、司法、外務、内務及び教育、農務、工務、軍務、鐵道郵便電信の八大官より組織せられ、地方は九州に分たる、兵備は陸軍に平時の四萬六千餘人、戰時の約十萬人ありてアンペール、リエージュ、ナミール等は主要

財政

の城塞たり、財政に就きて一九〇六年の豫算は歳入五億五千八百八十六萬フランク餘を示し歳出は五億六千六百六十七萬フランク弱を示すが、國債は三十二億二千萬フランクを越ゆ。

農業

生業 生業は五十年來長足の進歩を爲し各業共に繁盛を極む、當國の總地積は約二百九十五萬方相と算せらるるが耕地は百七十四萬方相足らずありて農業は亞麻煙草(五萬キントナル)、ホップ(三三)、小麥(三九五)、大麥(九八)、オート

林業

麥(六六三)、ライ麥(五六八)或は馬鈴薯(二二六四)、甜菜(一三六四)等を産し、花園には裝飾的植物の栽培あり、凡五十二萬方相の森林よりは約二千萬フラン

牧業

クの産物を與へ、牧業は牛(一七二萬頭)、馬(三五)、豚(一一八)等を飼養す、鐵産に就きて石炭は凡三億九百萬フランクに達してリエージュ、シャルルロア、モン

鑛業

等より出でザンブル、ムーズの流域には産鐵地ありて銑鐵は六千二百九十

六萬二千フランク、熟鐵は五千七百七十五萬五千フランク、鋼鐵塊は六千六百四十四萬二千フランク、ニール類は九千四百七十六萬五千フランクに達するが、此の他に五千六百六十七萬五千フランクの亞鉛、五百二十六萬八千フ

工業

ランクの鉛、二千九十九萬一千フランクの銀等あり、工業には兵器、羅紗、毛布、砂糖等の製造あり。

貿易

貿易は一九〇五年に於て貴金屬を除き輸入三十億六千八百萬フランク輸出二十三億三千三百萬フランクを超えたるが取引先は輸入の部にフランス(五一七)、ドイツ(關稅同盟)四〇九、イギリス(三七六)、オランダ(二四五)、合衆國(二四二)、アルヘンチナ(二四〇)、ロシア(二三八)、イギリス領東印度(一〇四)、ロマーニア(一三八)等ありて、輸出にドイツ(五六九)、フランス(三七二)、イギリス(三六六)、オランダ(二六〇)等あり而して貿易品の主要なるものを記せば輸入に穀類及穀粉(四九九)、獸毛(一九一)、木材(一四三)、亞麻(一四二)、皮(一一二)、樹脂(一一六)等ありて輸出に鐵及鋼鐵(二〇〇)、穀類及穀粉(一三五)、器械及車輛(一一〇)、皮(一一〇)、琢磨金剛石(九九)、硝子器(九一)等あり、船舶の出入は各一千二百萬噸に近し。

交通

交通機關の完備せる點に就きて當國は世界第一と稱せらる、鐵路と云ひ航路と云ひ何れも充分に發達して内部に於ける工藝の中心と邊境に於ける

各地との間を連絡せり、されば國域の小なるに拘らず鐵路は一九〇五年に於て四千五百七十九軒あるが國境外に尙凡二百軒を有せり、電信線は線路六千六百二十五軒、延長三萬七千四百四十三軒ありて此の外に六百三十四軒の鐵道用電信線、二千百三十六軒の水底線あり、又電話線は近距離に十一萬四千八百六十二軒、遠距離に二萬一千三百五十六軒あるが郵便は一千三百三十局を備ふ。

ブリクセル

處誌 ブリクセル (Bruxelles) 一九、八六一四 北緯五〇度五一分一〇秒は一に
ブラッセル (Brussel) と云ふ王國の首都にして官衙あり寺院あり大學、音樂學校あり、商工業は甚だ盛なるが殊に印刷業、樂器の製造、裝飾品の製作等を以て著しとす、而して此の地の近傍には シヘルベーク (Solherbeek) (七一、一四、モルンビークセンジーン) (Molenbeek St.—Jean) (六、四六一九) センジーン (St.—Gilles) (六、〇〇八六) アンダーレヒト (Anderlecht) (五、六八三〇) 等の市街あれば此等を合はせば人口は五十萬以上に達すべし、ワータルロー (Waterloo) はブリクセルの南約十七軒に位しナポレオン戰敗の地として名あり、ルーヴェン (Louvain) (四、二二

アンマール

カン

リエーシツ

九四)はブリクセルの東微北に位しカトリック大學の所在地なるが「ビール」鑄物を製す、マリリス (Malines) (五、八四九四) はメルヘン (Melchen) と云ふアンマールの南南東に位し「レース」「ビール」を製す、アンベール (Anvers) (二九、七三一一) 即、アントエール (Antwerp) はエスカウ河に瀕す、全國第一の軍府にして附近には堅固の砲壘を備ふ、世界第四の大港にして取引は極めて盛なるが「コーヒー」米、砂糖、茶、香料等の殖民地產物又は穀類を輸入して麻布、羅紗、兵器、機械等を輸出す、又造船所あり砂糖、煙草、織物、化學品等の製作あり、ガン (Gand) (一六、三〇五九) はグント (Gent) と云ふエスカウ、リース、兩河の合流地にあり、往昔の盛大を見ざるも又盛に綿布、麻布、鑄物、器械等の製作に従事す、ブリッゲ (Brigge) (五、三六九〇) は海を距る十二軒に當り「レース」麻布、其の他の產あり、オステンド (Ostende) (四、一六九八) は海水浴場なるが漁業に従事す、スレン (Seraing) (四、〇四八八) はムーズの右岸に於ける工業地にして製鐵に従事す、リエージュ (Liège) (一七、二二〇七) は一にリッチヒ (Litich) と呼ばる、軍府の一にしてムーズ河畔に位し鐵と石炭との産地にありて軌鐵、鑄物、兵器等を製す、ヴェルヴィエ (Verwiers)

(四、九一二四)はリエージュの東にありて毛織物、皮革、等を産す。

● フランス

境域 フランス共和国 (R^opublique Française) は西部ヨーロッパの大國にして不正六角の形状を有す、北西は北海、カレー海峡、マンシュ海に瀕し、北東にベルジック、ルクセンブルグ、プロイセン、エルザス、ロートリングを控え、東はドイツ、シツウィツ、イタリアに境し、南は地中海に臨み、南西はピレネー山脈に接し、西は大西洋、ガスコニッ海に沿ふ、而して五千二百軒の國境中、二千五百軒は陸境にして二千七百軒は海境なり、地積はコルス島を合はせて五十三萬六千五百方軒に近きが、一に五十二萬八千八百七十六方軒とするもあり。

海岸 北西部の外は單調なるが稍、大なる灣入はセンマロー灣、セイヌ、ロアル、ジロンドの三河灣、地中海のリヨン (Lyon) 灣等なりとす、而して地角は北西にグリーネー (Gris-Nez)、ラアーン (La Hague)、西にウエッサン (Ouessant)、センマチー (St. Mathieu)、バクチャラー (Baie du Raz) あり、島嶼はウエ、サン、ペール、イール (Biarritz)。

Le Ile) ヴー (Ré) オクロン (Oleron) ノエール (Hyères) コルス等を主とし、半島にはコタンテン (Cotentin) ブルターニ (Bretagne) 等あり。

地勢 邊境には顯著なる隆起帶あり、内部にも丘陵の存する處あれどもフランスは土地一般に平坦なり、若し今日の海面に百八十米突の高隆を見んかフランスの半部は水面下にあるべく、四百六十米突なりとすれば中央山嶽、ピレネー、アルプ、ジッラー、ボージッ等の低からざる部分のみ水上に現はるべし、
山岳 邊境に於ける山脈は西にピレネーあり、東にアルプ、ジッラー、ボージッあり、三百四五十軒に亘る、アルプ及延長四百三十五軒のピレネーには高峰少なからざるが内部の中央山嶽は其の海拔大ならず。

沿海アルプブラー (三〇五二) チニブラー (三〇三二)

ヘルプー山嶽 マルテセクレン (四一〇三)

コッチアルプピツ (三八四二)

ブノア山嶽 大カヌ (三八六一)

グレーアルプイセラン (四〇五一) モンスニ (二〇九一)

アルプ山系

中央アルプモンブラン(四八一〇)

ピレネー山脈	東部	ピクドエスタート(三一四一) カニグー(二七八五)
	中部	ピニヤール(三二九八) マルボレ(三二五三) ビクロンク(三一九四) ビクモンヌ(三〇三七) モンガラム(三〇八〇)
	西部	ヌメフランク(二六八四) ビクアニエ(二五〇四)

河湖。河。流。は。北。海。マ。ン。シ。ウ。海。ガ。ス。コ。ー。ニ。ッ。海。地。中。海。の。四。斜。面。に。屬。し。其。の。數。少。な。か。ら。さ。る。が。就。中。セ。イ。ヌ。河。は。水。量。の。増。減。著。し。か。ら。ず。し。て。航。行。上。に。便。益。を。與。ふ。る。こ。と。甚。だ。大。な。り。

河名	水	源	河長	平水量	減水量	増水量	航行し得べき部分
ムーズ	ラングル産地		九五〇	一〇〇	二五	七〇〇	五七四
セイヌ	コートドール		七七六	三〇〇	七五	二五〇〇	五六五
ロワール	ピレネー山		一〇〇八	三七五	一〇〇	八〇〇〇	八二五
ガロンヌ	ピレネー山脈		六五〇	七〇〇	四〇	一、二〇〇〇	四七一
ローク	アルプ山脈		八一二	二二〇〇	五五〇	一、五〇〇〇	五三一

セイヌ

ロワール

ローク

セイヌ(Seine)河は水源をコートドールに發して北西に向ひ遂に海峡に入るが河口より五百六十三料のマルシリーよりは短無を淨おに足れり、支流は右岸にカーブ(Aube)・マヌク(Marne)・ヌーヴ・オース(Oise)あり、左岸にエノン(Yonne)・ロワール(Loire)・ウーレ(Eure)あり、運河に依りてソムム、シェルド、ムーズ、ライン、ソーヌ、ロワールと連絡せり。ロワール(Loire)河はフランスの最長流なり、國の中央部を北及北西に流れ、ガロンヌ河より南西に折れてツールに達し、之より西流してガヌコーニッ灣に終る、潮汐は河口より五十六料のナントに感じ、航行の便は海より八百八十五料のロマンヌ附近に始まる、然れども河口漸く狭く洲嶼砂灘の妨害あり、主要なる支流は右岸にニエールヌ(Nievre)・メーヌ(Maine)等あり、左岸にアリエール(Ailier)・ヌーヴ・オース(Cher)・エントヌ(Indre)・ニオンヌ(Vienne)等あり。

ローク(Rhone)河はライン河の水源に近く發し、レマン湖を経て西に走り、北西に轉じたる後西に復し、リオン平野に至りてソーヌ(Saone)(四五五)と會し、南流して地中海に入る、右岸の支流はエノン(Ain)・ソーヌ・アルマニク(Ardèche)・ガール(Gard)を主とするが、左岸にはアヴェン(Arve)・イゼール(Isère)・ドローム(Drome)・サランヌ(Durance)あり、リオン以下は舟運の便を與ふ。

湖沼は國境に於けるレマン湖の外は概して小なるが、就中最大なるはグランディエ(Grand Lieu)(七八方料)にして、ロワール河口に近く位す、此の外、ブー

ルンギー (Bourget) アンヌシー (Annecy) 等あり又南西及南の海岸地方は多くの海を有せり。

氣候 氣温は中和を得て健康に適せり北西にありては海候にして變化少なく濕潤なり中部殊に北東部に於ては陸候にして寒暑の差強し南西は稍温和なるも南東は炎熱を覺ゆ而してパリに於ては零下十度六に達すること稀なるが夏は日蔭に於ても三十二度以上に達することあり雨量は最多の處にて百五十糎内外なるがマンシ海沿岸の地并に中央の山麓地方にありては百糎乃至百五十糎なり又南部に於ては夏季にアフリカより來る「シロココ」の熱風冬季にアルプ風の寒風「ミストラル」の吹き荒むことあり。

沿革 フランスの地にはケルト派のガリア人其の他の占據するありしが西紀前二二五年頃よりローマの攻畧を蒙りケーザルは六十四國を征服せしかば之より大にローマ化せりと云ふ紀元四世紀に至りて西ゴートは南西部にアルガンダはソーマ及びローマの谷にフランクは北東部に據りしがフランクのクロドフはフランス國の基礎を設くることと成りシブルマニッはエプロ河よりエルベ河に達する帝國を建てたり然るに其の後國土分裂し九九七年にはライン河を以

人口

増殖

て東境とするに至り十二世紀にはイギリス王たるノルマンデー侯は多くの地を領してフランスの土王を凌ぎしことありしがフィリップ(一八〇一—一二三三)の時にはイギリス領フランスの大部の恢復あり一五五八年以後島帝國はフランスに於て寸土をも有する所なかりき降て十八世紀の中葉フランスは海外に於て領土を失ひしこと少なからざりしがナポレオンの出づるやフランスの國境は擴大せられイタリヤ、エスパーニア、ネーデルラント、ドイツの幾部等をも合せし一場の夢たるに過ぎずして一八七〇—一七一年の役には一萬四千五百餘方料の地をドイツに奪はれたり。

住民 人口は一九〇一年に於て三千八百九十六萬餘人ありて一方糎に就きては平均七十四人なるが配付は一樣ならずして海岸河流の沿岸工業の中心等にありては住民稠密なるも山地臺地等にありては稀薄なり而して市街民は漸次に増加して村落民は漸次に減却するを見る。

人口の増殖は極めて緩漫にして一九〇〇年の如きは死者の多きこと二萬五千九百八十八人なりしが一九〇一年は七萬二千餘人翌年は約八萬四千八、一九〇三年は七萬三千餘人の増加を見たり此の如くなるを以て海外に移住するものも微々として一八九三年には五千三百人を數へしのみ。

今一八九六年の現住人口約三千八百二十七萬人、男一九三九二、人を國籍別にせば三千七百二十二萬、足らずはフランスにして、殘餘はベルジック(三九)、イタリヤ(二九)、ドイツ(九)、エスバニア(七)、シツウィツ(七)等に屬せり。

宗教。上はローマ公教を奉ずるもの最、多きが六十萬人はプロテスタント教を信じ、八萬六千人はユダヤ教徒たり、教育は各種の機關を有し中等教育に關しては凡三百四十の公立學校あるが、小學の就學義務年限は六歳より十三歳に至れり、而して一九〇二年の壯丁百分中一、二、五は讀むこと能はずして、四、三、七は讀書を行はざりしと云ふ。

政治。フランスは共和國にして立法權は元老代議の兩院より成る國民議會に依りて實行せらる、元老院は間接に選舉せられたる三百人の議員を有するが、代議院には七萬人に就き一人の割合を以て公民より選出せられたる五百八十四人の議員ありて、選舉權は二十一歳に及びて享受するが、被選舉權は二十五歳に至りて始めて得らるべし、行政權は國會より選出せられて七年を任期とする大統領に委ねられ、内閣は首相(一省の長官を兼ね)外務司

宗教
教育

兵備

法、内務、財務、陸軍、海軍、教育及び宗教、商工、土木、郵便及び電信、農務、殖民、勞働及び保險等の十二省に於ける長官より成りて地方の行政上は八十七縣、一領地に分たる司法權に關しては大審院を置きて全國を管せしめ、控訴院(二六)始審裁判所(三八)、治安裁判所(二八六)を設けて之に隸せしむ。

フランスは兵備上世界屈指の強國なり、陸軍には二十軍團を置き平時には二萬二千七百七十六人の士官と五十二萬八千四百八十人の下士卒とありて別に二萬五千足らずの憲兵等を置くが、軍馬の數は十二萬三千餘に達せり、而して戰時の兵員は四百五萬を超ゆべしと云ふ、次に海軍は海岸を五區に分ち、チッロン、シユルブール、ブレスト、ロシッポール、ロリアンの五處に軍港を設け以て海岸の防禦に當らしむ、兵艦は四百二十七隻、七十五萬二千噸弱ありて馬力は百六十萬を超え、三千七百二十七門の巨砲と八百十六の水雷發射管とを備ふるが、軍人の數は五萬六千人に近し、又建造中に係るものは戰艦六隻(八、九、二、〇噸)、巡洋艦五隻(七、九、七、四、四噸)、水雷驅逐艦十五隻(五、〇、四、〇)、一等水雷艇七十五隻(七、四、二、五噸)、潛航艇三十二隻あり。

重税を負担するの點に於ては世界屈指なるが一九〇六年の豫算に従へば収入は直税(五五四百萬フランク)料地及森林(五三三)間税(二〇四五)專賣及國營事業収入(八一八)等の三十七億五百萬餘フランクにして歳出凡三十七億九百萬フランクは公債(二二三二)陸軍(七一八)海軍(三二五)教育美術宗教(三六九)土木(二三一)殖民(一一〇)煙草販賣所收稅費(四九二)等に充てられたり、又國債の高は二百九十三億フランクを超過せり。

生業 フランスの全地積(五三六四、六三七〇方箱)中、約八百四十萬方箱は森林地にして凡三千七百萬方箱は農業地なるが、農産物に穀類、馬鈴薯、甜菜、煙草、葡萄、苜蓿等あり。

植物	栽培地	産額	植物	栽培地	産額
小麦	六四七、五七二	二、八三八、五五三〇	甜菜	二四、〇四五	六一二、八三〇
大麦	六九、七〇六	一、五二七、四七〇	其他根菜	七五、五〇九	七、六六三、五八一
「オート」麥	三八四、三七五	一、〇五八、四八三	「コルザ」	三、二七二	三七、六四三
「ライ」麥	一一九、七二七	二、〇四二、一七九	類	四、六三二	三、七、八三〇
蕎麥	五五、三四八	一、〇一一、六四九	葡萄	一五八、八二七	四、〇二五

五羽	五〇、一六二	八九三、六六四	煙草	一、八二六	二六、〇六〇
雞	一六、〇六八	二七六、六〇三	苜蓿	一〇二、六五七	三九二、五五九
馬鈴薯	一四三、六〇八	一、六〇五、三一五	草	六二二、九二六	九、九六八、一四五

又栗、胡桃、オリーブ、林檎、ブドウ、桑葉等の生産は一億七千二百萬フランクに近く、畜畜には馬(三〇八萬頭)、驢(二〇、三三六)、牛(一四一〇)、羊(一七九五)豚(七五六)、山羊(一五六)等あり、家兎、家禽、蜜蜂等の飼養にも大に見るべきものあり、養蠶は政府の奨励する所にして二十五縣、殊にガール、ドローム、アルピ、シヤ、ポークリッズに於て盛に行はるるが、一九〇二年に於て斯業に従事するもの十二萬人に餘り、繭の産額は六百萬斤に近かりき、蠶業は甚だ盛なりと云ふを得ざるも年産額は五億一千五百二十四萬フランクと概算せらる、而して石炭(三四一六萬噸)の外に鐵(六二六)、銻(二九七)、銅、鉛、亜鉛、銅、アンチモン、ニ、等あり、漁業は鱈、鯡、其の他を興へ、紡織業は毛布、絹布、敷物等を製し、又毛絲、絹絲、綿絲、麻絲等を産す、化學、工、藝には香水、石鹼、製紙、製油等あるが殊に葡萄酒の醸造は一九〇四年に於て六千六百二萬ヘクトリトルに達せんと

せり此の外陶磁器、玻璃器、時計、パリー雜貨等の産出あり。

貿易は一般に五十七億二千餘萬フランクの輸入と五十七億四千餘萬フランクの輸出とありて特別に輸入四十五億フランク、輸出四十四億フランクあるが通過に七億フランク近くあり。

特別貿易に就きて主要なる取引先を示せば輸入の部にイギリス(五二三)合衆國(四八三)、ドイツ(四二八)、ベルジック(三〇六)、イギリス領印度(二五二)、アルヘンチナ(二五二)、アルジェリア(二三二)、ロシア(二一三)、清國(一七八)、エスバニア(一六四)、イタリア(一五二)、シツワイツ(一〇二)等ありて輸出の部にイギリス(二二一七)、ベルジック(六七七)、ドイツ(五五五)、アルジェリア(三一四)、合衆國(二五〇)、シツワイツ(二五三)、イタリア(一九〇)、エスバニア(一一〇)等を得べし。

更に貿易品の主要なるものを擧げんか輸入に獸毛(三八二)、綿花(三二八)、生絲(二九八)、石炭(二〇九)、油料種子(二〇九)、木材(一八六)、皮類(一七一)、葡萄酒(一六〇)、器械(一一三)、穀類(一一〇)等あるが輸出には絹布(二八六)、獸毛(二六〇)、皮類(二二二)、毛織物(二二二)、葡萄酒(二一〇)、パリー雜貨(一九八)、絹布(一三五)、糖藏物(一一二)。

流行品(一一七)、化學品(一〇二)、金物(一〇五)等あり、之を品種別にせば輸入は原料品(三〇)、二六二)、加工品(八四七)、三三三)の順なるも輸出は加工品(二三七)、七九〇九)、原料品(二二六)、一四八)、食料品(七七八)、二六)と成るなり、而して商港の主なるものはマルセイユ、ルアーブル、ポルドー、ドンケルク、セットル、リアン等にして一九〇四年に於ける外國貿易に關する船舶の出入を示せば入船に約二萬九千隻外フランス旗二、〇〇七、一千九百九十八萬噸、一四八二あるが出船は凡二萬九千隻、二、〇三六、一千九百九十八萬噸、一五〇〇六なり。

交通上の機關は鐵路(一九〇五年)に主要線三萬九千八百二十十軒、地方線に六千八百八十軒あり、航河に八千八百二十六軒、運河に四千九百三十軒あり、商船は汽船に一千四百五十七隻、六十九萬六千餘噸、帆船に一萬五千五百隻、凡六十五萬噸あるが郵便は内國に一萬一千八百六十九局、外國に五十一局(一九〇四年)を設けて三億一千三百萬餘フランクの收入を得、電信は線路十五萬七千六百二十一軒、延長五十九萬五千二百十八軒に達し約三千七百萬フランクの收入あるが郵便及電信に對する支出は二億四千六百萬フラン

ンクに近し又電話は近距離に線路二萬八千三百三軒延長四十八萬四千三百七十五軒ありて遠距離に六千八百八十二軒の線路と三十五萬六千餘軒の延長あり。

處誌 パリ(Paris)二七一、四〇六八北緯 四八度五〇分一五秒は セイス河の兩岸并に該河中の一島に亘りて建設せられたる都會なり、人口工業富力等に就きてはニッヨークに次げる大市にして文藝學術政治等に就きてはヨーロッパ屈指の大中心なり而て建築の宏大美麗なる街衢の廣潤清潔なる實に世界第一なり、寺院にはノートルダム、パンテオン、マドレーヌ、セントジヤベルあり、宮殿にはルーブルあり大劇場にオペラあり記念碑には凱旋門ありバンドーム并に七月の大柱あり、其他に廢兵院等あり又工業には雜貨機械衣服飾具書籍家具等の製作あり此の地は一大軍府として周邊に胸壁を繞らし附近に十六處の砲壘を有せり而して本市の近傍にはセンドニエを始とし住民の三萬人以上に達する市街八處あり。

ベルサイユ(Versaille) (五、四九八二)はパリーの南西鐵路約十八軒に位し壯

レンヌ

ナンシー

リイユ

ルーベ

觀の宮殿庭園を以て名あり、トロワ(Troyes) (五、三一四六)はパリーの南東東に當りセイスの岸に位す舊シアンパーニッ州の首府たりし處とす、レンヌ(Reims) (一〇、八三八五)は毛布製造の中心なるが百年戦争の際著はれし處なり、セダン(Sedan)はヘルドンの下流にあり、ナポレオン三世が包圍せられしを以て名あり、ナンシー(Nancy) (一〇、二五五九)はムールト河に沿へる要地にして織物を産す、センカンテン(St. Quentin) (五、〇二七八)はパリーの北東ソンム河の沿にありて綿布を製す。

リイユ(Lille) (二一、〇六九六)はフランス第五の都會にして軍府の一なるが工藝の大中心として麻布、レース、砂糖、機械等を製す、ルーベ(Roubaix) (二、四、二、三五六)はツールヌワソ (Tourcoing) (七、九二四三)と共にリイユの北東に於ける工業地にして麻布、敷物を産す、ドンケルク(Dunkerque) (三、八九二五)は海峡に沿ひ軍港商港として名を知らる、カレー(Calais) (五、九七四三)は商工業の盛なる地にして殊に交通上の要處たるを以て著はる、ブローニュ(Boulogne-sur-Mer) (四、九九四九)は繁昌なる商港たるのみならず海水浴場として名あり、

ルアーブル

ルリアン

ミアン(Amiens)九〇七五八はパリーの北ソムム河畔に位し盛に織物を産す。
 ディエップ(Dieppe)は繁榮なる海港にして漁業に従事すルアーブル(La Havre)
 (一三〇一九六)はセイヌの河口にあり當國第二の貿易港にして綿花、珈琲、
 コアを輸入し殊にアメリカとの取引盛なりルリアン(Bouen)(一一二二三六一)
 はセイヌの右岸にあり史談に富める舊地にして綿布、糖、麻を産し全國屈
 指の商港を有するがコルネイユ(Cornelle)の生地なりカン(Can)(四四七九四)
 はルアーブルの南西にありてオルヌ河に沿ひ「レース」を製す、シエルブール(O
 herbourg)(四二九三八)はコタンテン半島の北端に於ける一等軍港なり、防禦
 工事の壯大なるを以て有名なり。
 レンヌ(Rennes)七四六七六はセンマロの南南東にあり舊ブルターニュの首
 都たりし地なるが商業上有利の位置を占む、ブレスト(Brest)(八四二八四)は軍
 港の一にして造船所、兵學校等を有す、ロリアン(Lorient)(四四六四〇)はブルタ
 ニ半島の南岸にあり五軍港の一にして造船に従事す。
 ナント(Nantes)(一三二一九九〇)は海を距ると五一軒はロワール河に瀕する

ナント

がセンナゼール(St. Nazaire)(三二五八一三)と相待ちて盛に商業、造船業に従事す。
 アンジュー(Angers)八二二九九八はメーヌ河とロワール河との會點に近し工業
 稍盛なりルマン(Le Mans)(六三二七二)はサルトル河の右岸にありて家禽の取
 引盛なり、トゥール(Tours)(六四六九五)は商業活潑なるがロワールに沿へり、此
 地の近傍は往昔サラセン人が敗れし處なり、オルレアン(Orléans)(六七三一一)
 はロワールの右岸にありて史上有名の地たり、ブルジョ(Bourges)(四六五五
 一)はオルレアンの南南東にありて大砲製造所を有す。

センテテエ

クレルモン(Clermont Ferrand)(五二九三三)はアリエー、ペダー兩河の會する
 處、海拔四一〇米突にありて其の「ノートルダム」は宗教史上名あり、センテ
 テエ(St. Etienne)(一四六五五九)はリヨンの南西、海拔五三〇米突にありて
 産炭地に建ち冶金業上當國第一の中心なり、又織物を製するが殊に笹縁を
 以て著はる、リモージュ(Limoges)(八四一一二)はロワールの支流グイエンス河の上
 流にありて陶器を製す、ヴィンシー(Vincennes)は鐵泉地として有名なり。

ロシュフォール(Rochefort)(三六四五八)はシャラント河の下流に瀕し一等軍府の

ボルドー

ボルドー(Bordeaux)(二五、六六、三八)北緯四四度五〇分七秒はガロンヌ河に瀕

し葡萄酒、銘酒を輸出す、フランス第四の都會にして第三の商港なり。

トゥールーズ

トゥールーズ(Toulouse)(一四、九四、八一)はボルドーの南東にありて水利の便を有す、軍府の一なるが文藝又は商業の中心として名あり、ペジエー(Basile)

五(五、二三、一〇)はオルヌ河とミヂー運河との會する處にありて靴下を産す、

セト(Cette)(三三、二四、六)はトール海と地中海との間に於ける商港なり、モンペリエ

II(Montpellier)(七、五九、五〇)は海を距ること約十軒にありて繁華の地なり、ニ

ーム(Nîmes)(八、〇六、〇五)はモンペリエの北東、沃地に位し絹布、葡萄酒、等を

産す、アビニオン(Avignon)(四、六八、九六)はローヌの左岸にありて紙、熟皮、等を産

す、宗教史上名ある處なり、マルセイユ(Marseille)(四九、一一、六一)北緯四三度一

東經五度二三分三九秒はパリーの南南東、鐵路八百六十三軒、ローヌ河口の東四十三軒

に位し、當國第二の都會にして第一の貿易港たり、穀類、油類、等を輸入し織物、

葡萄酒、果物、等を輸出するが盛に造船、製油、製粉等に從事し有名の石輪を製

マルセイユ

ツローン

す、横濱を距る約九千六百哩なり、ツローン(Toulon)(一〇、一六、〇二)は當國第一、世

界屈指の軍港なり、港内は安全にして水底深く多數の大艦を容るるに足り

防禦的工事を始とし造船所、繫船場等の設備の完全なる他の四軍港の遠く

及ばざる所なり、カンヌ(Cannes)(三〇、四二、〇)は地中海に瀕せる海水浴場たり、

ニース(Nice)(一〇、五一、〇九)はニツァ(Nizza)とも呼ばれモナコ國に近きが冬期保

養地として名を知らる。

リヨン

リヨン(Lyon)(四五、九〇、九九)北緯四五度四分四二秒はローヌ、ソーン兩河の

合流地、海拔一七〇米突に位しフランス第三の都會にして盛に工業、商業

を營むが殊に絹業を以て宇内に著はれ又軍府として中部の巨鎮たり、グル

ノーブル(Grenoble)(六、八六、一五)は軍府の一にして酒精的飲料を製す、デジョン

(Dion)(七一、三二、二六)はアフリク山の麓に於ける商業地なり、ブザンソン(Bea-

unson)(五五、三六、二)はデジョンの東に位せる軍府なり、ベルフォール(Belfort)(三二、二五

六七)は國の東端に於ける要塞地なり、普佛戦争の際不落城として名あり。

コルシカ島

コルシカ島(Corse)は地中海第四の大島にしてジエノバの南百五十八軒

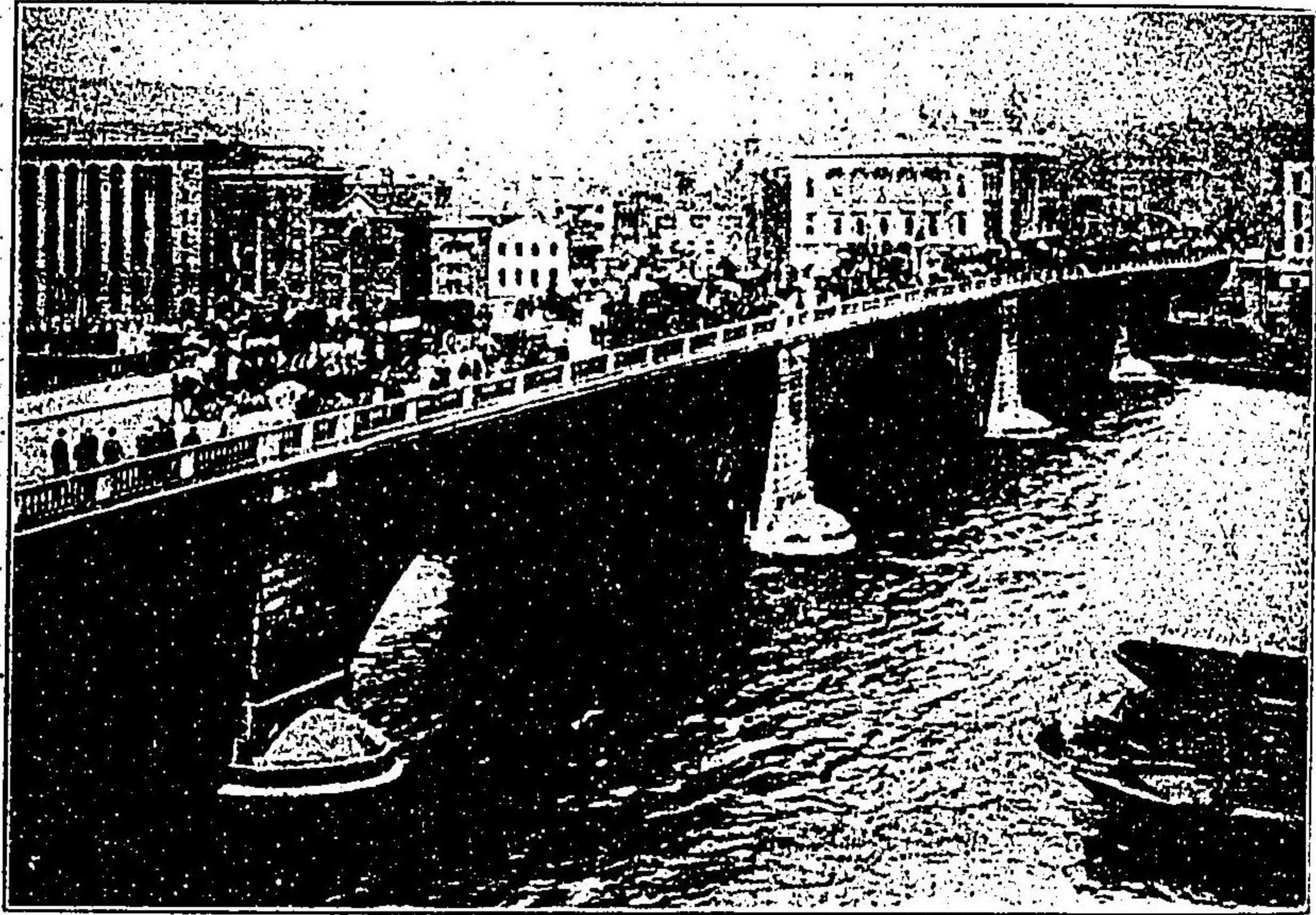
に位しイタリア領のサルゲニア島とホニファチ海峡を挟めり、地積は八千七百餘方
 料ありて長百八十三料、幅八十四料、周圍四百八十三料あり、地理的、歴史的、言語的に
 イタリア領たるべき本島の内部は山岳多くシント(二七一〇)は其の最高なるもの
 なり、土壤肥沃にして氣候の變化は少なし、住民は二十九萬五千人足らずあるが一
 七六八年以來フランスに屬す、首都アシジャシオ(Ajaccio)は西岸に位し、バスチア(Bastia)
 は東岸にあり。

殖民地 フランス人は本國の富力と兵力とに依つて各方面に向ひて有
 望の領地を擴張せしも虚名に走りて實益を收むるの策を講せざりしに因
 るならんか、ヨーロッパの多端なりし際殖民地は殆ど全滅に歸したり、然れども
 本國の富強は本業に至大の關係を有するが故に其の再興を圖るや半世紀
 にして殖民國の第三位を占むるに至れり。

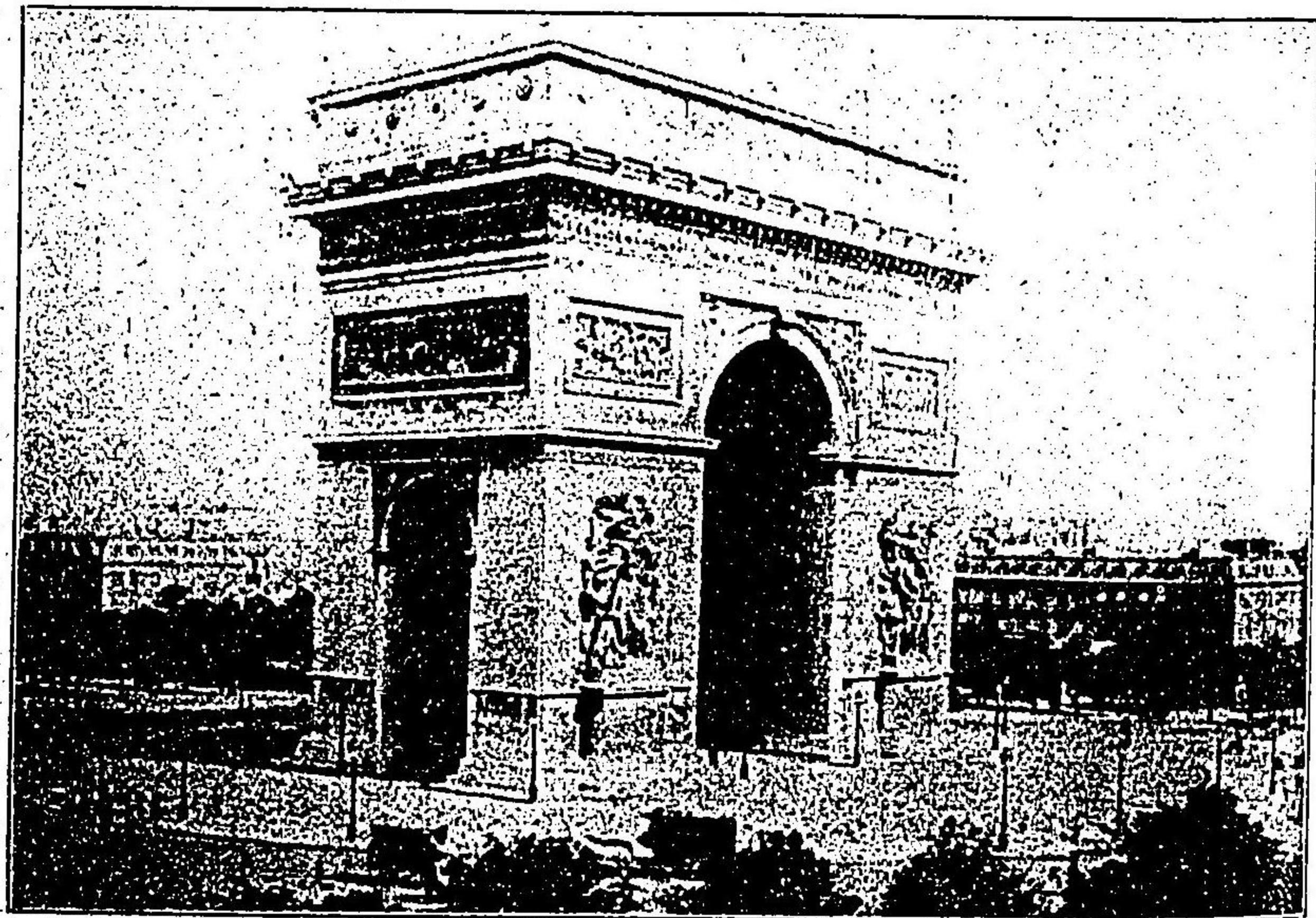
土	地	積	人	口	方料ニ付
アルジェリア		八九、〇〇〇方料	四八〇、一四七五人		五
チュニジア		一六、七四〇〇	一八二、〇〇〇〇		一一
フランス領西アフリカ		一七三、七四〇〇	一二七〇、〇〇〇〇		七
サハラ		五〇三、七四〇〇	七九、〇〇〇〇		〇、一

フランス領ロムギー		一七六、二〇〇〇	八五〇、〇〇〇〇		五
フランス領ソマリー、屬地		二、一〇〇〇	五、〇〇〇〇		二
マダガスカル		五九、二一〇〇	二六四、四六七二		四
レウニオン		一九八〇	一七三、一九二		八七
マヨット、ゴモロ		一九七八	八、五〇〇〇		四三
センポール		七			
新アムステルダム		六六			
ケルگران		三四一四			
アフリカ部		一〇二二、四七〇〇	三二六〇、〇〇〇〇		三
印度		五〇九	二七、三一八五		五四五
印度支那		六六、三七〇〇	一八九二、五九八八		二七
アジア部		六六、四二〇〇	一九一九、九一七三		二九
センピエール、ミクロン		二四二	六四八二		二七
グアダルブ		一六〇三	一五、七八〇六		九八
屬地		二六七	二、四六一二		九二
マルチニク		九八八	二〇、七〇一一		二一〇
フランス領グアイヤナ		七、八九〇〇	三、二九〇八		〇、四

世界地理提要 フランス



ロンドン橋 (London bridge)



大軍凱旋門 [パリ]

◎ モナコ

モナコ (Monaco) 公國は一方半の小邦にして獨裁の君主に依りて統治せらる土地の要部は半島を形成し六十米突の斷崖は碧海に臨み封建時代の建築は近世の邸第民屋と共に蔚鬱たる松樹の間に散見せり風景の壯麗優雅なる氣候の温暖爽快なる夙に世人の稱嘆する所なり人口は一萬五千八百八十人にして土地は狹隘なるが地味も亦佳良ならざるを以て多量の物産

アメリカ部	八、二〇〇	四二、八八一	五
新カレドニア ロロイロイテ	一、九八三	五、一八六	五
ポリネシア諸島	九六	六〇〇	三
フツナ、アロフィ	一五九	三、一〇〇	七
オセアニア領土	四一四〇
其他
南洋部	二、四二五	八、九〇〇	四
合計	一〇九八、四七〇	五一三、七〇〇	五

ロンドン市の創立者はローマ人にして有名なる **ロンドンブリッジ** (London Bridge) は現在の位置より少しく東に木造にて創設せられしが、二回の火災、數回の改造を経て十一世期に至り石橋に改められたり、爾來幾回かの修築改造ありて一千八百三十二年まで存在したり、現在の石橋は一千八百二十一年乃至三十一年の十ヶ年餘を費して建造せられたる壯大優雅なる花崗石の五「アーチ」橋なり長さは二百九十五米突、幅は二十八米突ありてロンドンの十三大橋、五級路橋の首位を占め港渠の西端、巨船湖航の終點に當れり。

エトワール凱旋門 (Arc de Triomphe de l'Étoile) は一に大軍凱旋門と稱せらる、同種の建築物中の最大なものにして高さは四十五米突に達す、一千八百六年を以てナポレオン一世之を創始しルイフィリップ王の代に至りて完成せられたり、形式の森嚴にして裝飾の壯烈なる實に稀有の美術建築物なるが、殊にリワード (Rude) の作に係れる彫刻「デメント」(Descent) は世俗の「ライルセイエーズ」(La Marseillaise) と呼びて大に賞讃するものなり。

を興ふる能はざるは勿論なれども油、橙、檸檬、燕香、飲料等を輸出せざるに非ず、有名なる「カシノ」(Casino) は眺望絶佳の高地にありて外觀の壯麗なる人目を驚かせり、誰か知らん此の裡に一攫千金の暴富を望む慾奴の集會し居らんとは。 *モーカイ・バカヤ*

● イギリス

境域 **ブリタニア群島** は大西洋中にありてヨーロッパの北西部に位置し大ブリテンとアイルランドとの二大島并に數多の島嶼 **ヘブライド** (Hebrides) **ネー** (Ney) **諸島**、**シヘトランド** (Shetland) **諸島**、**マン** (Man) **島**、**ブレン** (Bren) **諸島**、**ガール** (Gair) **諸島**、**オク** (Oke) **諸島**、**シヤリ** (Silly) **諸島**、**ワイ** (Wigh) **諸島**、**海峡諸島** (Channel Islands) より成れるが北西は大西洋に臨み東は北海に瀕し南はイギリス海峡 (English Channel) 即ち **マン** **シ** 海を隔ててフランスに對せり、地積は三十一萬四千餘(三一四三三九)方呎ありて我が帝國の三分二強に當れり。

氣候 群島の周圍に於ける海水が比較的に高温なるに依り氣候は概々温和にして變化少なく殊に濕潤を覺ゆ、アイルランド(北緯五十二度の平均温

地積

度は合衆國の北緯三十八度下に於ける平均温度に等しく、同じ平均温度を有するスコットランドの北部とアメリカ洲とを比較すれば緯度に二十度の差あり、而して冬季の寒氣はヘブライツ諸島よりテムス河畔に烈し、又群島には曇天多く濃霧屢起りて咫尺を辨ずる能はざることあり、殊にロンドン、マンチエスター、バーミンガム等の如き市街の地には黄霧の爲に空氣の流通を妨げらるると云ふ、又降雨は西部、南西部并に山地に多く、降雪は海濱に稀にして積雪を見るは山岳地方に限れり。

沿革。ブリテン島は西紀前五十四五年の頃ケイザルの兵を蒙りしことあり、西紀四四九年の頃アンケル、サクソンの如きもの渡來してアリストン人を伐ちしが爾後七國の分立あり、八二七年エグバートの時統一し、一〇六六年にはノルマンゲール公に征服せられ、一五三六年に至りてエールスはイン格蘭ドに合はせられたり、而してスコット人、ピクト人等の據りしスコットランドは一六〇三年に及びて亦イギリスに合し、一七〇年に始まりしアイルランド征伐は遂に該國をして一八〇一年大ブリテンに連合せしめ所謂大ブリテン・アイルランド聯合王國の成立を見るに至れり、當國の殖民地的膨脹は十七世期の頃より始まれるが十八世期にはアメリカに於ける大殖民地を失ひしが如きことあるも、次世期には亦印度半島地方に其

黄霧

人口

の勢力を伸張せるあり、之を要するに幾多の年月を経て初めて統合せるブリテンア群島は其の地積大なるに非ざるも而もイギリス人が代々辛苦經營せる結果空前の大ブリテン帝國を出現せしめたり。

住民 人口は一九〇六年に於て四千四百七十七萬七千人と計上せられしが一九〇一年には四千二百萬足らずにして一方千三百三十二人の割合なり。

地	積		人口		方料 二付
	男	女	男	女	
イン格蘭ド、エールス	一五、一〇一、五	一五、七二、八六一三	一六、七九、九二三〇	三、二五二、七八四三	二、二五
スコットランド	七、八七四八	二、一七、三七五五	二、二九、八三四八	四、四七、二一〇三	五、六
アイルランド	八、三三九二	二、二〇、〇〇四〇	二、二五、八七三五	四、四五、八七七五	五、三
マン島	五八八	二、五、四九六	二、九、二五六	五、四、七五二	九、三
海峡諸島	一九六	四、五〇八〇	五、〇、五三八	九、五、六一八	四、八九
兵士海員		三六、七七三六	三六、七七三六		
合計	三、一、四三三、九	三、〇、五四、〇七二〇	三、二、四三三、六一〇	三、七、四一九七、六八二七	一、三三二

人口の増殖

人口の増殖は一九〇二年に四十八萬餘人、次に五十一萬餘人、一九〇四年に四十七萬餘人なれば八十五年を経る毎に二倍する割合なり、而して外

世界地理提要 イギリス

言語

國に往住するものは合衆國(一、二、三、七〇)、イギリス領北アメリカ(八、二、四、三、七)、南アフリカ(二、六、三、〇、七)、オーストラリア、新ゼーランド(一、五、一、三、九)等の地方を主とし約二十六萬人あるが外國人等を合はせば四十六萬人に近く一八一五年より一九〇五年に至る往住者は一千七百五十一萬餘人なり、又來住者は一九〇五年に於て約二十萬五千人を見たり。

言語に就きては國人の多數はイギリス語を用ふれども、約百八十五萬人はケルト語を話すと云ふ、又宗教に就きては各派の新教信者を合はせば三千五百萬人以上に達すべきが信據すべきものはアイルランドの統計のみにして其の三百三十一萬人許はローマ公教徒にして五十八萬はイギリス派、四十五萬はプレスビテリア派、六萬はメソヂスト派に屬せり。

教育は盛にして全國に普及せるが殊にスコットランドを以て然りとす、初等教育は無月謝にして強制的なるが通學生は約五百萬人ありて經費は一年一千一百萬ポンドを下らずと云ふ、中等以上の教育機關も具備し大學はイングランドに八、エールズに一、スコットランドに四、アイルランドに二、合計

教育

十五校あるがオクスフォード(Oxford)、ケンブリヂ(Cambridge)殊に名あり。

政治 政體は立憲君主國にして君主は大ブリテン・アイルランド聯合王國(United Kingdom of Great Britain and Ireland)王及海外ブリチン領君主、信教擁護主、印度皇帝と稱す、法律の制定は國會の議決に依り、皇帝は之に對して認可權を有せり、國會は上下の二院より成れるが、貴族院議員は世襲(三八)、イギリス大僧正(二)、ロンドン、ダラム、キンチェスターの三僧正、上席僧正(二)、丁年以上の貴族(五一八)、及一會期毎に改選せらるるスコットランドの貴族(一六)、任期終身のアイルランド撰出貴族(二八)等、總計五百九十一人あり、衆議院議員は「カウンチー」(County)、「ボロー」(Borough)及大學を代表するが其の數は六百七十八にして七年を以て任期とす、選舉權は被選舉權の如く二十一歳に達して始めて之を得るが、家屋、土地を所有するか或は一年の借家料十ポンドを拂ふものならざるべからず、内閣は首相兼大藏卿、大法官兼國璽卿、内璽卿、財務卿、樞密院議長、軍令部長官、内務、外務、殖民、軍務、印度の五國務卿、アイルランド卿、同政務長官、スコットランド政務官、ランカッスル參事官、地方行政監督長官、商

務、農務、教育の各長官、郵便總監等より組織せらる。地方は行政上若干の、カウ
ンチー」とカウンチーボロー」とに分たれ、イングランド及ウェールズに六十二
「カウンチー」六十七、カウンチーボロー」ありてスコットランドには三十三、カウ
ンチー」あるがアイルランドには四州ありて卅四、カウンチー」に細分せらる。
兵備に就きて兵役義務は廿一歳を以て始まり十二年間繼續するが現役
の外に豫備的の兵四種あり、豫備(Army Reserve) ミリチア(Militia) ヨーマンリー
(Yeomanry) 義勇兵(Volunteer) 之なり而して一九〇六—〇七年の現役兵は約二
十六萬人にして之に豫備、其の他を合はせば戦時に七十七萬餘人を得べき
が印度軍を合算せば百十二萬餘人と成る。又聯合王國は十五軍區に分たる
が更に之を細分して六十七管區とす。

海軍は世界第一にして新式兵艦は戦艦五十九隻、八十二萬三千噸、甲裝巡洋
艦三十五隻、四十一萬六千六百噸、一等巡洋艦廿一隻、二十萬一千九百五十噸、
二等巡洋艦三十六隻、十七萬一千六百八十噸、并に三等巡洋艦三、三六四〇、水
雷砲艦一、四六二〇、水雷驅逐艦五、六〇〇〇、潜航艇二十六隻、水雷艇七十隻、等

の四百三十八隻、百七十六萬噸、足らずにて馬力は二百八十三萬を超え、十ツ
ンチメートル以上の砲門二千九百九十八、水雷發射管九百六十四、乗組員十萬
九千餘人あり、舊式戦艦は二十五隻、十八萬六千噸あるが此の他に約二百五
十隻の艦船を有す、又建造中のものを記せば戦艦一隻、甲裝巡洋艦三隻、水雷
驅逐艦沿岸水雷驅逐艦十二隻、潜航艇十隻等あり。

財政に就きて一九〇六年三月に終れる會計年度に於ける歳出入は各二
億一千八百八十七萬ポンドを超えしが歳入は關稅(三四百萬ポンド)、飲料稅(三
〇)所得稅(三二)、印紙稅(二二)、郵便(一六)其の他より得られ歳出は主として軍事
(六二)、民政(二八)、國債(二八)、徵稅(一九)等に充てられたり、又國債の七億八千九百
萬ポンドに達せんとす。

生業 生業は各方面に向ひて發達して當國の富力をして偉大ならしめ
たるが、殊に商工は世界第一にして實に空前の盛況を呈せり、而して其の原
因たるや石炭と鐵とに富めるを第一とし、製作品の販路に當れる殖民地の
饒多なるを第二とし、世界各部の間に於ける交通上の機關たる船舶を十分

高は九億七千萬ポンドを超えたり。

年次	輸 入	輸 出		輸 入 計
		イギリス産	外國殖民地産	
一九〇五	五、六五〇一、九九一七	三、二九八一、六六一四	七、七七七、九九一三	九、七二六一、六四四四
一九〇四	五、五一三六、二二二四	三、〇〇八一、七八九七	七、〇三二、一九一八	九、二二五〇、一九三九
一九〇三	五、四二六〇、〇二八九	二、九〇八〇、〇一〇八	六、九五七、三五六四	九、〇二九七、三九六一
一九〇二	五、二八三九、二二七四	二、八三四二、三九六六	六、五八一、四八一三	八、七七六三、〇〇五三
一九〇一	五、二一九九、〇一九八	二、八〇〇二、二三七六	六、七八四、一八九二	八、六九八五、四四六六
一九〇〇	五、二三〇七、五一六三	二、九一一九、一九九六	六、三二八、一七五八	八、七七四四、八九一七

次に一九〇四年及翌年に於ける外國品の輸入高并にイギリス産貨物の輸出高を地方別にして示さんに

國 名	輸 入		輸 出	
	一九〇五	一九〇四	一九〇五	一九〇四
ロシア	三三三六、六	三二四〇、三	八一六、九	八二三、〇
スエリヤ	九八二、八	九七〇、七	五一九、五	四七七、〇
ノルゲ	五九五、五	五六四、五	三三四、一	二九六、三
ダンマルク	一五六〇、七	一六一〇、二	四二二、九	三六六、八

國 名	輸 入		輸 出	
	一九〇五	一九〇四	一九〇五	一九〇四
ドイツ	三五八〇、〇	三三九四、四	一九七〇、四	二五〇一、三
エストレルライヒロマン	一四八、九	一八一、七	一八五、七	一八九、四
オランダ	三五四八、一	三四六九、〇	九六八、四	八二〇、〇
ベルジック	二七七五、一	二七五三、六	一、〇〇九、六	九〇五、二
フランス	五三〇七、二	五一一〇、七	一、六一四、三	一五二五、四
エスパーニア	一三八五、九	三三六七、二	四二四、六	四三三、八
ポルトガル	二九三、〇	二八六、四	二二四、八	二〇六、八
イタリア	三三二、五	三三二、五	八八九、三	八三七、一
ギリシア	一三二、八	一二六、四	一一七、〇	一四七、八
トルコ、クレタ	一四四、一	一六一、五	三〇四、三	三〇〇、六
ロマーニア	一六九、〇	三二二、七	一一三、七	一〇五、六
其他
ヨーロッパ	二、四二九九、三	二、三八一、五	一、〇九九七、七	一、〇〇〇一、五
合衆國	一、一五五七、八	一、一九二二、八	二、三九二、六	二〇一九、八
メキシコ	八八、一	五九、五	一八八、〇	一八七、〇
中央アメリカ	一二九、九	一二八、二	一一四、三	一〇〇、三
キューバ	一六、三	一八、〇	一八八、六	一八二、九
ブラジル	八一〇、九	六二二、八	六六一、八	五九八、八

世界地理提要

イギリス

アルヘンチナ	二五八五、三	二三六二、七	一五二二、一	二二三〇、二
ウルグアイ
パラグアイ
ペルー	二二六、七	二二七、二	一一〇、二	一四四、六
チレー	六〇六、八	五四二、三	四四六、二	三二五、九
其他
アメリカ	一、六一〇五、四	一、六〇〇六、九	五八二七、二	五〇一五、五
支那	二三四、〇	二七六、二	一三三、七	八八〇、九
日本	一八六、〇	二三四、九	九六六、二	四八八、九
フィリピン	一八八、九	二二二、八	二二二、一	一四一、五
オランダ領東印度	二二二、九	一三五、七	三五三、六	三三七、四
アフアトル	四〇五、一	四一三、九	三六四、八	四三四、一
エジプト	一四九七、六	一四三〇、二	七八四、九	八二七、三
其他
他地方	三三二〇、四	三三八三、六	四八三三、〇	三八六〇、三
外 國	四、三七一五、一	四、三二〇二、〇	二、一六三、七九	一、八八七、七三
ヨーロッパ	一七四、七	一六五、三	二九五、一	三二二、三
北アメリカ	二六二一、一	二二三四、二	一二五〇、八	一一三三、四

貿易品

主要貿易品を示せば輸入に穀類六四百萬ポンド、綿花五二、肉類三九、獸毛二五、木材二三、タバコ二、砂糖二〇、化學品及藥品一七、絹布一三、果物一一、鐵一、生獸一〇、毛織物九、八、カウチュー、九、六、茶九、三、皮革九、二、種子八、五、銅八、二、熟皮八、〇、鐵器及器械七、九、等あり輸出に綿布八二、鐵器二六、石炭二六、器械二三、毛織物一九、化學品一四、綿絲一〇、鐵七、三、麻布六、三、毛絲六、二、獸毛五、八、船舶

西印度南アメリカ	三〇〇、六	二七〇、九	二七五、〇	二六七、三
ガイストラリア	四〇五、一、八	三六三三、二	二三四五、二	二三六八、八
新ゼーランド	三六〇六、二	三六四七、三	四二九九、六	四〇六四、一
東印度	六八三、六	六二八、四	三二六、四	三二二、九
海峽殖民地	四四七、八	四一三、五	一三六、八	一四二、一
セイラン	三三、六	四六、七	三七、七	四三三、六
香港	五五四、一	五四五、六	一六三六、〇	一七五三、三
南アフリカ	二二六、九	二四五、七	二八二、七	二七五、三
西アフリカ
其他
イギリス領	一、二七八六、九	一、二〇〇一、九	一、一三四三、八	一、一一九三、八
總 計	五、六五〇二、〇	五、五一〇三、九	三、二九八一、七	三、〇三七一、一

を呈するに過ぎざるが頗る農牧に適せり而して氣候に關しても亦前記の線は境界を示し、主風たる西風を受くる西部には雨量多く海洋的なれば冬季は稍、温暖にして夏季に清涼を覺ゆ。

本島は歴史的又は政治的にスコットランドとイングランドとを二部に分たる、スコットランド(Scotland)は北部を占め、王國の二割五分に當れる地積を有し、長四百五十五軒、濶は五十一軒乃至二百八十一軒ありて始原時代の成生に係れるが、海岸は鋸齒狀を呈し、ファース(Firth) 或は ローン(Lochs) 湖に富み地勢上ハイランズ(Highlands) 高地セントラルローランド(Central Lowlands) 中央低地 サウサーンアップランド(Southern Uplands) 南高地に分かるが、其のハイランズは北東より南西に走り平均海拔四六〇米突を有し山地と泥炭地との混成にして耕種に適するもの少なし而してファースオブモレー(Firth of Moray) よりファースオブローン(Firth of Lorn) に達する凹處即、グレンモリア(Glenmore) はハイランズを二分し北西部には峽灣、峽湖多く南東部には四百軒に亘るグランピアン山脈 最高峰 ベネネ (一三四一) あり又、ヘンライズ 諸島、オークネイ

スコットランド

イングランド
スコットランド

諸島、シエトランド 諸島等は地勢上ハイランズに屬す、其のローランドはハイランズの南、ファースオブファース と ファースオブクライド との間にては僅に六十軒の幅を有するのみ、平野と丘陵 最高七二〇米突とより成れる殷富の地なり、アップランド はハイランズに似たる所あるも峽湖少なく山岳著しからずして チェビョット(Cheviot) 山脈は南を限れり。

イングランド、エールズ(England-Wales) は大ブリタニア島の中央以南の地を占め三方は海に面し北はスコットランドと境し不規則なる三角形を爲せり、地質上二部に分かる、長さは六百七十六軒最大幅五百七十九軒ありて地積は聯合王國の四割八分に當れり其の西及北西の部は舊期の岩石より成りて凸凹多く鑛床に富みて工業に適し、其の南東及東の部は比較的新しい時代の岩石より成り起伏著しからずして鑛物質の燃料を缺けるも農牧の地たるを失はず、要するに甲部は工業勃興の地にして十九世紀以後のイギリスと云ふべく、乙部は王國第一の都會を包有するに拘らず、過去の觀念各種の建築等に富める歴史的のイギリスなり、カンバーランド(Cumberland)

地方は溪湖の美なると製鐵の盛なるとに依りて知られ、ペンニン鍾山(Pennine Chain)地方は小山彙の集りより成りて南部のピーク(Peaks)は風色に富めるが有名なる四大煤田(ノーサンバーランド、ダーラム、ノルンバーク、ダラム)の間においてトリアス期の地層より成り牧業に適しサバーン、トレント等の流域に屬する中央平野はペンバ、大ウース、ティムスの灌域たる東平野に連なり主として新地層より成れる農牧の地にして肥沃のキールド(Wald)を包有し四列の白堊的丘脈はコーンワル(Cornwall)半島の地峽部に向ひて走行せるが該半島は採鑛耕種漁獲等に從事す、エールス(Wales)のデ(De)河の下流并にセバーン(Severn)の谷地に依りてイングランドより隔てられカーチリア山脈(最高峯スノードン)は殆ど全土に亘り海岸にはカーチガン(Carraig)灣を始とし屈折少なからずして良港に乏しからず而して南部は煤炭に豐にして工業盛なれども北部は耕種養畜に從事して舊時の状態を維持しケルト派に屬するウェルシュ(Welsh)は百萬人に達すと云ふ。

テムズ河

テムズ河(Thames)河はウース、トレント等の諸流より成れる河灣にして幅は一千六百米突乃至十一料に達し流域は二萬五千三百方料あるが、航河、運河に依りてメリシー(Mersey)、セバーン、ティムスと連絡し、北岸に於て航行に障礙多きを見る、ウース(Use)河はスモール(Swale)、ウール(Ure)の合流より成り南東に流ること九十六料、グレート(Goole)の下流約十三料にしてトレントと會す、ヨーク以下七十二料の間は大船の航行に適せり、支流はワレル(Wharfe)、ホース(Aire)、デルメント(Derwent)を以て主とす、トレント(Trent)河はビッドルフォール(Biddulph Moor)に起り南東及北東に流ること二百四十一料、トルの西二十四料の地に於てウースに合す、支流は右岸にソー(Sow)テム(Thame)、ソー(Sour)、デボン(Devon)を受け左岸にブライイト(Blythe)、ドール(Dove)デルメント(Derwent)を有す、ゲンヌボロー(Gainsborough)以下四十料の間は巨船を浮ぶに足れり。

テムズ(Thames)河は大ブリテンの最要河流にして其の南部を南東東に流るるがテムズ即、イシス(Isis)、チャルム(Churn)、ホルム(Horn)、リーチ(Lench)の四源ありてゴツナルド(Cotswold)山脈の南東面に發す、南東に向ひてオクスフォードを過ぎ西來のケンネット(Kennet)を容れて又方向を轉じ東方に曲りて非ンゼル、イートン、テッサン、グロンドン、グリンニチ、ウール、非チ等を過ぎて廣き河灣を爲し遂に北海に入る、長四百五十料ありてイギリス諸流の首位を占むるが或は三百四十六料を以て第二位にありとす、潮汐は海より百二十九料のラッチングトンに達すと云ふ、流域は

一萬二千(一萬五千)餘方料あり、河幅はロンドン橋附近に於て約三百米突なるも、其河口のホイストラーブル(Whistable)ノールネムポイント(Rainess Point)間にては二十九料あり、本流はレックレード(Lechlade)まで航行し得べきが、八百噸以上の巨船はロンドン橋の下流約十料のブラックチャール(Blackwell)に至るべく、該橋附近はブール(Pool)と稱せられ、ロンドン橋、ブラックチャール間はポート(Port)と呼ばれる、而して下流は漸次砂泥の妨害する所と成らざるに非ざるも、ロンドンに對しては缺くべからざる大動脈なり、支流の主なるものは左岸にサンドルム(Windrush)チャネル(Cherwell)チャーム(Thame)コルン(Colne)リー(Lea)ローヤング(Leding)あり、右岸にタムネア、ロチン(Tot-den)タムント(Darent)モーレ(Mole)ロンド(St Wandie)メドウェイ(Medway)あり。

セムーン河

セムーン(Severn)河は北エールムに於けるグリーンリムモン(Pinlinton)の東面に發し、東、北東、東南東等の方向に流れ、遂に南してグローススターに達するや、河灣を爲すに至る、流域は一萬一千餘方料あり、長は約三百九十料なるが、エルシプール(Whishpool)まで二百九十料間は舟運の便あり、主なる支流はタルム(Terne)上下のフボン(Avon)チャーム(Teme)ワイ(Wye)なりとす。

沼湖に就きてスコットランドに於けるものは百十七方料の面積を有するロモンド(Lomond)長三九料の外にカトリン(Katrine)長一四料、オー(Awe)長三七料、ネム、ミン、シ、三、二料等あるが、殊にネム(Ness)は長三十七料に達し、カレドニアン(Caledonian)運河を有するを以て名あり。

ロンドン

イングランド ロンドン(London)(四六八、四七九、四)は北緯約五十一度に位し、テムス河(ロンドン橋に於けるものは百十七方料の面積を有するロモンド(Lomond)長三九料の外にカトリン(Katrine)長一四料、オー(Awe)長三七料、ネム、ミン、シ、三、二料等あるが、殊にネム(Ness)は長三十七料に達し、カレドニアン(Caledonian)運河を有するを以て名あり)に於けるもの第一流の都府なり。

トテンハム(Tottenham)一〇一五二九、ワルトハムストウ(Walthamstow)(九、五二二五)、レイトン(Leyton)(九、八八九九)、ウェストハム(West Ham)(一九、九九七)、ホルンシー(Hornsey)(七、二一〇五六)、キルンズデン(Willesden)(一一、四八一五)、シロイドン(Soydon)(一四、七〇〇四)等も亦ロンドンの近傍にあり、シアーネス(Sheerne-

フライトン

是はテムスの河灣を防禦す、チャタム (Chatham) (四一〇〇〇) は ミッドエー の河口に近くして海軍の造兵廠あり、カンターベリー (Canterbury) (一一五〇〇〇) は ストール 河畔の舊地なり、ドーバー (Dover)、フォルクストン (Folkestone) 及 ニューハム (Newhaven) は海峡渡航の要衝に當れり、フライトン (Brighton) (一二二七一八三) は海水浴地として名あるが、ハスチングス (Hastings) (六五五二八) も亦海峡に瀕し風色に富めり、リーディング (Reading) (七二二一四) は ケンネット と テムス との會流地にありて、ビスケット を以て名高し、キンズル (Windsor) は テムス の南岸に位し王宮の所在地とて有名なり、ポーツマス (Portsmouth) (二〇一九七五) 北緯五〇度四八分一三秒 西經一度六分一二秒 は風色の美を以て名を知らるる ワイト島 を前面に控え東に スピットヘッド、西に ソレント を備ふる長六杆幅三杆の一大軍港を有するが造艦防禦等に關する設備は偉大なりと云ふ、サザンプトン (Southampton) (一〇四九一二) は渡洋船の出入する處なり、プリムマス (Plymouth) (一六〇〇〇) は海峡艦隊の根據地にして、デボンポート (Devonport) (六九六七四) ストーンハウス (Stonehouse) と共に三市 (Three towns) と稱せらるが造兵廠砲臺

ポーツマス

サザンプトン

プリムマス

等を有せり。

ワイト (Wight) 島は ソレント 海峡を以て ハンブリア と隔り イギリス 海峡中に位す、東西三十七杆幅二十一杆、地積三百七十六方杆あるが白垩質の丘陵は二百餘米突に達する處あり、地味肥沃にして海上に浮べる花果の籃たるの實あり。

ブリストル

バース (Bath) (五〇〇〇〇) は アボン (Avon) 河畔にあり古來有名なる鐵泉地なり、ブリストル (Bristol) (三四三二〇四) は同名の灣に接せずして セバイン の支流たる アボン 河に瀕す、大商港の一にして銅、鉛、砂糖を輸出す、ストックポート (Stockport) (七八八七一) は マンチェスター の南東にありて綿布を産す。

ワルバリー ハンプトン (Wolverhampton) (九四五六) エスト プロムキッチ (West Bromwich) (六五一一七) ワルサル (Walsal) (八六四四〇) は バーミンガム の近傍石炭及鐵の産地にあり、バートン (Burton on Trent) (五〇三八六) は ビール を産す、ハンリー (Hanley) (六一五二四) は バス ラム (Burslem) 等と共に陶器の産地にあり、ダービー (Derby) (一二二二〇七) は デルセント 河畔にありて絹布、綿布、レース等を製するのみならず鐵道交通の要地なり、ノッティンガム (Nottingham) (二五一一六七) は トレント 河畔にありて、レース、綿靴、足袋等の製造盛なり、レスター (Le-

ダービー

ノッティンガム

レスター